

調査位置図 縮尺1/400(A3)

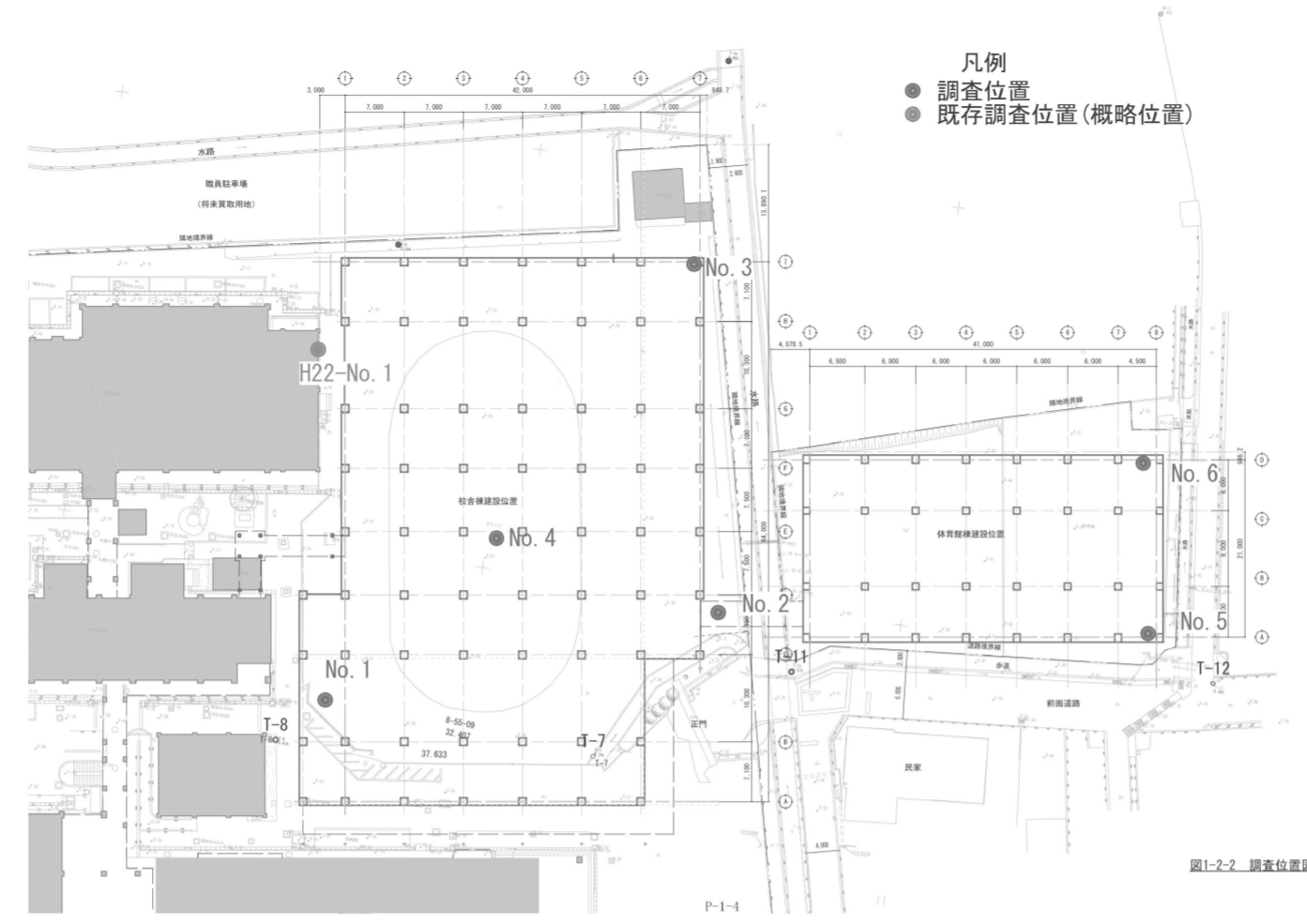
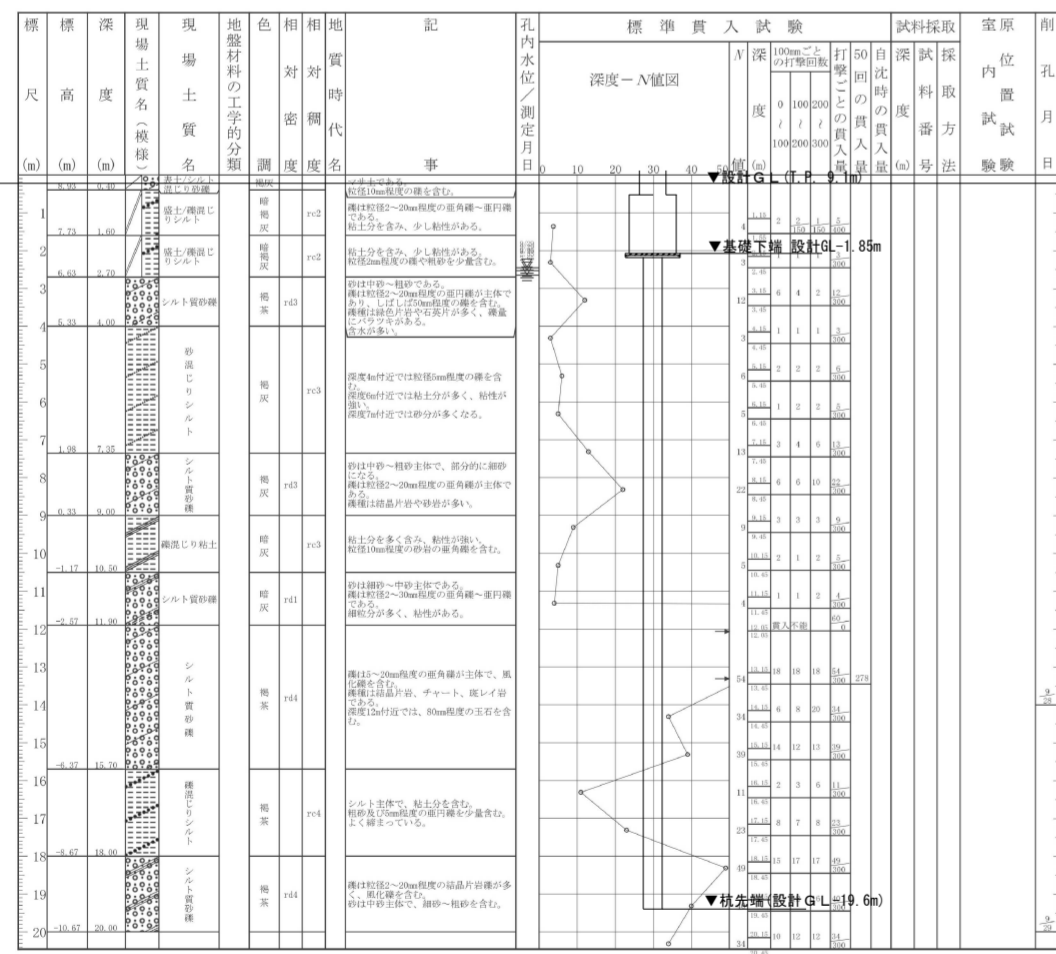


図1-2-2 調査位置図

土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

Table with project details for No. 2: 調査名, 調査位置, 調査期間, 発注機関, 調査業者, 主任技師, 調査機, ボーリング, 総孔長.

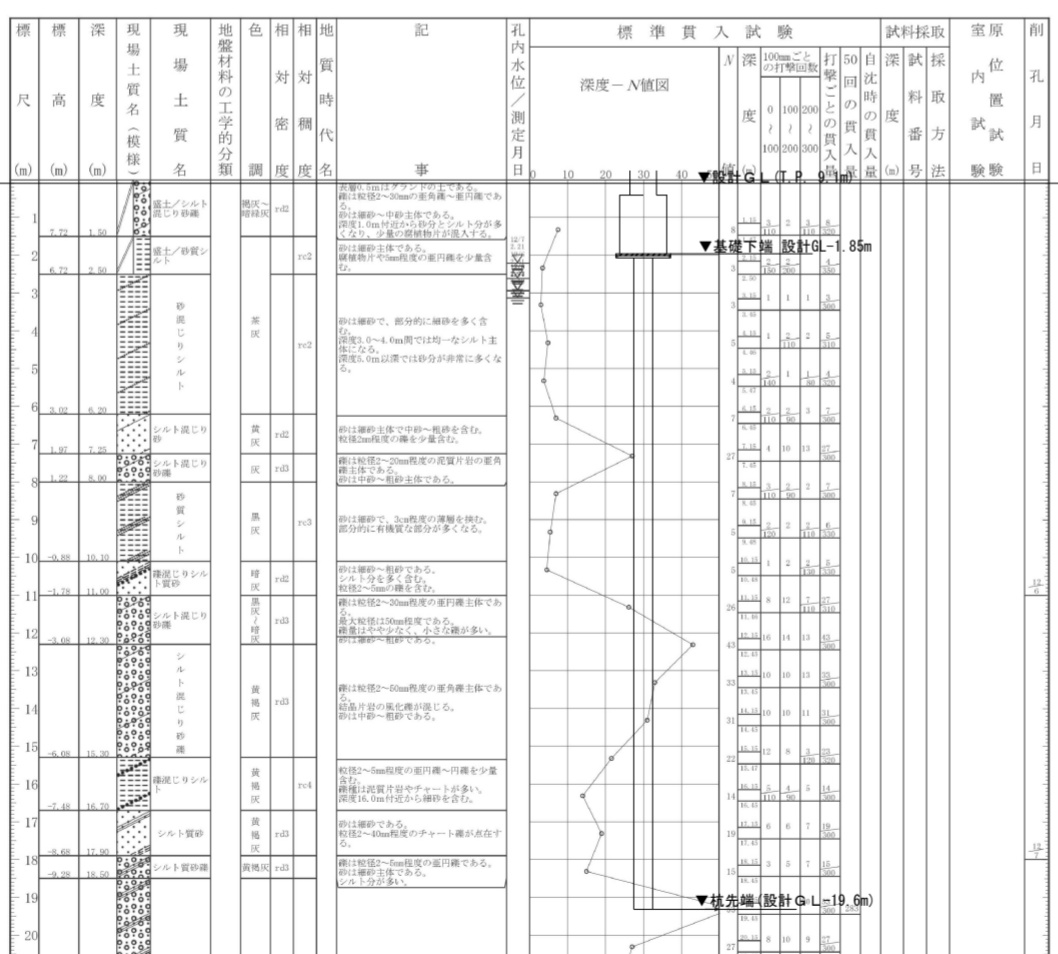
Table with borehole data for No. 2: 標準貫入試験, 試料採取, 室内試験, 地盤材料の工学的分類, 地質時代, 地質記, 孔内水位.



土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

Table with project details for No. 3: 調査名, 調査位置, 調査期間, 発注機関, 調査業者, 主任技師, 調査機, ボーリング, 総孔長.

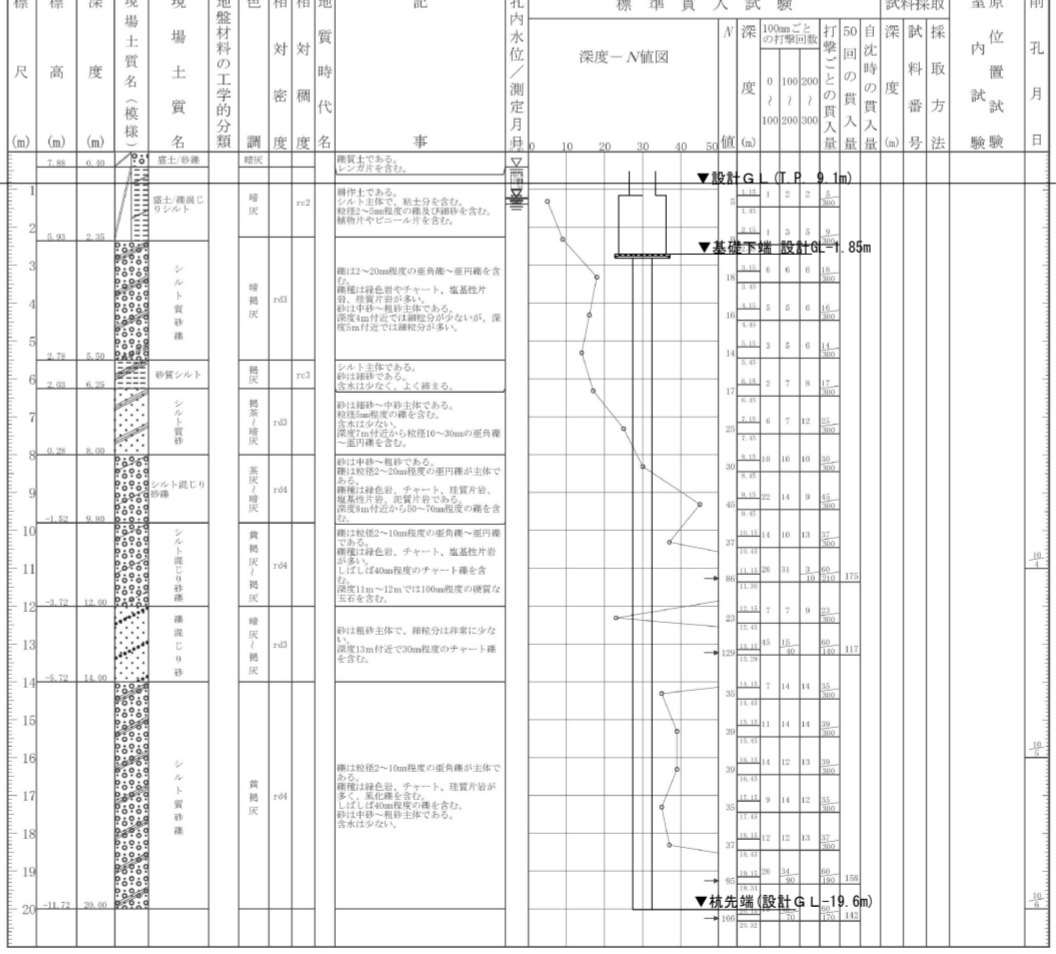
Table with borehole data for No. 3: 標準貫入試験, 試料採取, 室内試験, 地盤材料の工学的分類, 地質時代, 地質記, 孔内水位.



土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

Table with project details for No. 5: 調査名, 調査位置, 調査期間, 発注機関, 調査業者, 主任技師, 調査機, ボーリング, 総孔長.

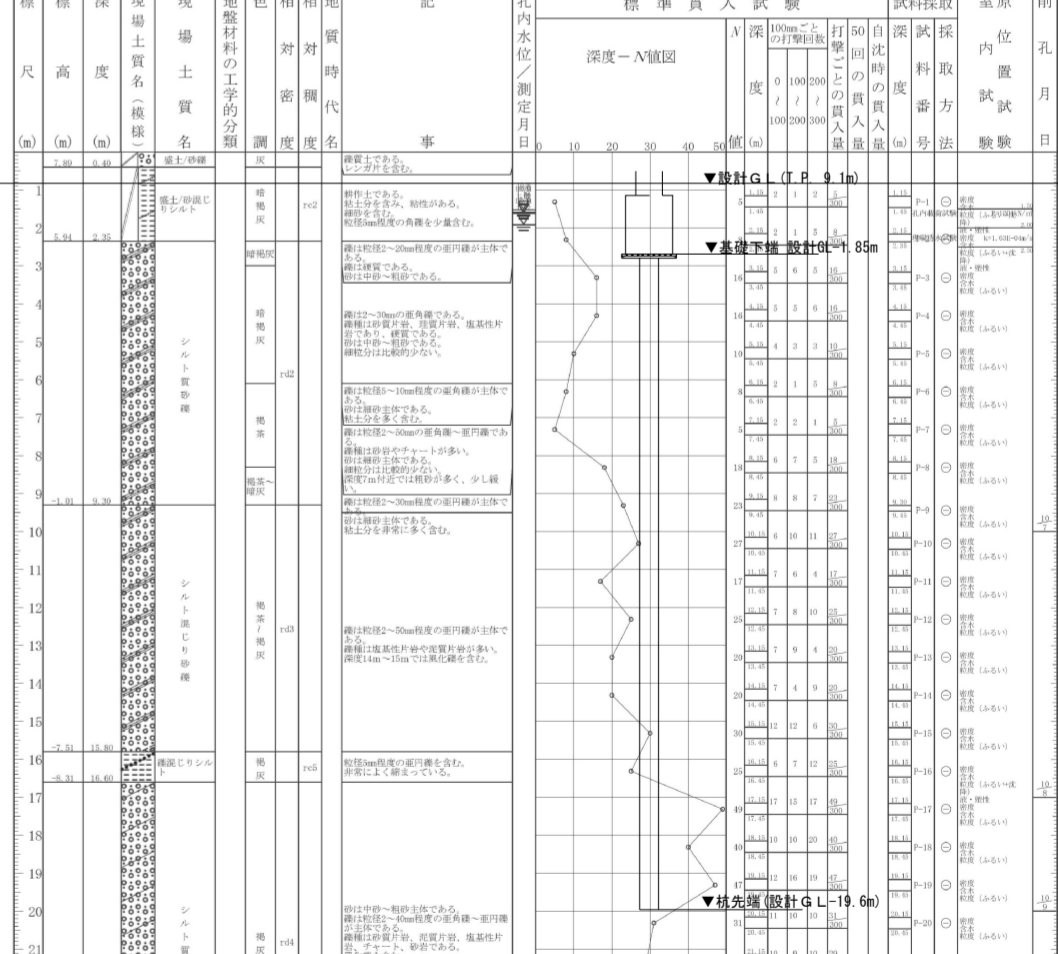
Table with borehole data for No. 5: 標準貫入試験, 試料採取, 室内試験, 地盤材料の工学的分類, 地質時代, 地質記, 孔内水位.



土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

Table with project details for No. 6: 調査名, 調査位置, 調査期間, 発注機関, 調査業者, 主任技師, 調査機, ボーリング, 総孔長.

Table with borehole data for No. 6: 標準貫入試験, 試料採取, 室内試験, 地盤材料の工学的分類, 地質時代, 地質記, 孔内水位.



特記:

徳島県土整備部営繕課

工事名 徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事

名称 ボーリング柱状図

図番 S-1

NO SCALE

年月

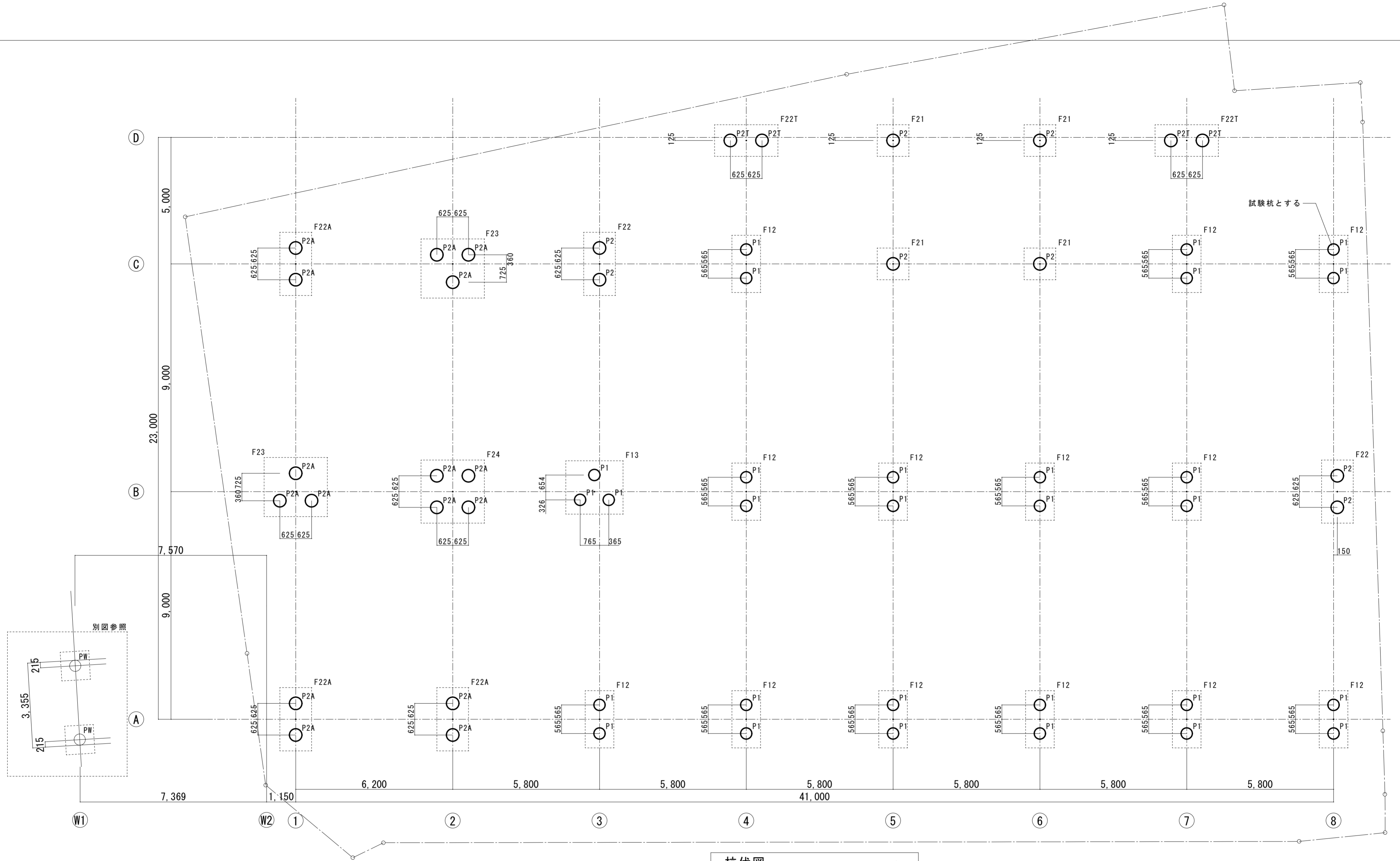
立花構造設計事務所 代表取締役 立花 薫

株式会社 剛 建築事務所 代表取締役 速水 可次

徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録

TEL 0886-22-0883 第102935号

FAX 0886-22-0885



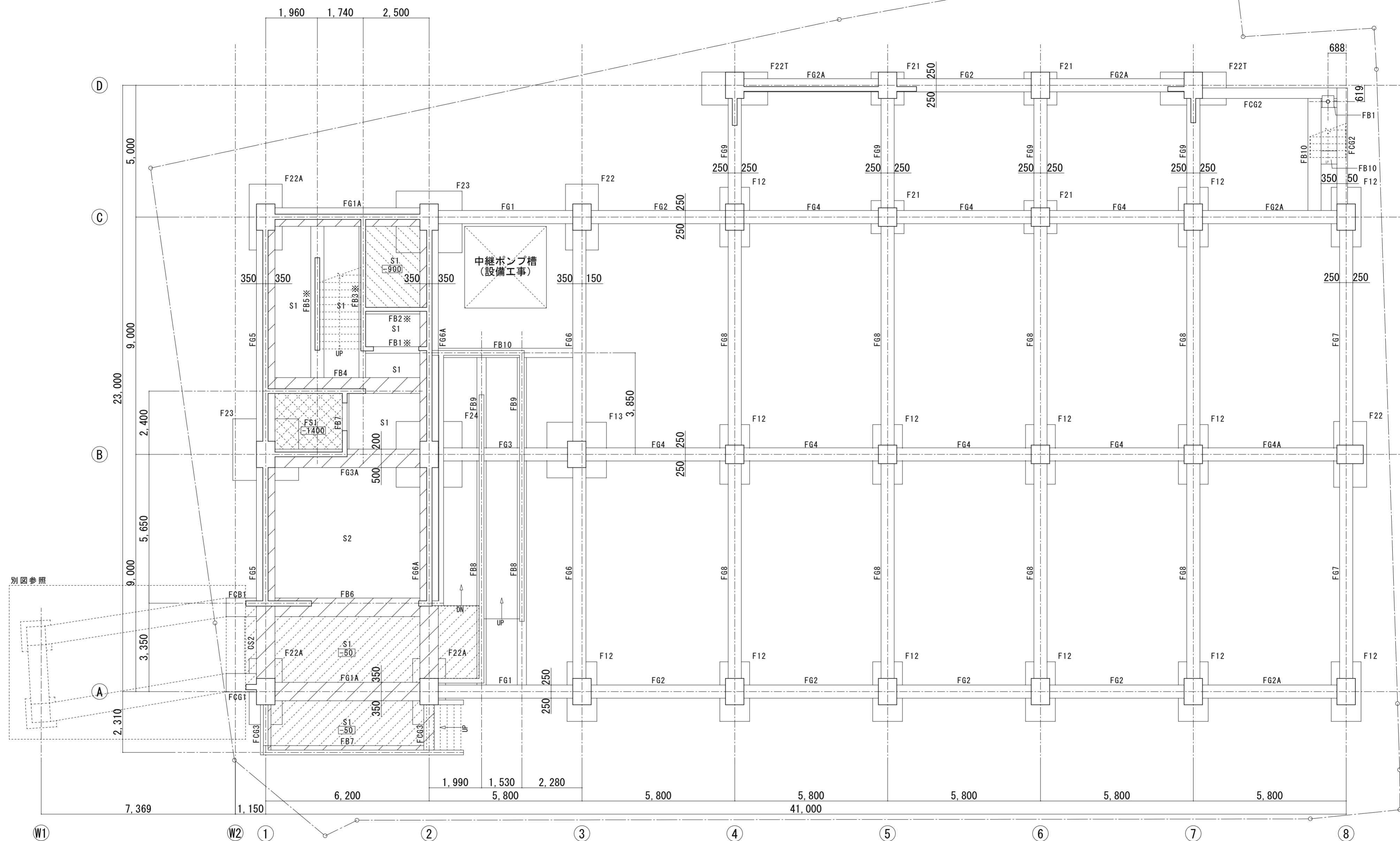
杭伏図 1/100

※特記無き杭頭レベルはGL-1600とする。
 ※設計GL=T.P.+8500mとする。

立花構造設計事務所
 二級建築士 立花 薫
 構造設計一級建築士 立花 薫

特記 :

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	杭伏図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 2	S = 1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	



基礎伏図 1/100

特記無き地中梁天はGL-300とする。
 □内数値はFLからのスラブレベルを示す。
 特記無き壁厚はW18とする。
 ※付小梁の天端レベルはFL-30とする。
 ▨は地中梁天端をスラブ天端まで増打とする。

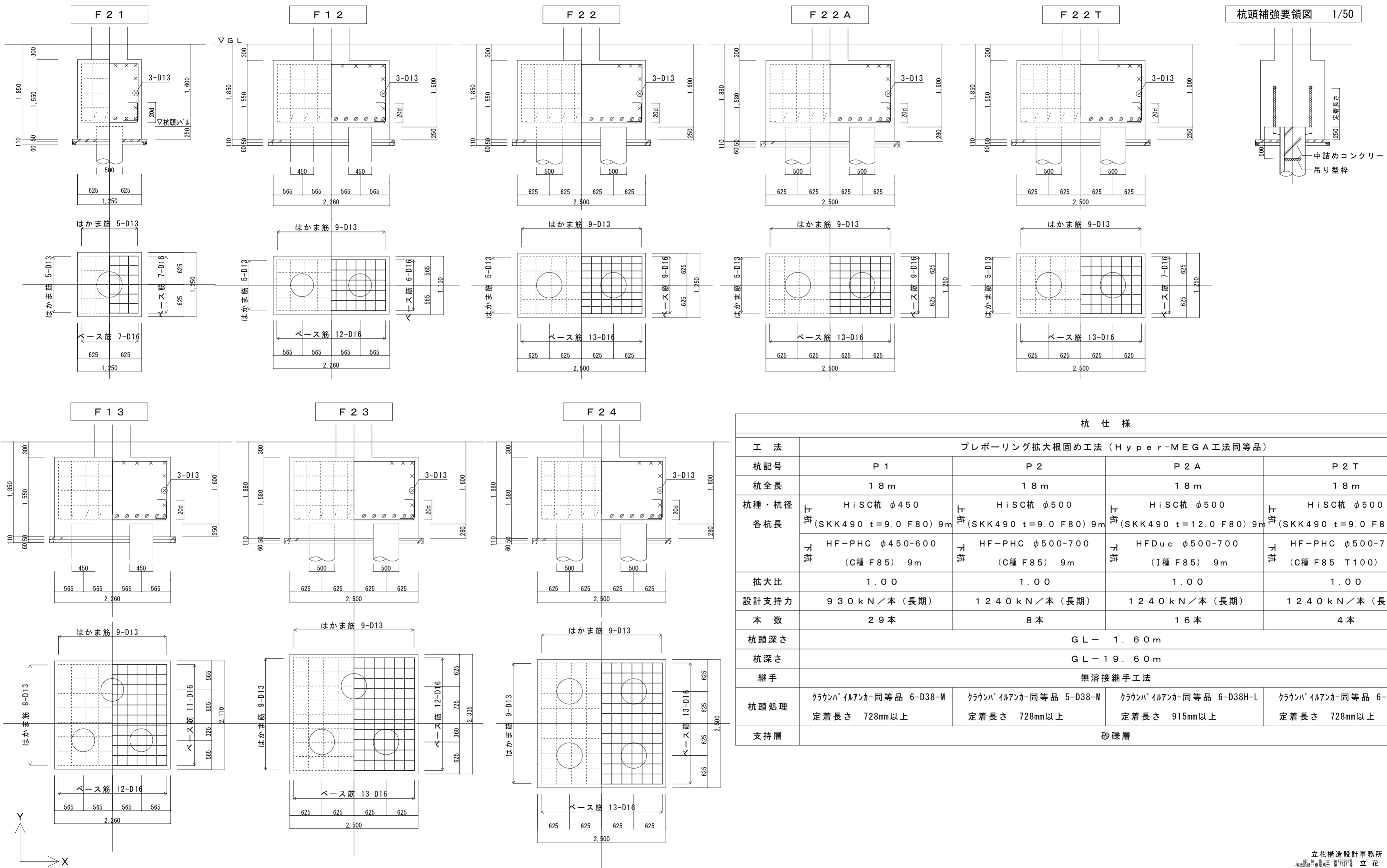
床ハッチ凡例 (数値はスラブ天端)

□	FL-30
▨	FL-50
▩	FL-900
▧	FL-1400

立花構造設計事務所
 代表取締役 立花 薫
 二級建築士 登録番号 第 102935 号
 構造設計 登録番号 第 5243 号

特記 :

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	基礎伏図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S-3	S=1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	



杭仕様				
工法	プレボーリング拡大根固め工法 (Hyper-MEGA工法同等品)			
杭記号	P 1	P 2	P 2 A	P 2 T
杭全長	18 m	18 m	18 m	18 m
杭種・杭径	HiSC杭 φ450	HiSC杭 φ500	HiSC杭 φ500	HiSC杭 φ500
各杭長	上杭 (SKK490 t=9.0 F80) 9m 下杭 HF-PHC φ450-600 (C種 F85) 9m	上杭 (SKK490 t=9.0 F80) 9m 下杭 HF-PHC φ500-700 (C種 F85) 9m	上杭 (SKK490 t=12.0 F80) 9m 下杭 HFDuc φ500-700 (I種 F85) 9m	上杭 (SKK490 t=9.0 F80) 9m 下杭 HF-PHC φ500-700 (C種 F85 T100) 9m
拡大比	1.00	1.00	1.00	1.00
設計支持力	930 kN/本 (長期)	1240 kN/本 (長期)	1240 kN/本 (長期)	1240 kN/本 (長期)
本数	29本	8本	16本	4本
杭頭深さ	GL - 1.60 m			
杭深さ	GL - 19.60 m			
継手	無溶接継手工法			
杭頭処理	クラウンパイルアンカー同等品 6-D38-M 定着長さ 728mm以上	クラウンパイルアンカー同等品 5-D38-M 定着長さ 728mm以上	クラウンパイルアンカー同等品 6-D38H-L 定着長さ 915mm以上	クラウンパイルアンカー同等品 6-D38-M 定着長さ 728mm以上
支持層	砂礫層			

特記 :

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所 連水可次
名称	基礎リスト 1			徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
図番	S - 4	S = 1:50	年月	TEL 0886-22-0883 第 102935 号
				FAX 0886-22-0885

立花構造設計事務所
 代表取締役 立花 薫
 建築設計 立花 薫

基礎梁リスト 1/50

幅止め筋 D10-@1000 とする

符号	FG1	FG1A	FG2	FG2A		FG3	FG3A	FG4	FG4A	FG5	FG6	FG6A	FG7	FG8	FG9
位置	全段面			※外端	中央・他端	全段面			全段面			全段面			
▼GL															
断面															
B×D	500x1,200	700x1,200	500x1,200	500x1,200		500x1,200	700x1,200	500x1,200	500x1,200	700x1,200	500x1,200	700x1,200	500x1,200	500x1,200	500x1,200
主筋	上端筋	5-D25	16-D29	5-D25	9-D25	5-D25	15-D29	6-D25	8-D25	16-D29	9-D25	19-D32	8-D25	7-D25	10-D25
	下端筋	5-D25	12-D29	5-D25	9-D25	5-D25	15-D29	6-D25	8-D25	12-D29	7-D25	12-D32	8-D25	6-D25	10-D25
スターラップ	D13-□-@200	D16-□-@100	D13-□-@200	D13-□-@150		D13-□-@200	D16-□-@100	D13-□-@200	D13-□-@150	D16-□-@100	D13-□-@200	D16-□-@100	D13-□-@200	D13-□-@200	D16-□-@100
腹筋	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10		6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10
備考	カットオフ長さは220mm以上 ※外端とは A通C通は8通側 D通は4通側及び7通側														

基礎小梁リスト 1/50

幅止め筋 D10-@1000 とする

符号	FB1	FB2	FB3	FB4		FB5		FB6		FB7	FB8			FB9	FB10		
位置	全断面			端部	中央	端部	中央	連続端	他端・中央	全断面	連続端	中央	他端	連続端	他端・中央	全断面	
▼1FL																	
断面																	
B×D	250x600	250x1,020	350x1,020	600x1,200		600x1,370		700x1,200		350x700	350x900			350x900	400x900		
主筋	上端筋	2-D19	2-D19	3-D22	5-D22	5-D22	6-D22	6-D22	9-D22	5-D22	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	5-D19	4-D19	4-D22
	下端筋	2-D19	2-D19	4-D22	5-D22	7-D22	6-D22	14-D22	5-D22	5-D22	4-D19	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	4-D22	
スターラップ	D10-□-@200	D10-□-@200	D10-□-@200	D13-□-@200		D13-□-@200		D13-□-@150		D10-□-@200	D10-□-@200			D10-□-@200	D13-□-@200		
腹筋	2-D10	4-D10	4-D10	6-D10		8-D10		6-D10		2-D10	4-D10			4-D10	4-D10		
備考																	

基礎片持梁リスト 1/50

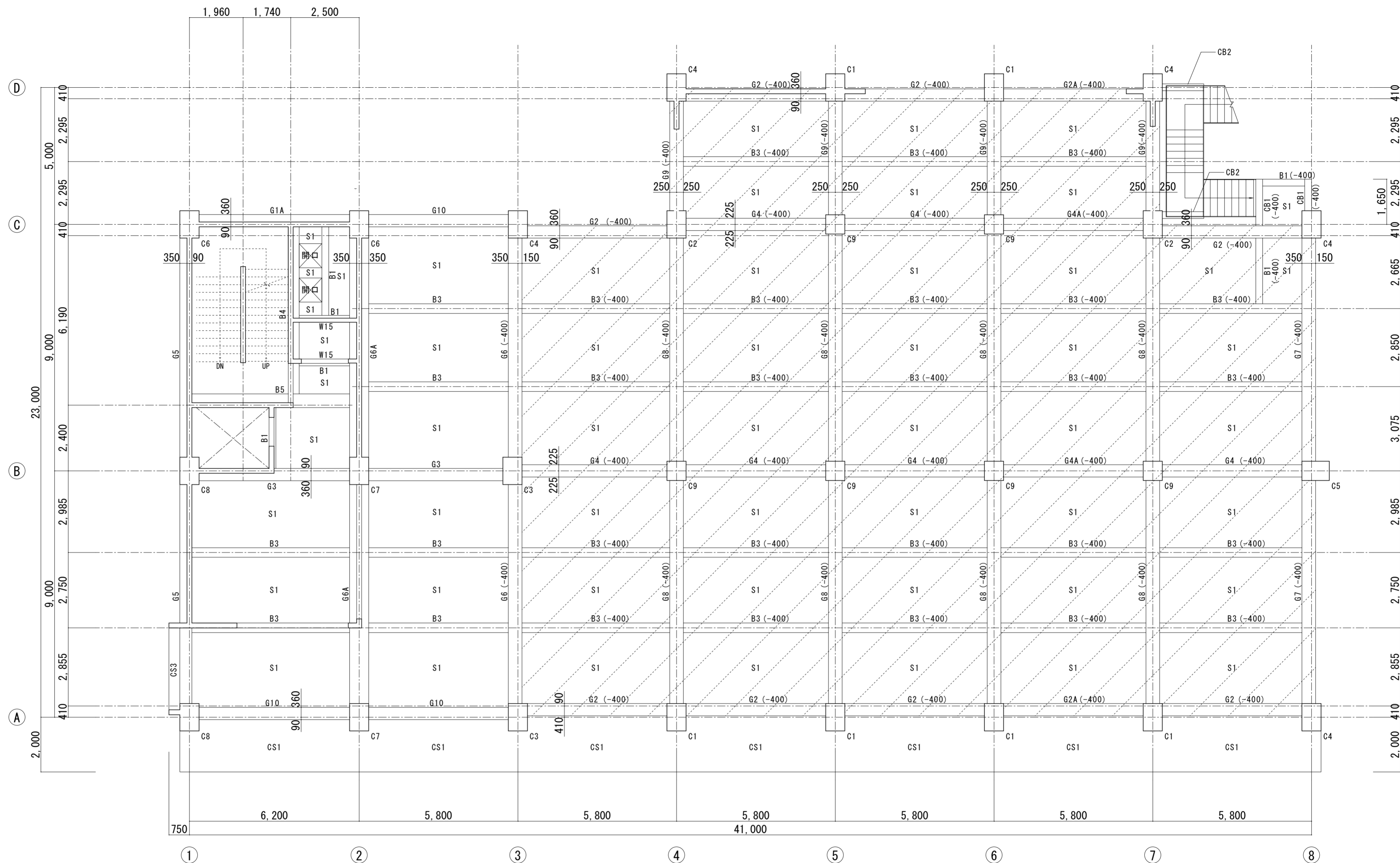
幅止め筋 D10-@1000 とする

符号	FCG1	FCG2	FCG3	FCB1	
位置	全段面				
▼GL					
断面					
B×D	700x1,200	500x1,200	400x900	700x1,200	
主筋	上端筋	8-D22	5-D25	5-D22	9-D22
	下端筋	5-D22	5-D25	5-D22	5-D22
スターラップ	D13-□-@150	D13-□-@200	D13-□-@200	D13-□-@150	
腹筋	6-D10	6-D10	4-D10	6-D10	
備考					

構造特記事項			
鉄筋コンクリート	基礎	$F_c = 27 \text{ N/mm}^2$	$S_L = 15 \text{ cm}$
	上部	$F_c = 27 \text{ N/mm}^2$	$S_L = 18 \text{ cm}$
土間コンクリート		$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$	$S_L = 15 \text{ cm}$
捨てコンクリート		$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$	$S_L = 15 \text{ cm}$
基礎、躯体における鉄筋工事・コンクリート工事は、(社)公共建築協会発行 公共建築工事標準仕様書(建築工事編・令和4年度版)による。			
鉄筋	SD295 (D10~D16)		
	SD345 (D19~D32)		
継ぎ手は、圧接継ぎ手とする。(D19以上) 圧接完了後の試験は超音波探傷試験とする。			
劣化対策	徳島県立学校施設長寿命化計画(平成30年)に則り、長期使用構造等とするための劣化対策として、		
	コンクリートの水セメント比を50%以下とし、かつ、鉄筋に対するコンクリートの最小かぶり厚さを1cm上乘せすること。		
梁貫通孔補強材	建設技術評価品をしようすること。		
	使用にあたってはそれぞれの部分についてメーカーによる構造計算書を提出し監督員の承諾を得ること。		

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫

特記:	工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
	名称	基礎リスト2			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
	図番	S-5	S=1:50	年月	TEL 0886-22-0883	第102935号
					FAX 0886-22-0885	



1階柱壁・2階梁伏図 1/100

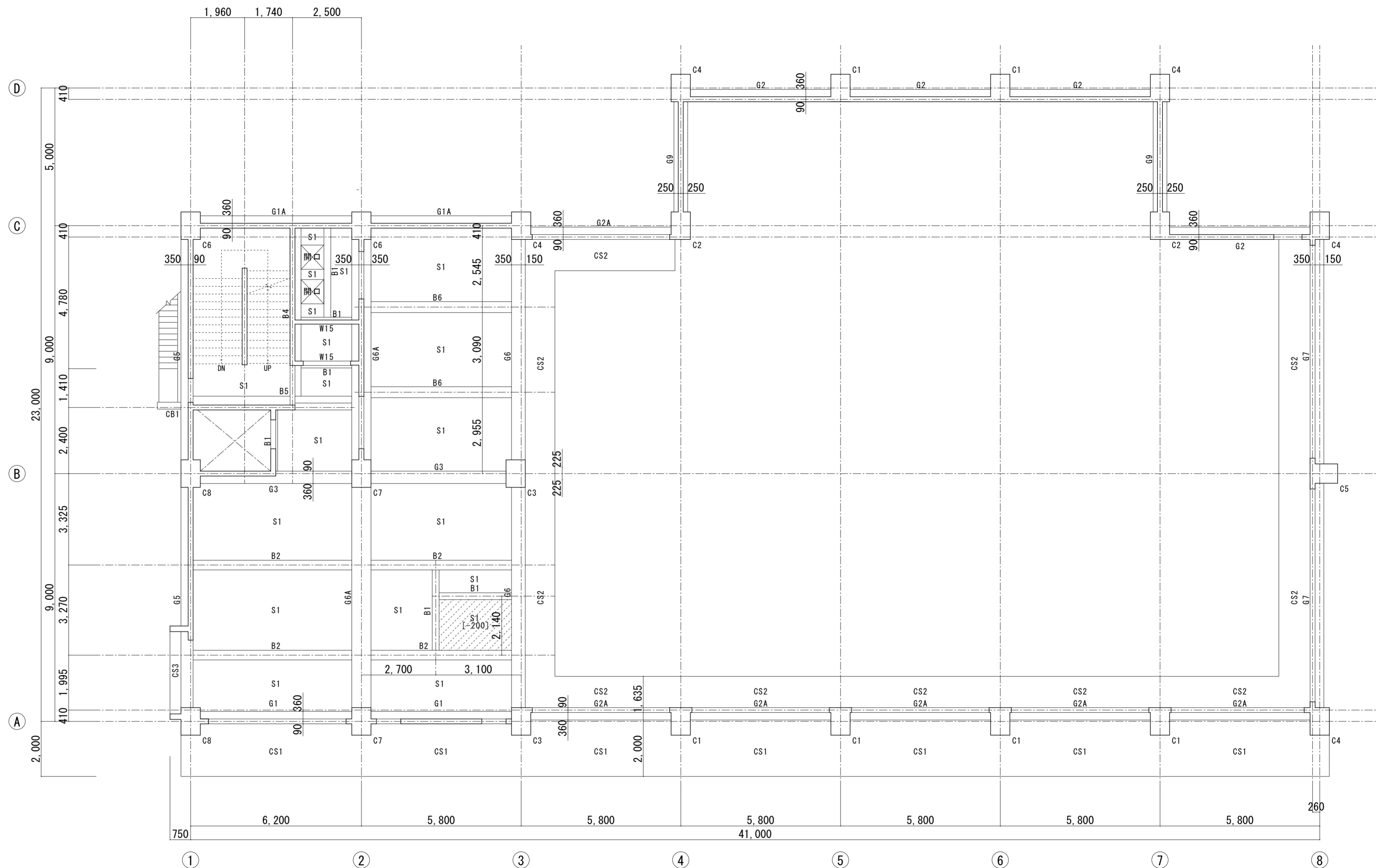
- ※特記無き限り、以下とする。
1. 一般梁天端レベル及びスラブレベルはFL-30とする。
 2. ()はFLからの梁天端レベルを示す。
 3. 特記無き壁厚はW18とする。

床ハッチ凡例		スラブ天端 FL-30
		FL-400

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫

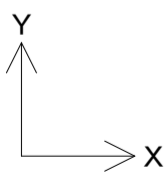
特記 :

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	1階柱壁・2階梁伏図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S-6	S=1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第102935号
				FAX 0886-22-0885	



2階柱壁・3階梁伏図 1/100

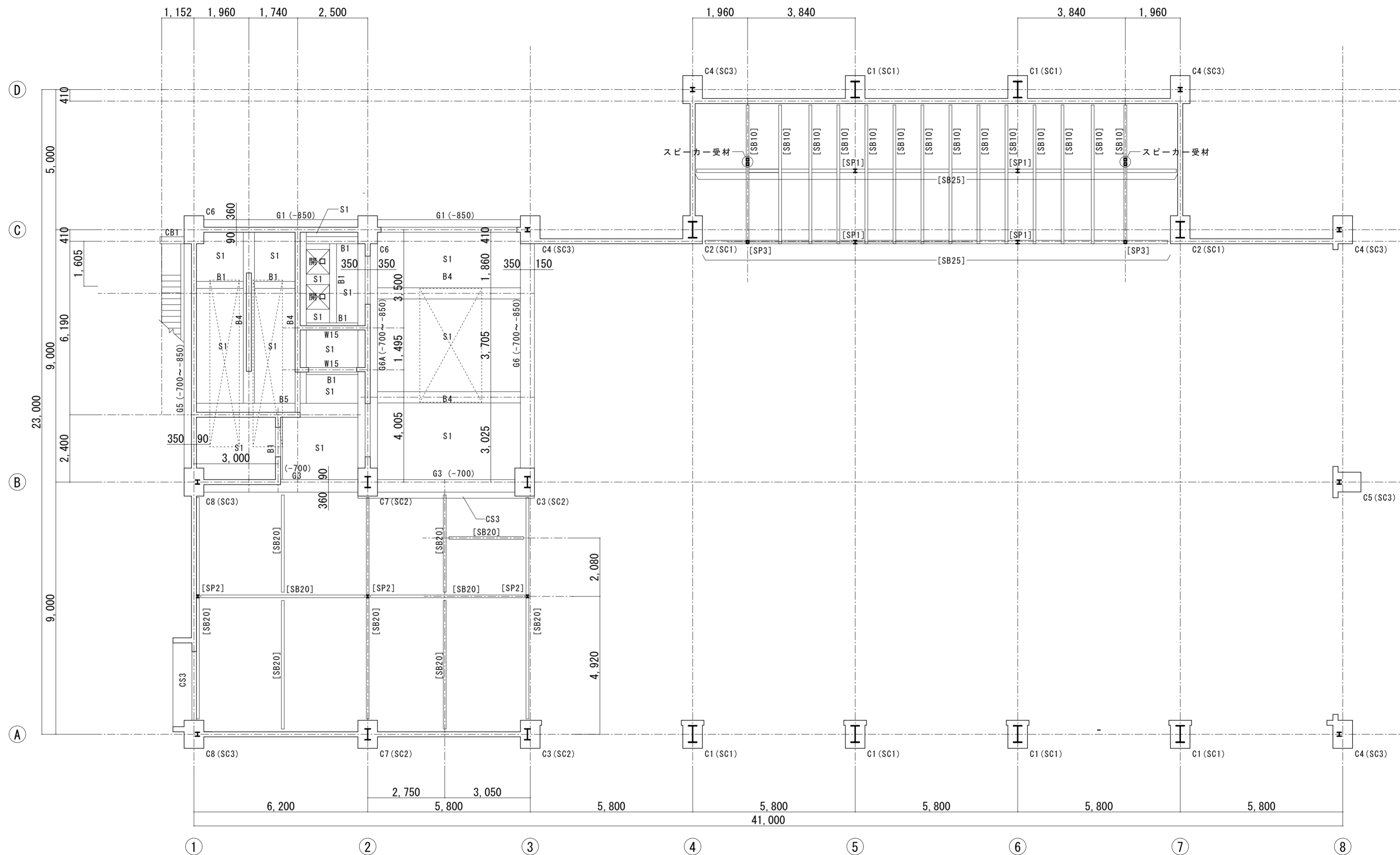
※特記無き限り、以下とする。
 1. 一般梁天端レベル及びスラブレベルはFL-30とする。
 2. 特記無き壁厚はW18とする。



特記：

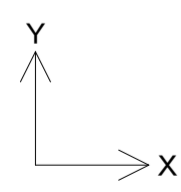
立花構造設計事務所
 二級建築士 立花 薫
 構造設計一級建築士 第5243号

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	2階柱壁・3階梁伏図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S-7	S=1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第102935号
				FAX 0886-22-0885	



3階柱壁・R階梁伏図 1/100

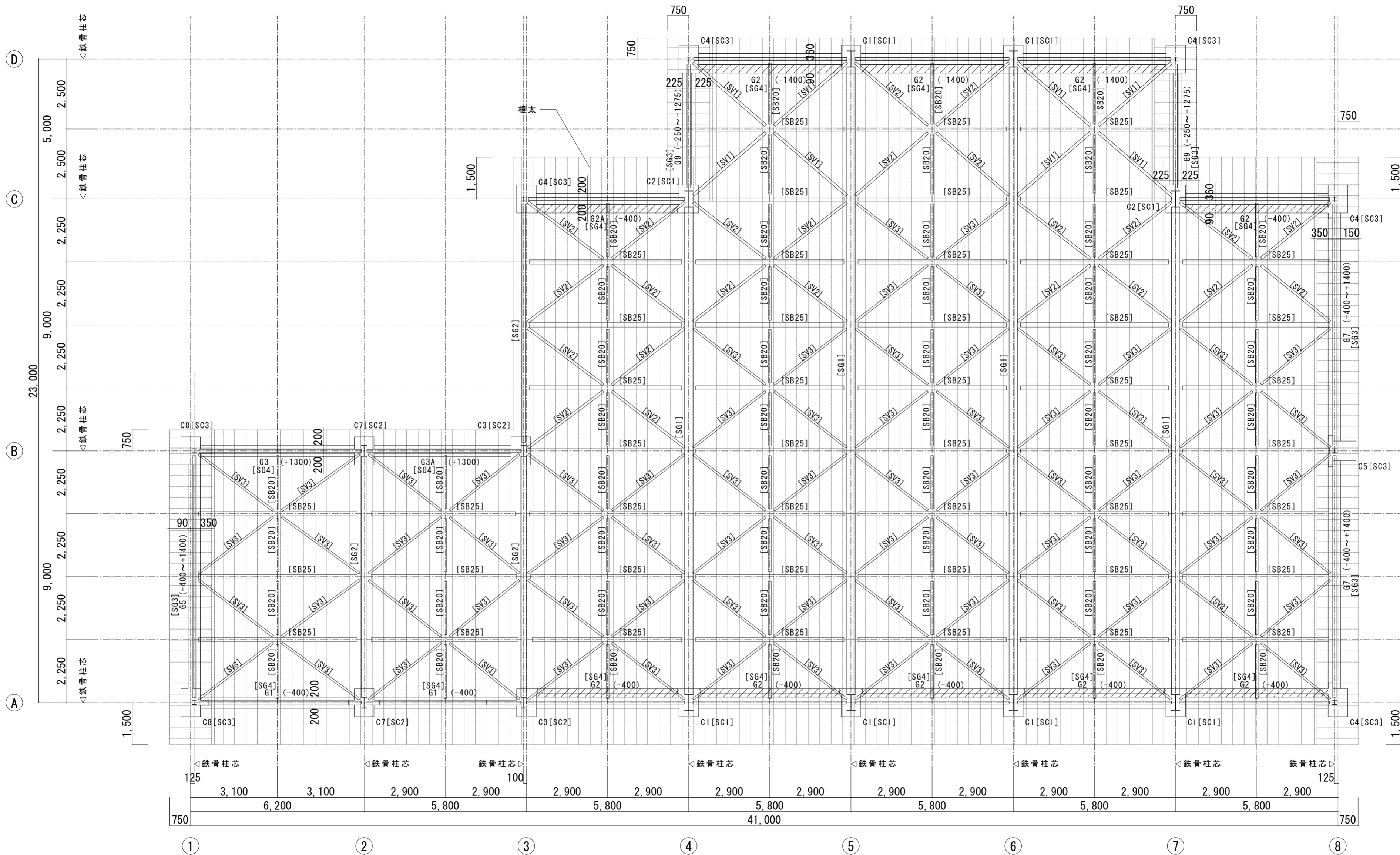
- ※特記無き限り、以下とする。
1. 一般梁天端レベル及びスラブレベルはFL-30とする。
 2. ()はFLからの梁天端レベルを示す。
 3. 特記無き壁厚はW18とする。



特記：

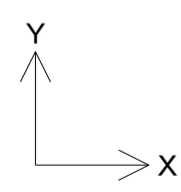
立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	3階柱壁・R階梁伏図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S-8	S=1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第102935号
				FAX 0886-22-0885	



屋根梁伏図 1/100

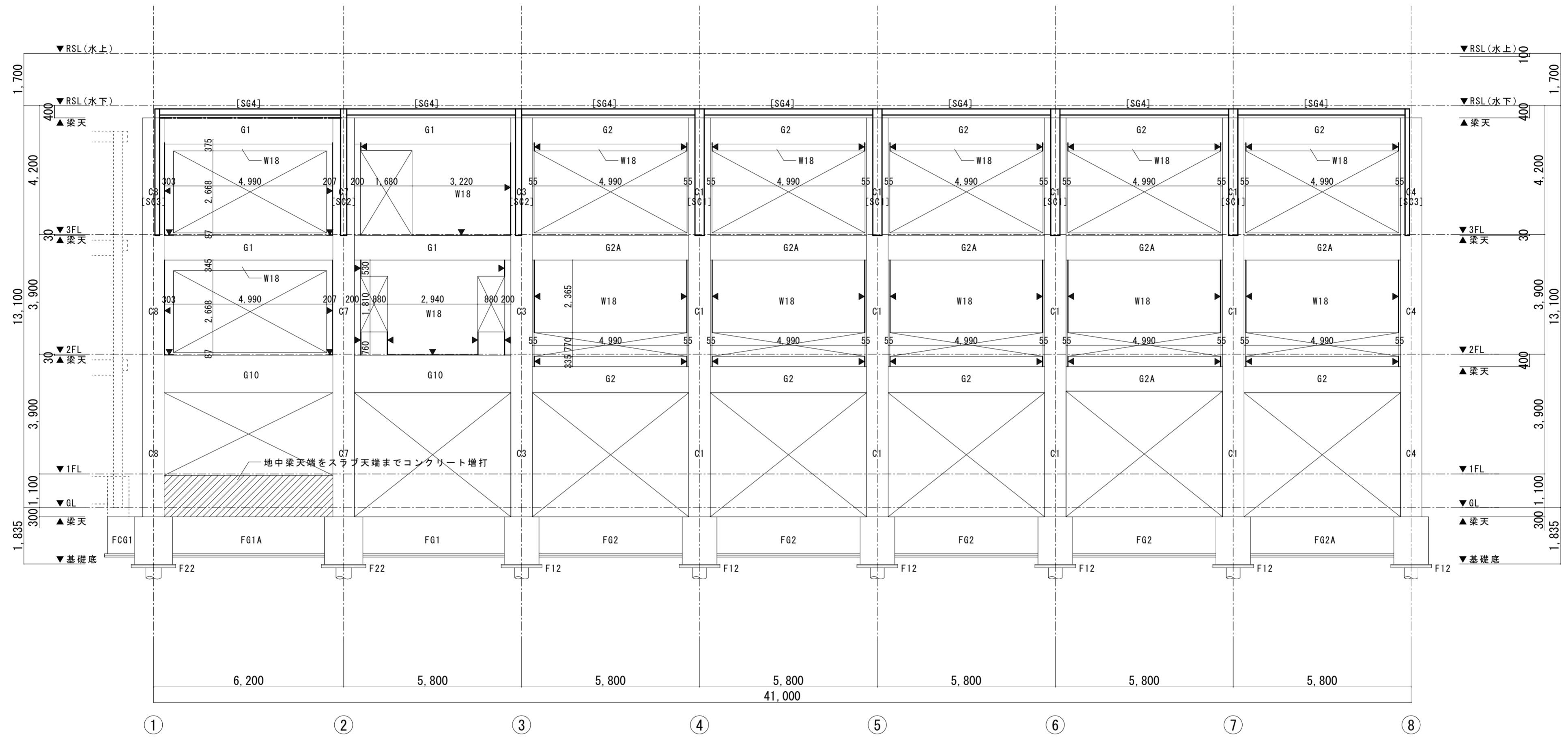
() 内数値はRSLからの梁天端レベルを示す。
 [] 付きの符号は鉄骨部材を示す。
 // は梁側面のコンクリート増打を示す。



特記 :

立花構造設計事務所
 代表取締役 立花 薫

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	屋根梁伏図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 9	S = 1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	



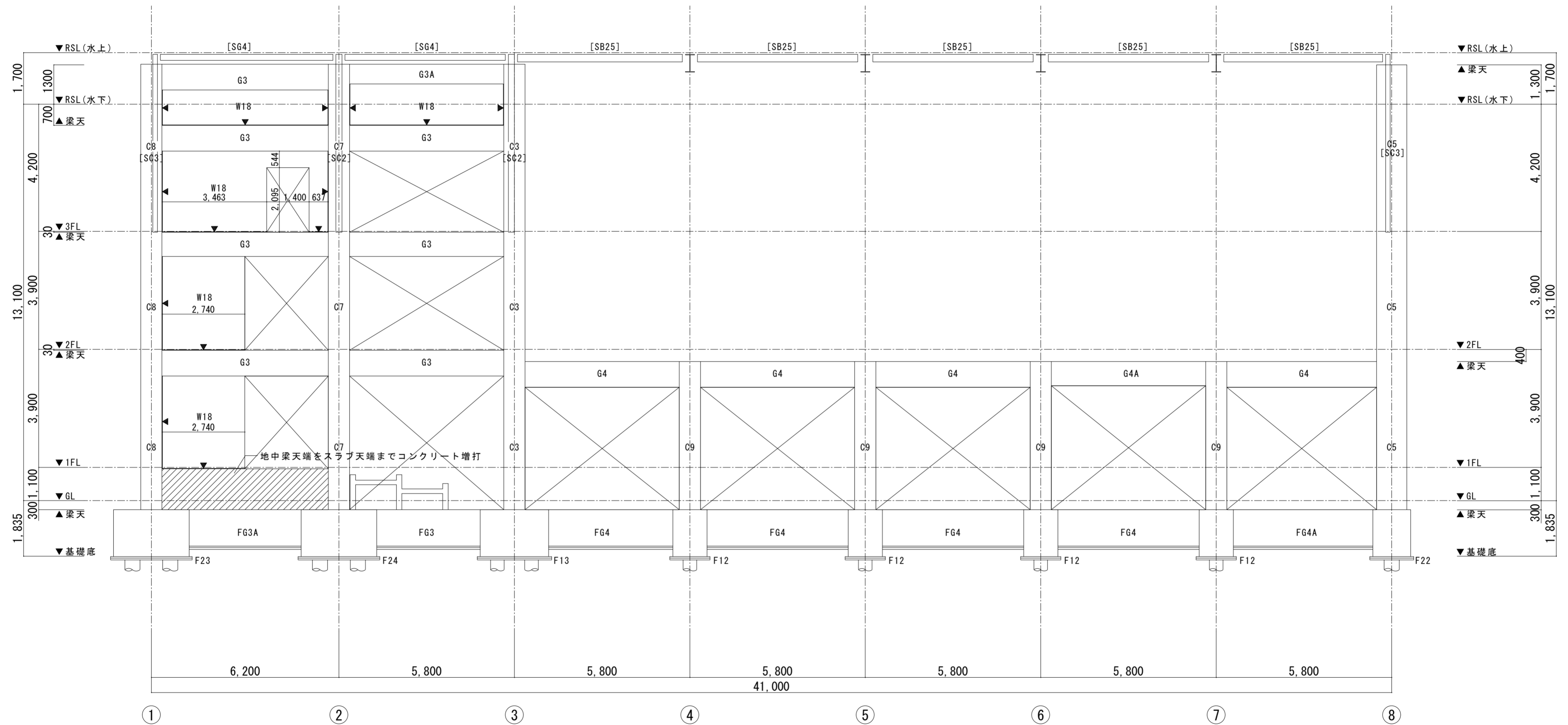
A 通軸組図 1/100

▶ は、構造スリットを示す。

特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事		
名称	軸組図 1		
図番	S - 10	S = 1:100	年月

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫
 株式会社 剛 建築事務所 連水可次
 徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
 TEL 0886-22-0883 第102935号
 FAX 0886-22-0885



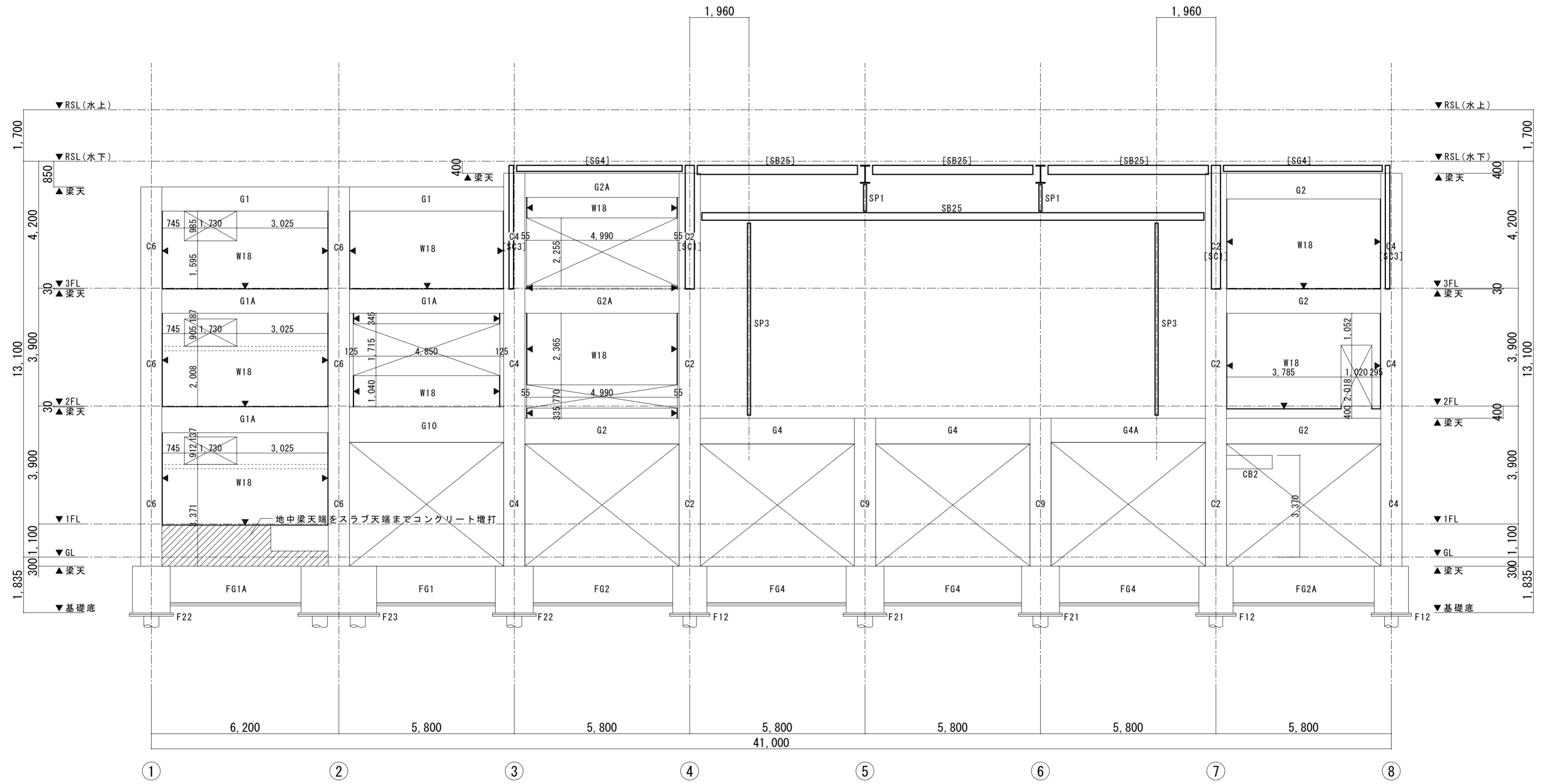
B 通軸組図 1/100

▶ は、構造スリットを示す。

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫

特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	軸組図 2			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 11	S = 1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	



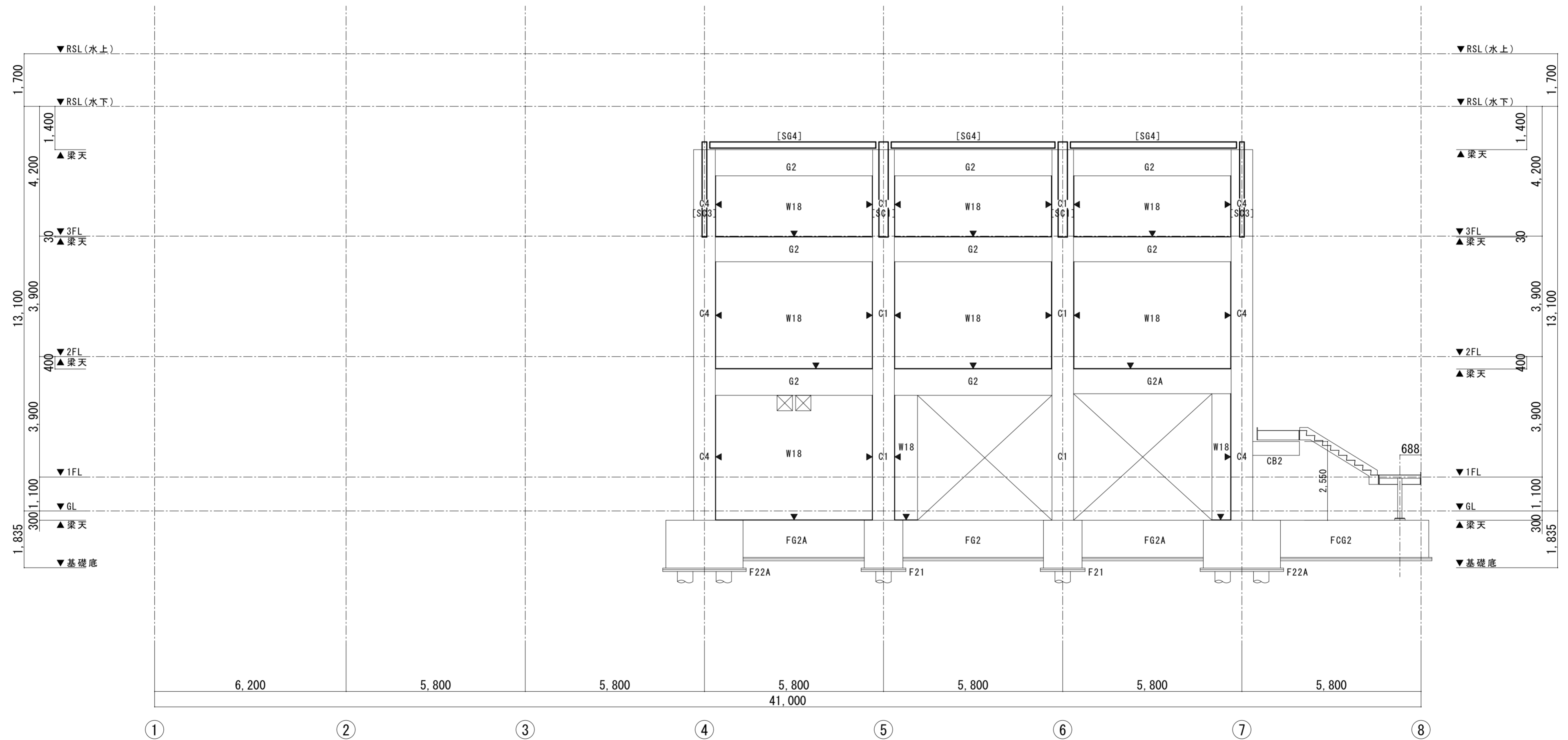
C 通軸組図 1/100

▶ は、構造スリットを示す。

特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	軸組図 3			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 12	S = 1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫
 構造設計一級建築士 立花 薫



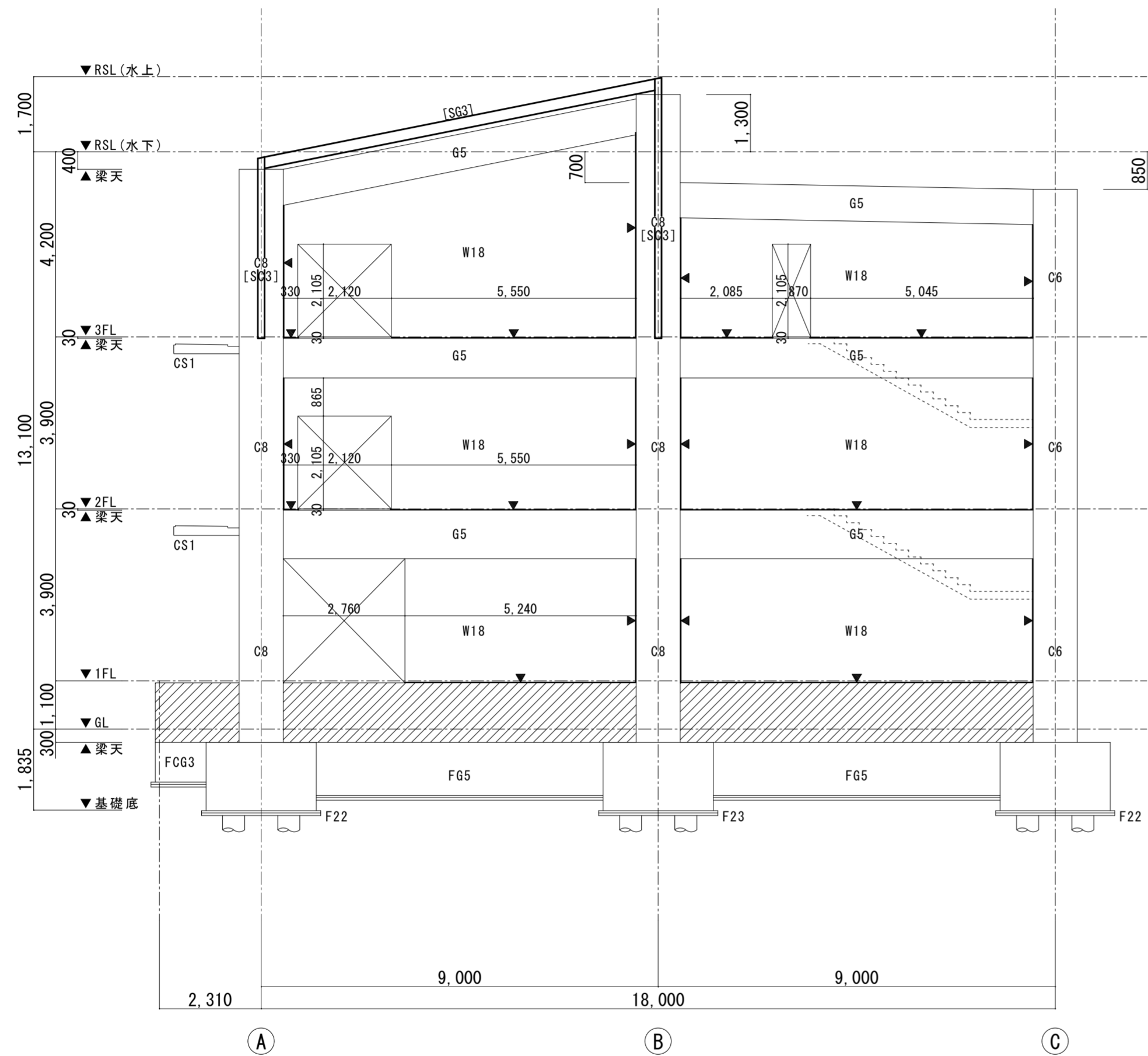
D 通軸組図 1/100

▶ は、構造スリットを示す。

特記：

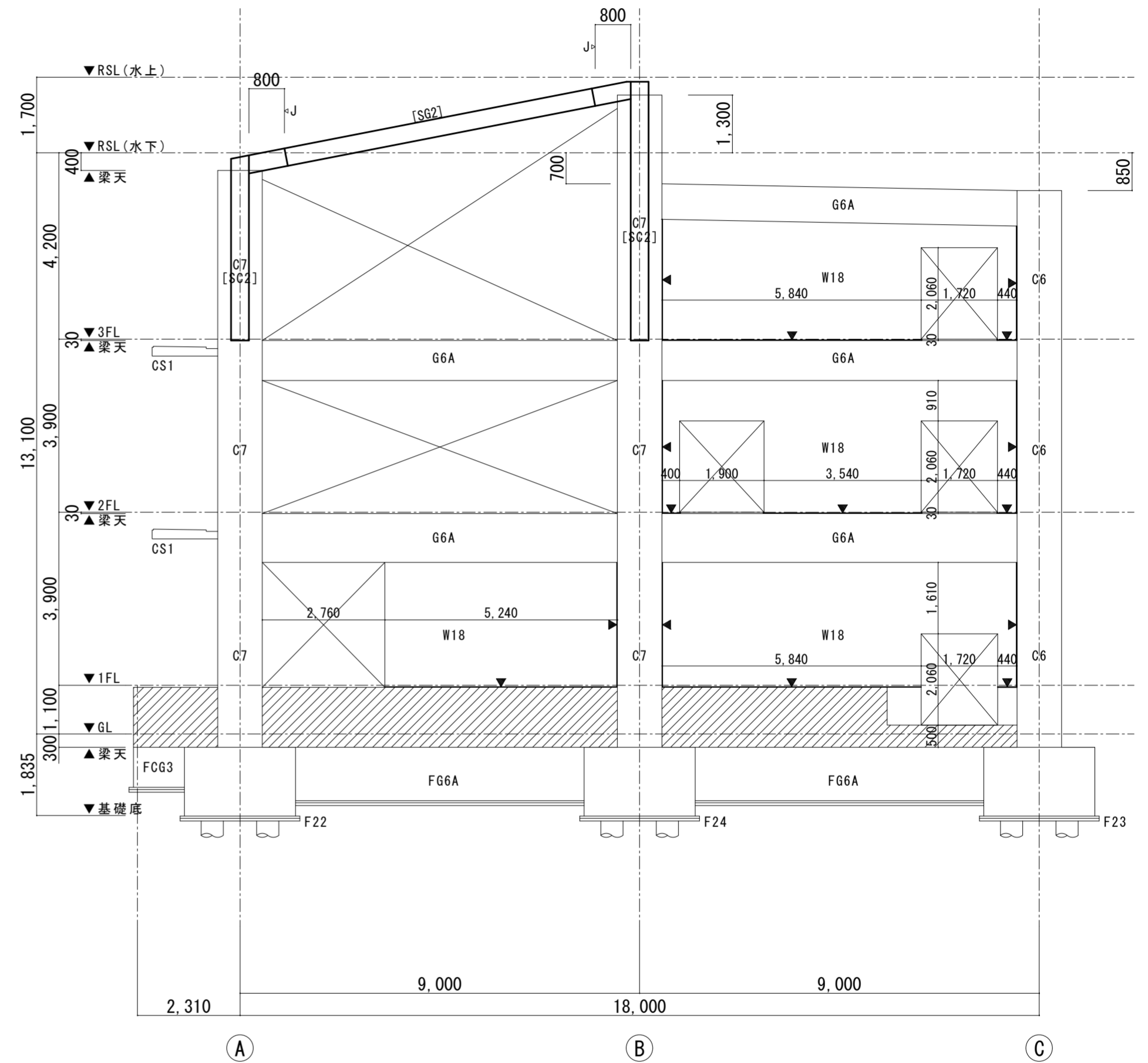
工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	軸組図 4			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 13	S = 1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫
 構造設計一級建築士 立花 薫



1 通軸組図 1/100

▶ は、構造スリットを示す。
 ▨ は地中梁天端をスラブ天端まで増打とする。



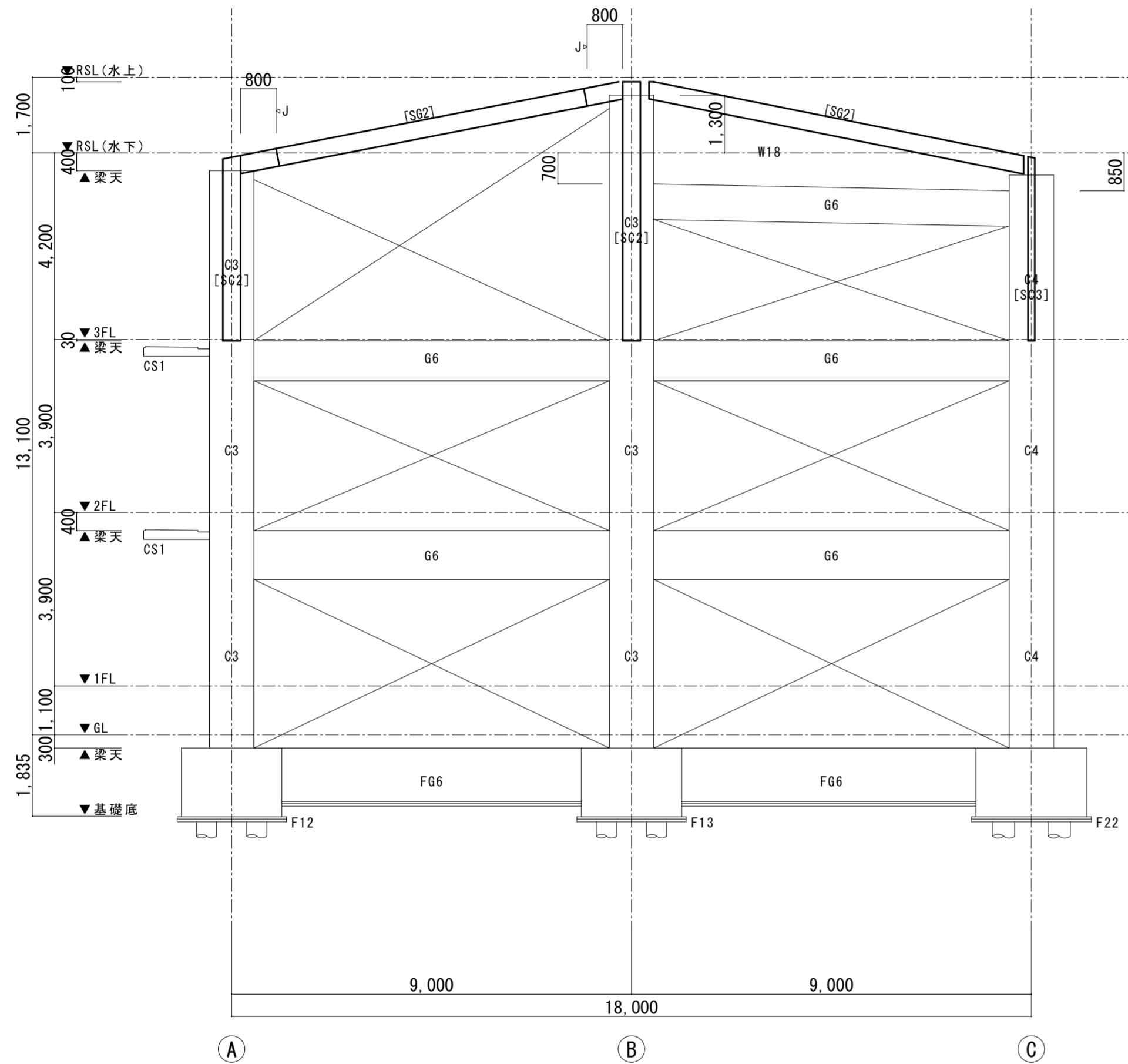
2 通軸組図 1/100

▶ は、構造スリットを示す。
 ▨ は地中梁天端をスラブ天端まで増打とする。

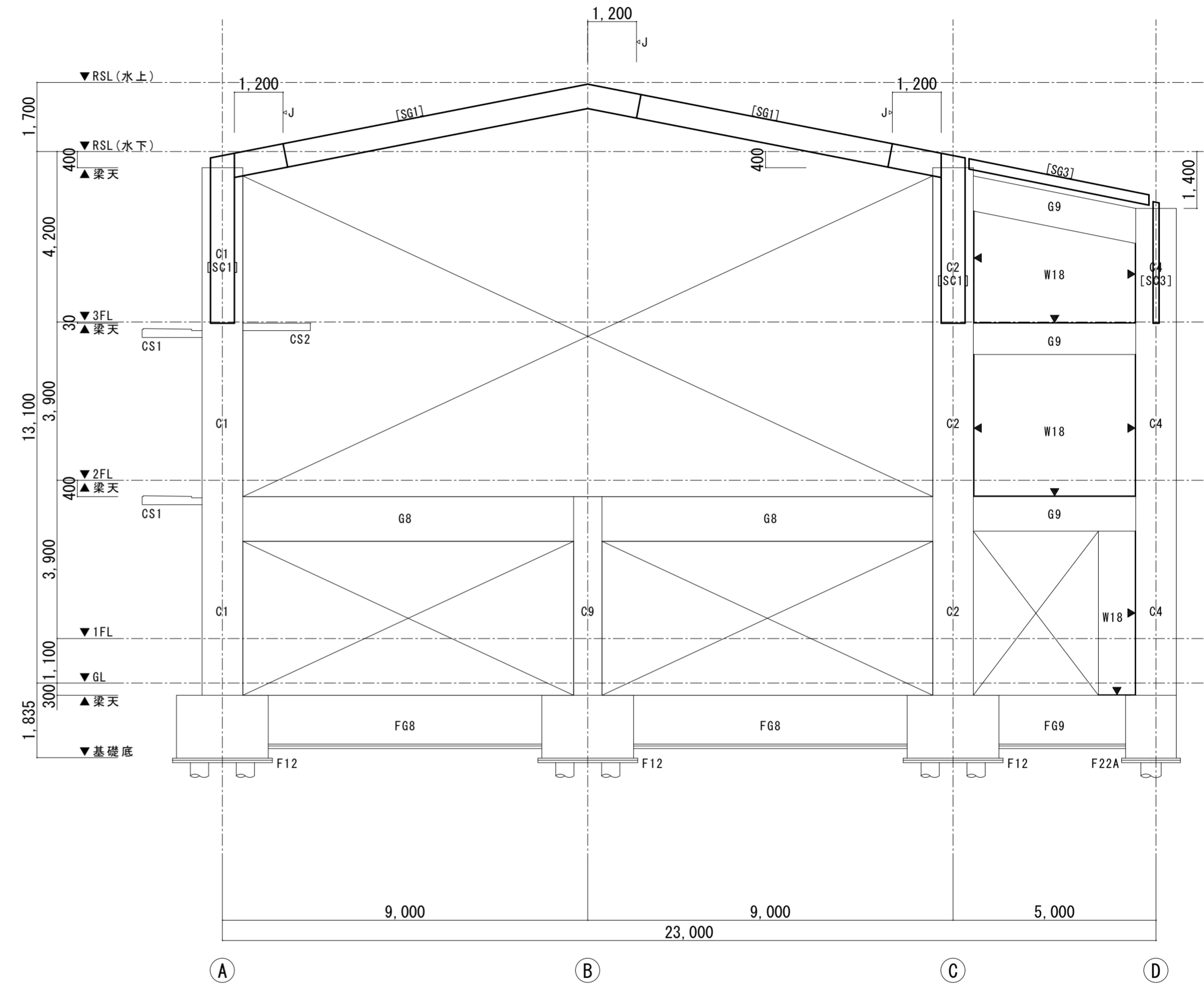
特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	軸組図5			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 14	S = 1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	

立花構造設計事務所
 二級建築士 立花 薫



3 通軸組図 1/100



4 通軸組図 1/100

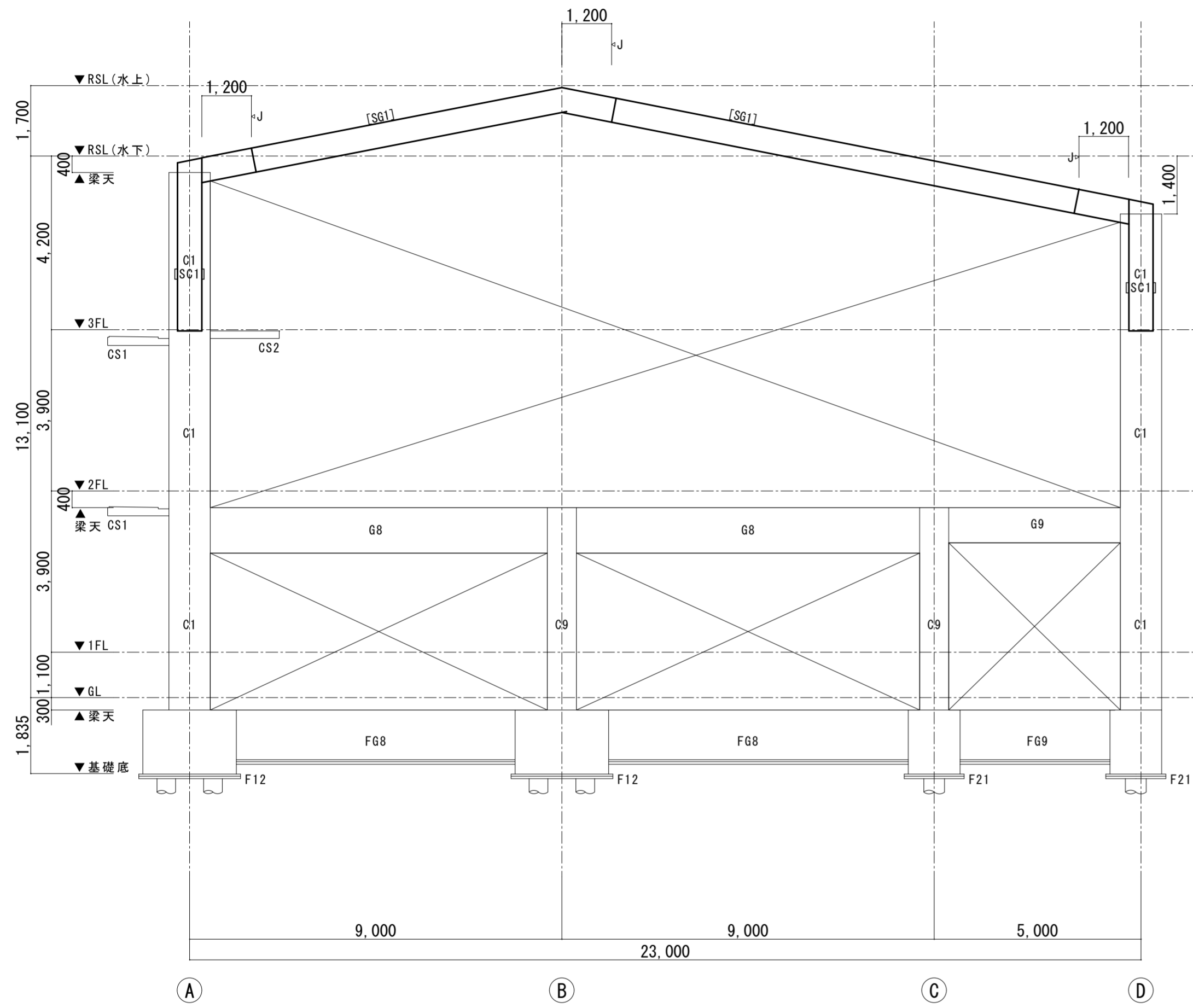
▶ は、構造スリットを示す。

特記：

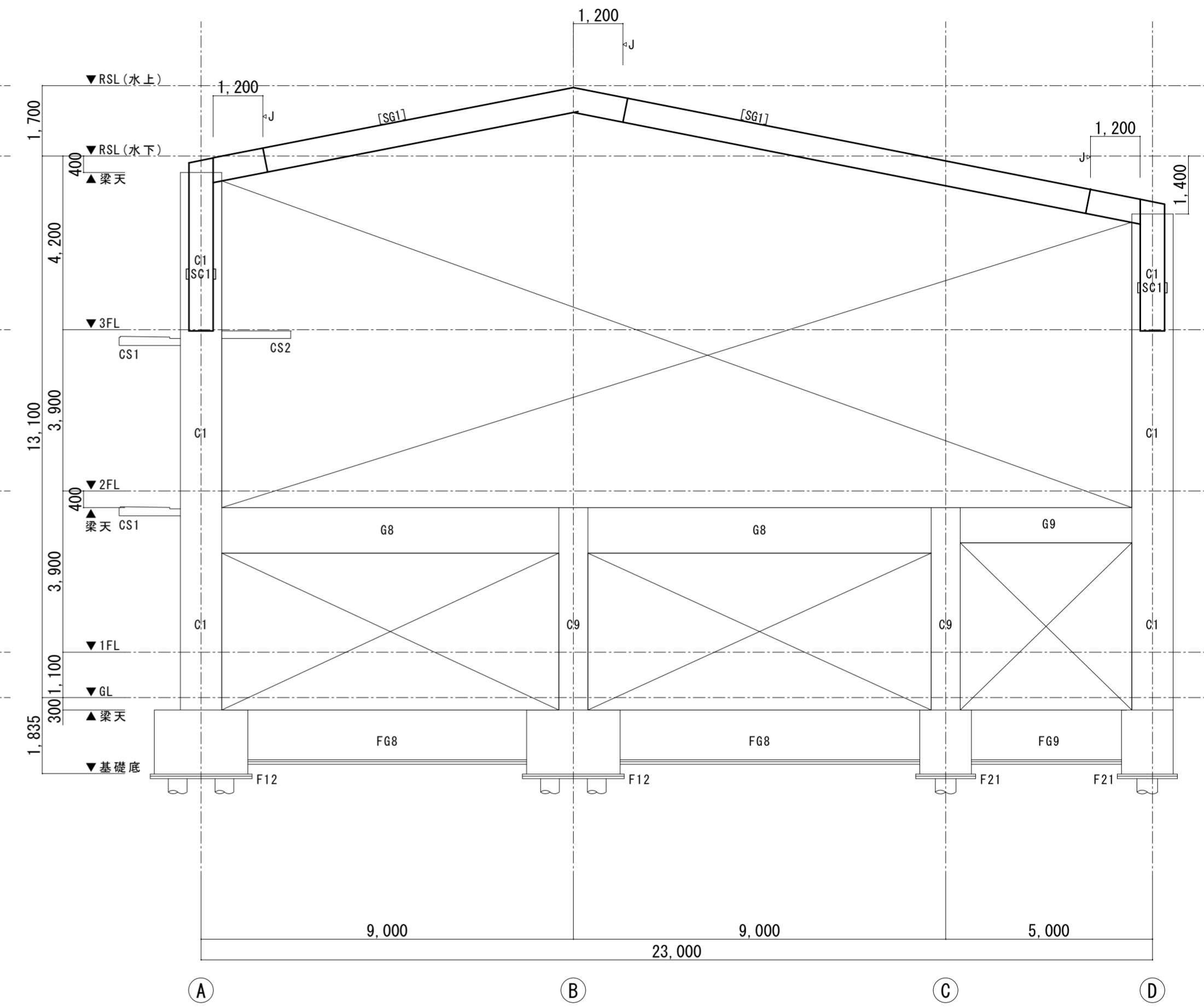
工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事		
名称	軸組図6		
図番	S - 15	S = 1:100	年月

立花構造設計事務所
二級建築士事務所 登録 第 12628 号
 構造設計 一級建築士 登録 第 5243 号 立花 薫

株式会社 剛 建築事務所 連水 可次
 徳島市末広 3 丁目 3-3 1 級建築士登録
 TEL 0886-22-0883 第 102935 号
 FAX 0886-22-0885



5通軸組図 1/100

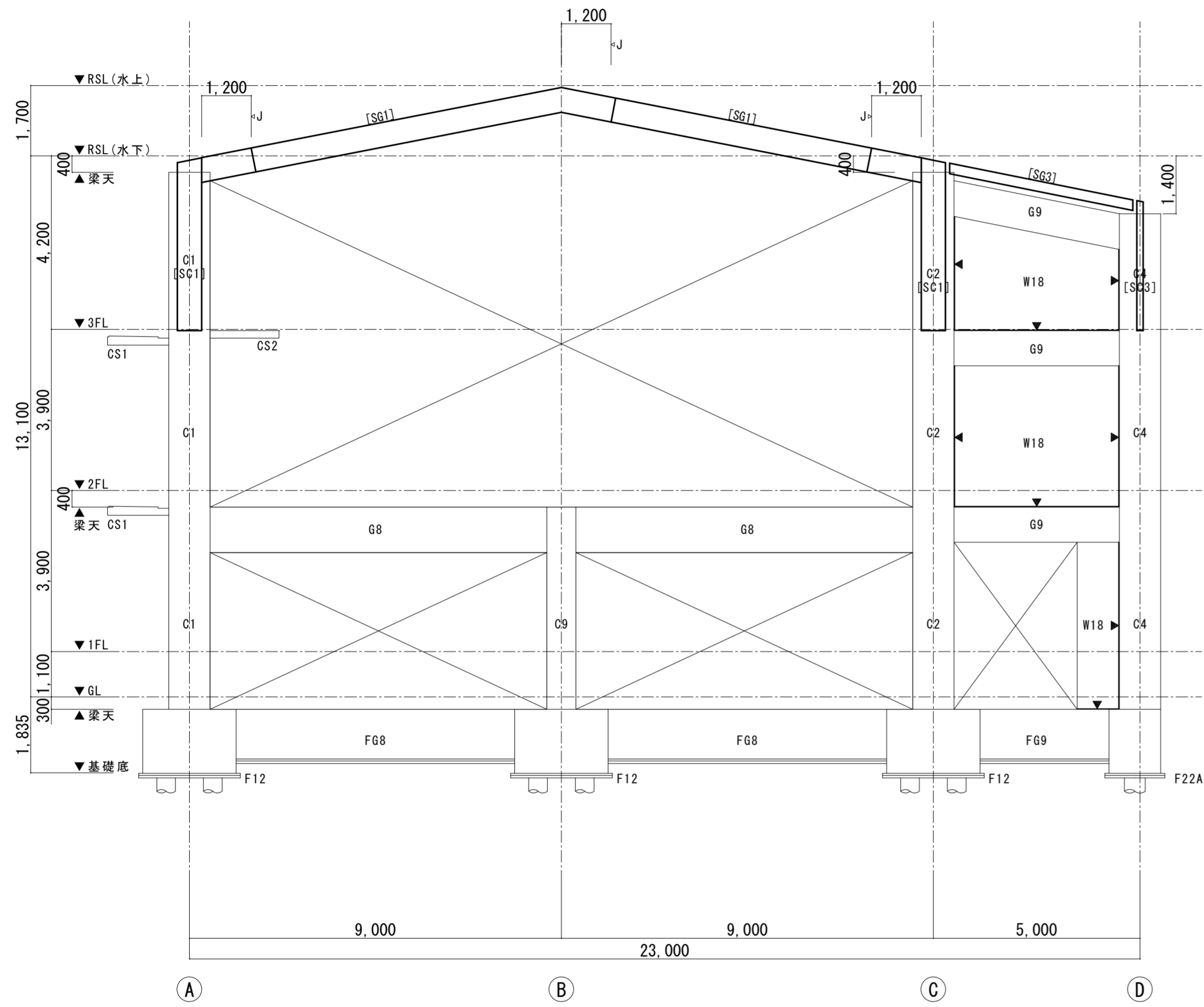


6通軸組図 1/100

特記：

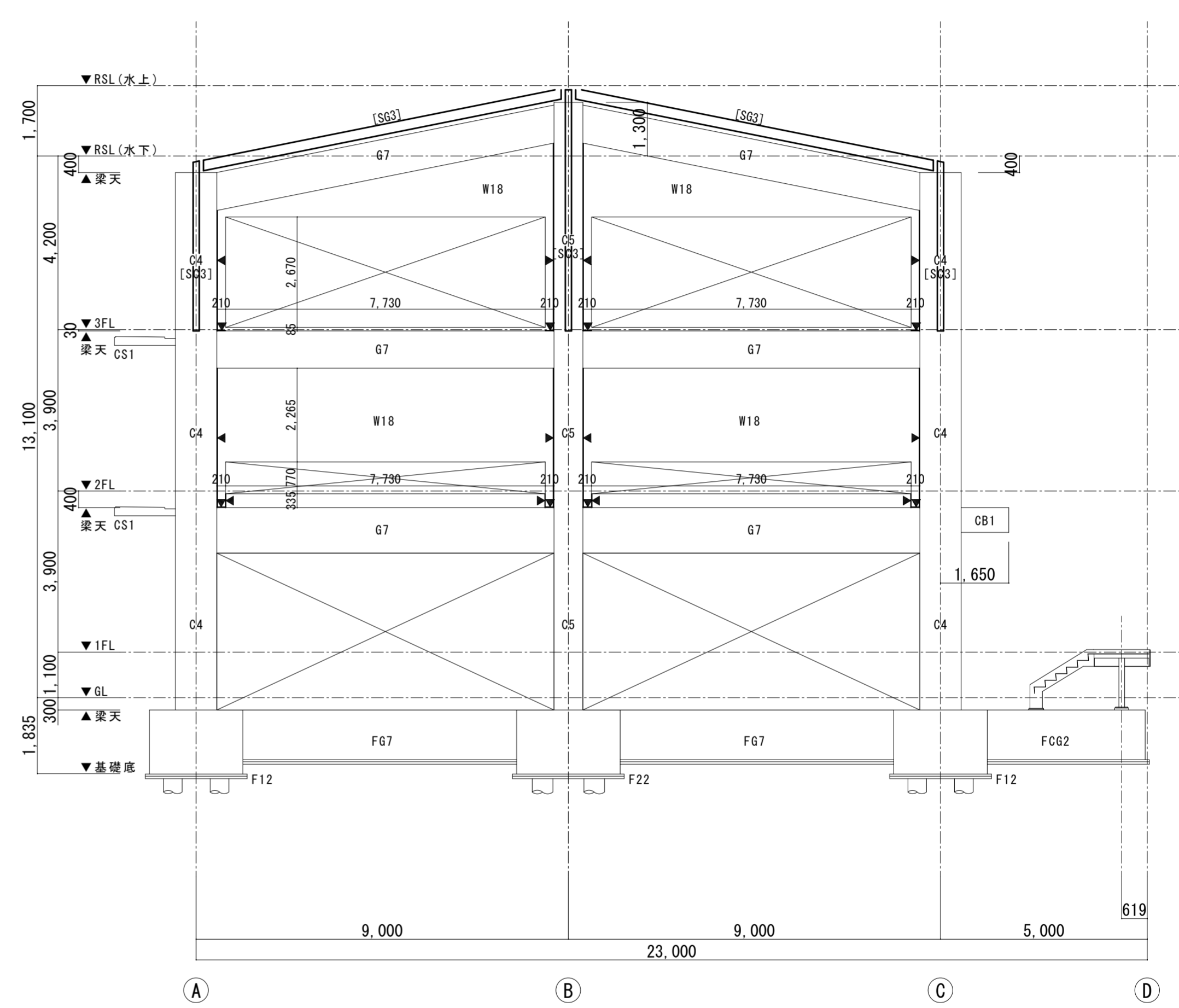
工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	軸組図 7			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 16	S = 1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫



7通軸組図 1/100

▶ は、構造スリットを示す。



8通軸組図 1/100

▶ は、構造スリットを示す。

特記：

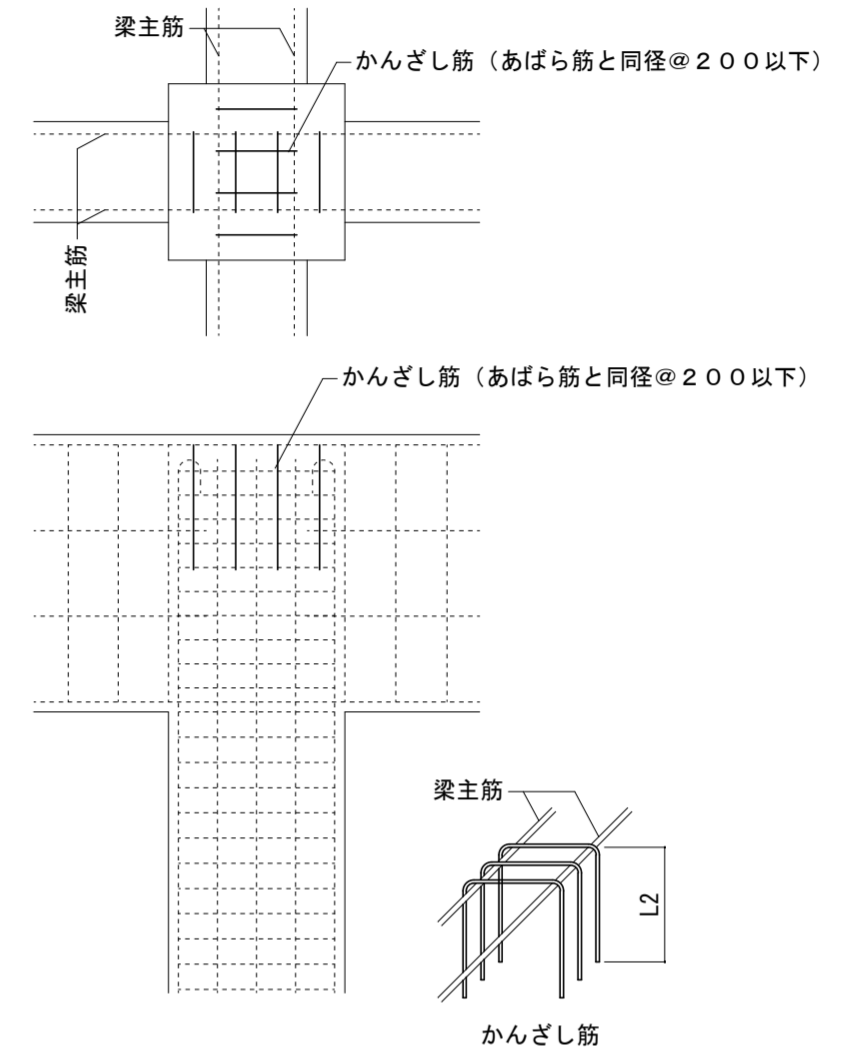
工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	軸組図 8			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 17	S = 1:100	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫
 構造設計一級建築士 第 5243 号

階	符号	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9
RF 3F	仕口フープ	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	
	断面									
	Dx×Dy	700x1,000	700x1,000	700x1,000	700x1,000	1,000x700	700x1,000	700x1,000	700x1,000	
	主筋	16-D22	16-D22	16-D22	16-D22	16-D22	18-D22	16-D22	16-D22	
	フープ	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	
	鉄骨	H-588x300x12x20	H-588x300x12x20	H-400x200x8x13	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	---	H-400x200x8x13	H-150x150x7x10	
仕口フープ	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125		
2F	断面									
	Dx×Dy	700x1,000	700x1,000	700x1,000	700x1,000	1,000x700	700x1,000	700x1,000	700x1,000	
	主筋	16-D22	18-D22	16-D22	16-D22	16-D22	18-D22	16-D22	16-D22	
	フープ	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	
	仕口フープ	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D13-□@100
	1F	断面								
Dx×Dy		700x1,000	700x1,000	700x1,000	700x1,000	1,000x700	700x1,000	700x1,000	700x1,000	700x700
主筋		16-D22	18-D22	16-D22	16-D22	16-D22	22-D22	22-D22	26-D22	16-D22
フープ		D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D16-□@100	D16-□@100	D13-□@100
仕口フープ		D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D16-□@125	D13-□@100

柱頭かんざし筋配筋要領図 1/30

柱頭部において梁主筋にかぶせるかんざし筋を配筋する。
梁主筋が両方向重なる場合は、それぞれに設ける。



機械式定着リスト

機械式定着は、一般社団法人建築構造技術支援機構の評価を受けた同等品とする。
参考図として基準図S-46を添付する。

柱位置	定着長さ		補強筋
	X方向	Y方向	
B通3軸最上部	600	-	8-□-D13
C通1軸最上部	600	750	8-□-D13
C通2軸最上部	600	750	8-□-D13
C通3軸最上部	600	-	8-□-D13
C通4軸最上部	600	-	8-□-D13

特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水可次
名称	柱リスト			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S-18	S=1:50	年月	TEL 0886-22-0883	第102935号
				FAX 0886-22-0885	

大梁リスト 1/50

※幅止め筋はD10-@100程度とする。

階	符号	G1	G2	G2A	G3	G3A	G5	G7	G9
屋根面	位置	全段面	全段面	全段面	全段面	全段面	全段面	全段面	全段面
	断面								
	B×D	400x850	400x850	400x700	400x850	400x650	460x900	450x900	450x850
	主筋	上端筋 3-D22 下端筋 3-D22	3-D22 3-D22	3-D22 3-D22	3-D22 3-D22	3-D22 3-D22	3-D22 4-D25	4-D25 4-D22	4-D22 4-D22
	スターラップ	D13-□-@200 腹筋 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D13-□-@200 2-D10

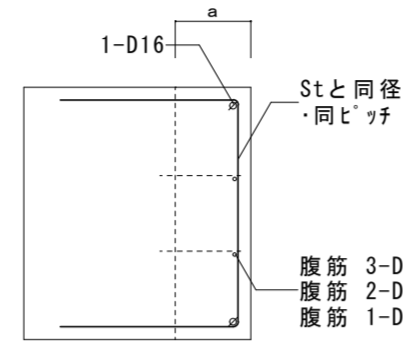
階	符号	G1	G3	G5	G6	G6A				
RF	位置	2通端	中央・他端	全断面	B通端	中央	C通端	全断面	両端	中央
	断面									
	B×D	400x800	400x850	440x900	500x900	700x900	700x900	700x900	700x900	700x900
	主筋	上端筋 6-D22 下端筋 4-D22	5-D22 4-D22	4-D22 4-D22	6-D29 4-D29	4-D29 4-D29	4-D29 4-D29	5-D29 4-D29	8-D29 4-D29	4-D29 8-D29
	スターラップ	D13-□-@200 腹筋 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@150 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D13-□-@150 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D13-□-@150 4-D10	D13-□-@150 4-D10

階	符号	G1	G1A	G2	G2A	G3	G5	G6	G6A	G7	G9							
3F	位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面	
	断面																	
	B×D	400x800	400x800	400x800	400x800	400x800	400x800	440x900	500x900	700x900	500x900	500x800	500x800	500x800	500x800	500x800	500x800	
	主筋	上端筋 4-D25 下端筋 3-D25	3-D25 3-D25	7-D25 3-D25	3-D25 3-D25	4-D25 3-D25	3-D25 3-D25	4-D25 3-D25	6-D25 3-D25	3-D25 3-D25	7-D29 4-D29	4-D29 4-D29	5-D29 4-D29	10-D29 5-D29	5-D29 5-D29	6-D25 4-D25	4-D25 4-D25	6-D25 5-D25
	スターラップ	D13-□-@200 腹筋 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@100 2-D10	D13-□-@100 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@150 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@100 4-D10	D13-□-@100 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D16-□-@100 4-D10	D16-□-@100 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D13-□-@200 2-D10

階	符号	G1A	G2	G2A	G3	G4	G4A	G5	G6	G6A	G7	G8	G9	G10					
2F	位置	両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面	全断面				
	断面																		
	B×D	450x850	450x850	450x800	450x850	450x850	450x800	440x1,100	500x1,100	700x1,100	500x1,100	500x1,100	500x850	450x1,220					
	主筋	上端筋 8-D25 下端筋 4-D25	4-D25 4-D25	4-D25 3-D25	4-D25 3-D25	4-D25 3-D25	4-D25 3-D25	4-D25 3-D25	7-D29 4-D29	4-D29 4-D29	5-D29 4-D29	10-D29 5-D29	5-D29 5-D29	6-D25 4-D25	3-D25 3-D25	6-D25 4-D25	4-D25 4-D25	6-D25 5-D25	6-D25 6-D25
	スターラップ	D13-□-@100 腹筋 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@150 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D16-□-@100 4-D10	D16-□-@100 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D13-□-@200 4-D10	D13-□-@200 2-D10	D13-□-@200 6-D10			

梁側面増打補強筋要領図 1/30

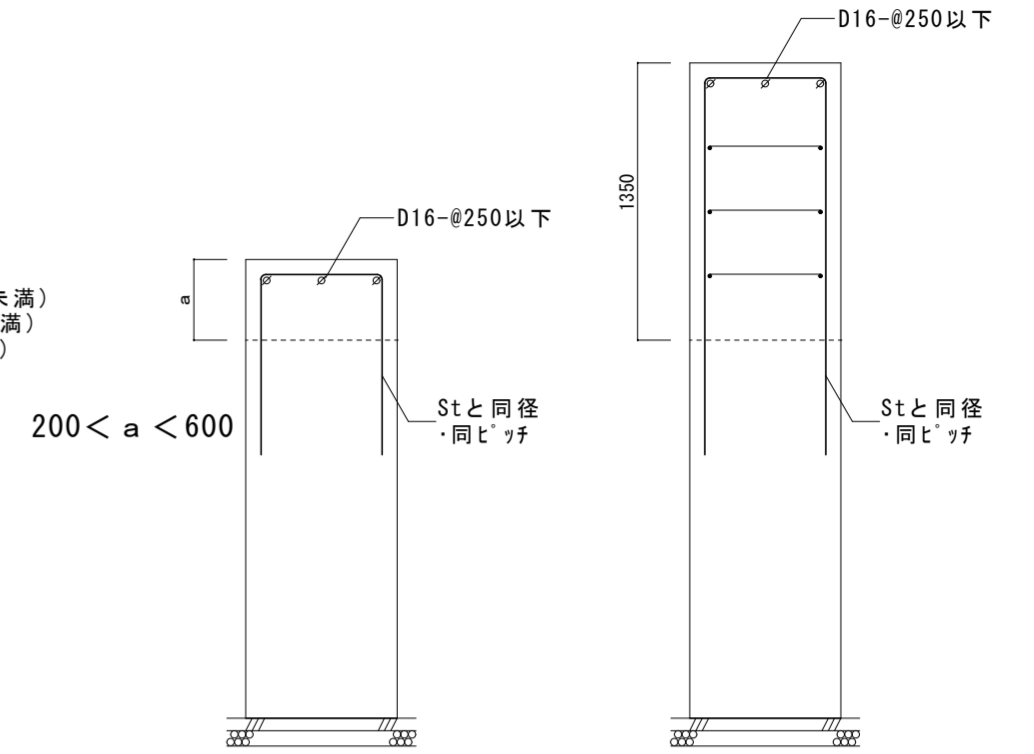
※70以上200以下の増打については鉄筋コンクリート構造配筋基準図による。



200 < a < 600

増打補強筋要領図 1/30

※70以上200以下の増打については鉄筋コンクリート構造配筋基準図による。



特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事		
名称	大梁リスト		
図番	S - 19	S = 1:50	年 月

立花構造設計事務所
 株式会社 剛 建築事務所 連水可次
 徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
 TEL 0886-22-0883 第102935号
 FAX 0886-22-0885

小梁リスト 1/50

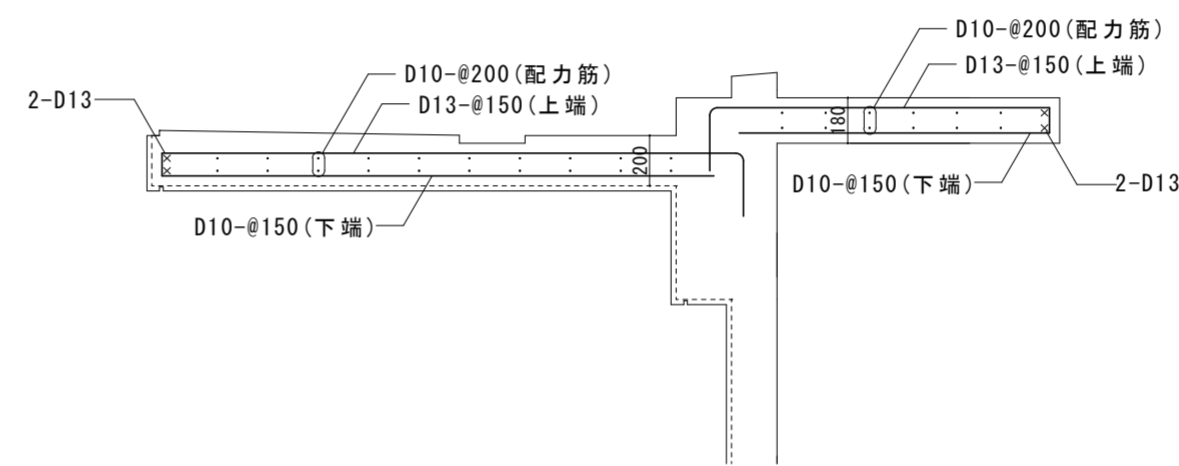
幅止め筋 D10-@1000 とする

符号	B1	B2		B3		B4		B5		B6		
位置	全断面	連続端	他端・中央	連続端	他端・中央	両端	中央	両端	中央	連続端	他端・中央	
断面												
B×D	250×600	350×600		350×600		400×800		500×800		400×600		
主筋	上端筋	2-D19	4-D22	3-D22	4-D19	3-D19	5-D19	5-D19	4-D22	4-D22	4-D19	4-D19
	下端筋	2-D19	3-D22	3-D22	3-D19	3-D19	5-D19	8-D19	4-D22	8-D22	4-D19	5-D19
スターラップ	D10-□-@200	D10-□-@200		D10-□-@200		D13-□-@200		D13-□-@200		D13-□-@200		
腹筋	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		

符号	CB1	CB2	
位置	全断面	全断面	
断面			
B×D	250×600	250×450	
主筋	上端筋	2-D19	2-D22
	下端筋	2-D19	2-D22
スターラップ	D10-□-@200	D10-□-@200	
腹筋	2-D10	---	

スラブリスト

記号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向
S 1	t=150	上端筋	D10+D13-200@	D10-200@
		下端筋	D10-200@	D10-200@
S 2	t=180	上端筋	D10+D13-200@	D10+D13-200@
		下端筋	D10-200@	D10-200@
CS 1	t=250	上端筋	D13-100@	D10-200@
		下端筋	D10-100@	D10-200@
CS 2	t=150	上端筋	D13-150@	D10-200@
		下端筋	D10-150@	D10-200@
CS 3	t=150	上端筋	D10-200@	D10-200@
		下端筋	D10-200@	D10-200@
FS 1	t=250	上端筋	D13-200@	D13-200@
		下端筋	D13-200@	D13-200@

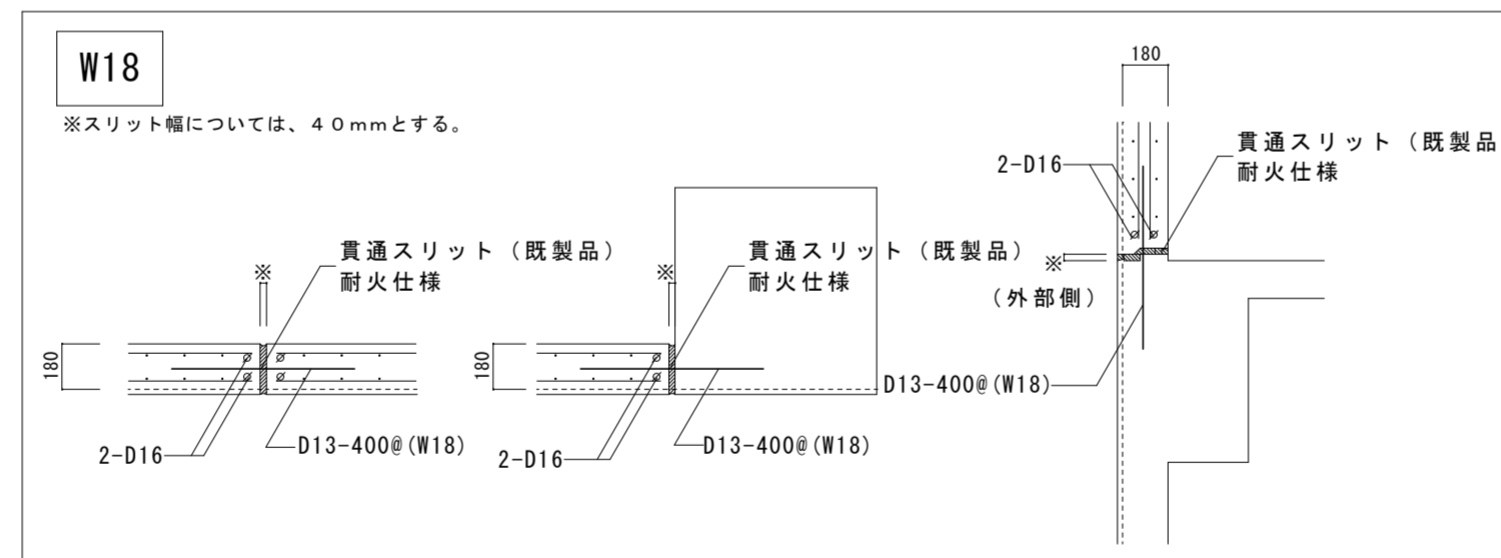


CS 1・CS 2 配筋図 1/30

壁リスト 1/30

記号	W 1 8	W 1 5	開口補強筋
壁厚	180	150	
水平断面図			
壁筋	縦筋	D13-200@ダブル	D10-150@
	横筋	D13-200@ダブル	D10-150@
開口部補強筋	縦筋	2-D16	1-D16
	横筋	2-D16	1-D16
	斜め筋	2-D13	1-D13
端部補強筋	2-D16	1-D16	
隅角部補強筋	4-D13	1-D16	
巾止め筋	D10-1,000@	---	

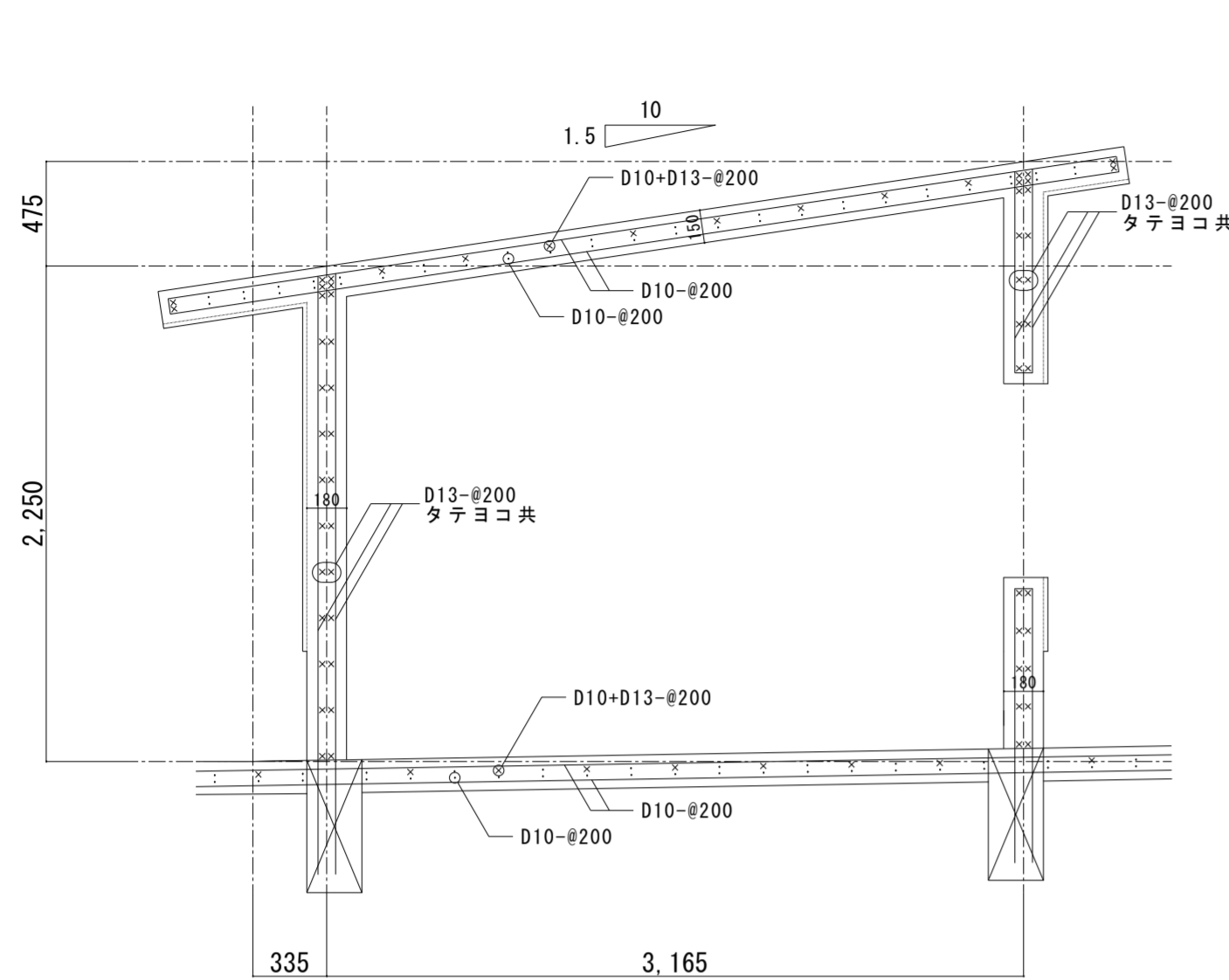
スリット要領図 1/30



特記 :

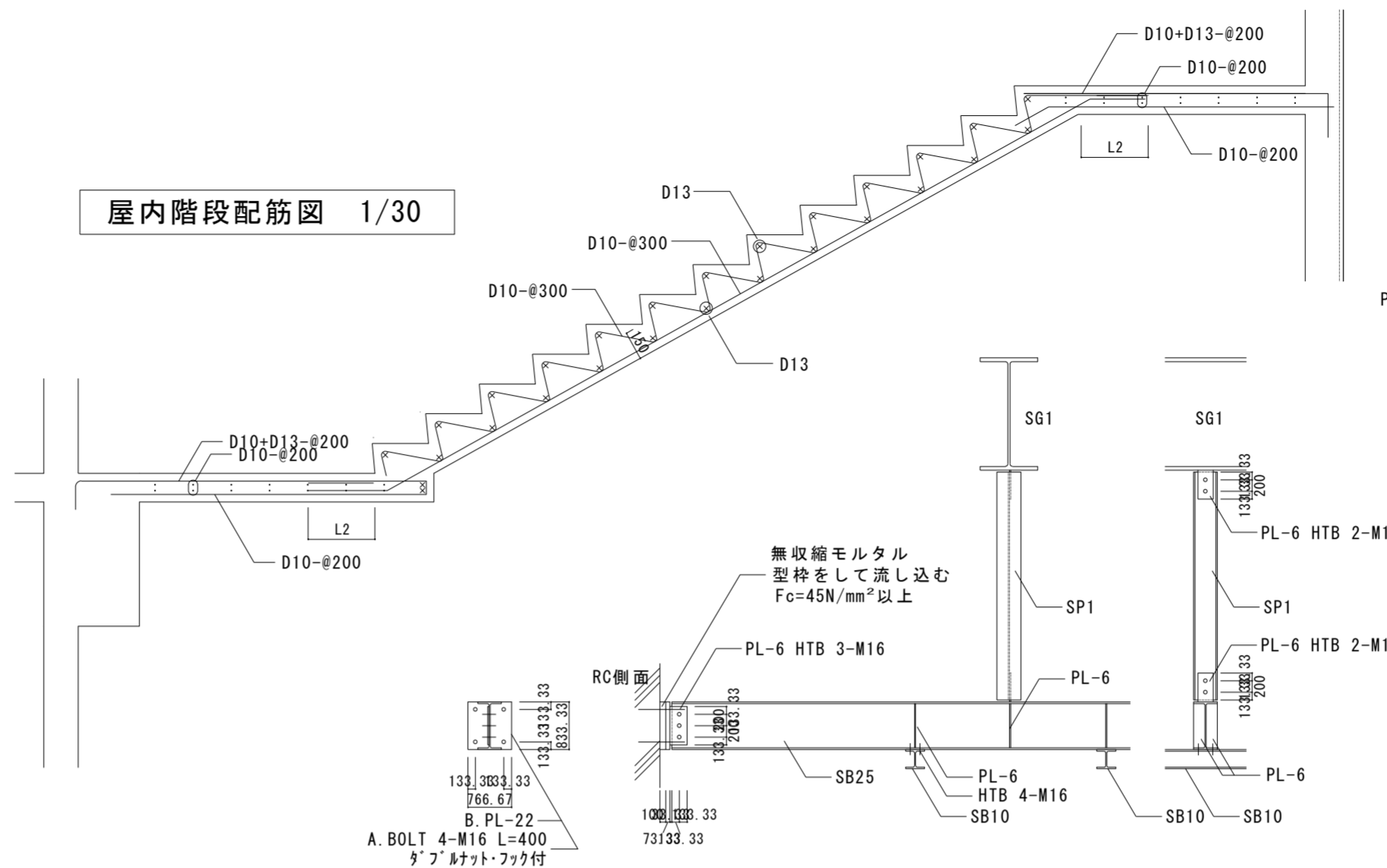
工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所 連水可次
名称	小梁リスト・スラブリスト・壁リスト			徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
図番	S - 20	S = 1:50	年月	TEL 0886-22-0883 第 102935 号
				FAX 0886-22-0885

立花構造設計事務所
二級建築士 主任 立花 薫

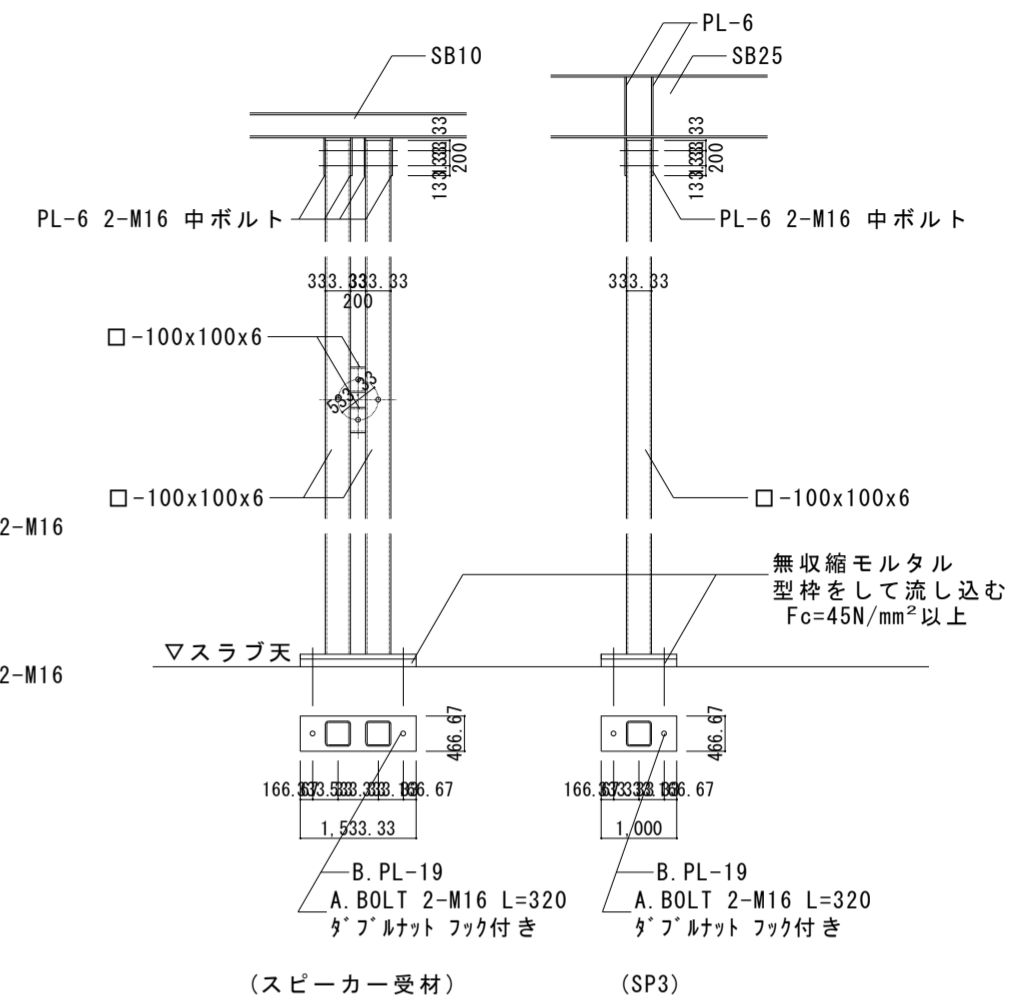


鳩小屋配筋図 1/30

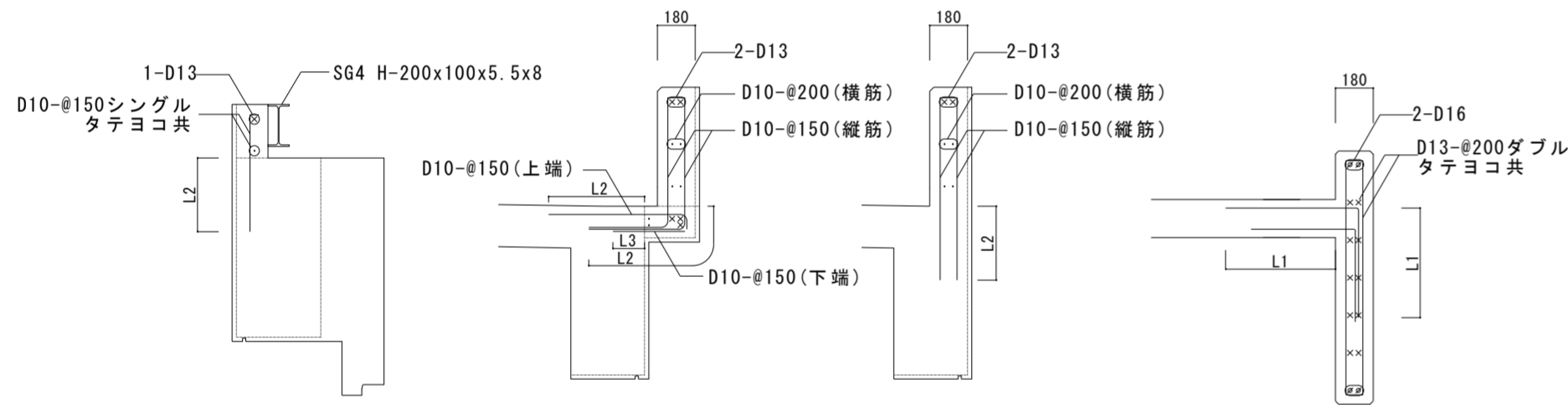
屋内階段配筋図 1/30



ぶどう棚受材詳細図 1/30

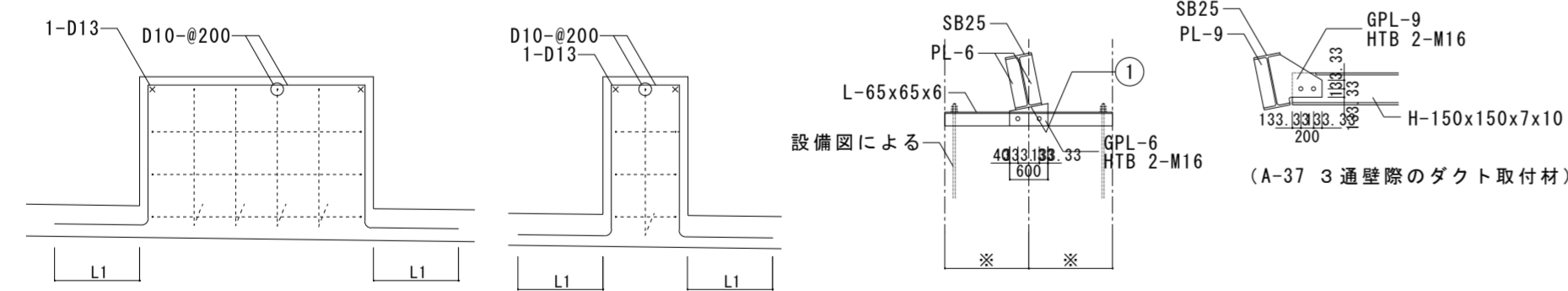


間柱詳細図 1/30



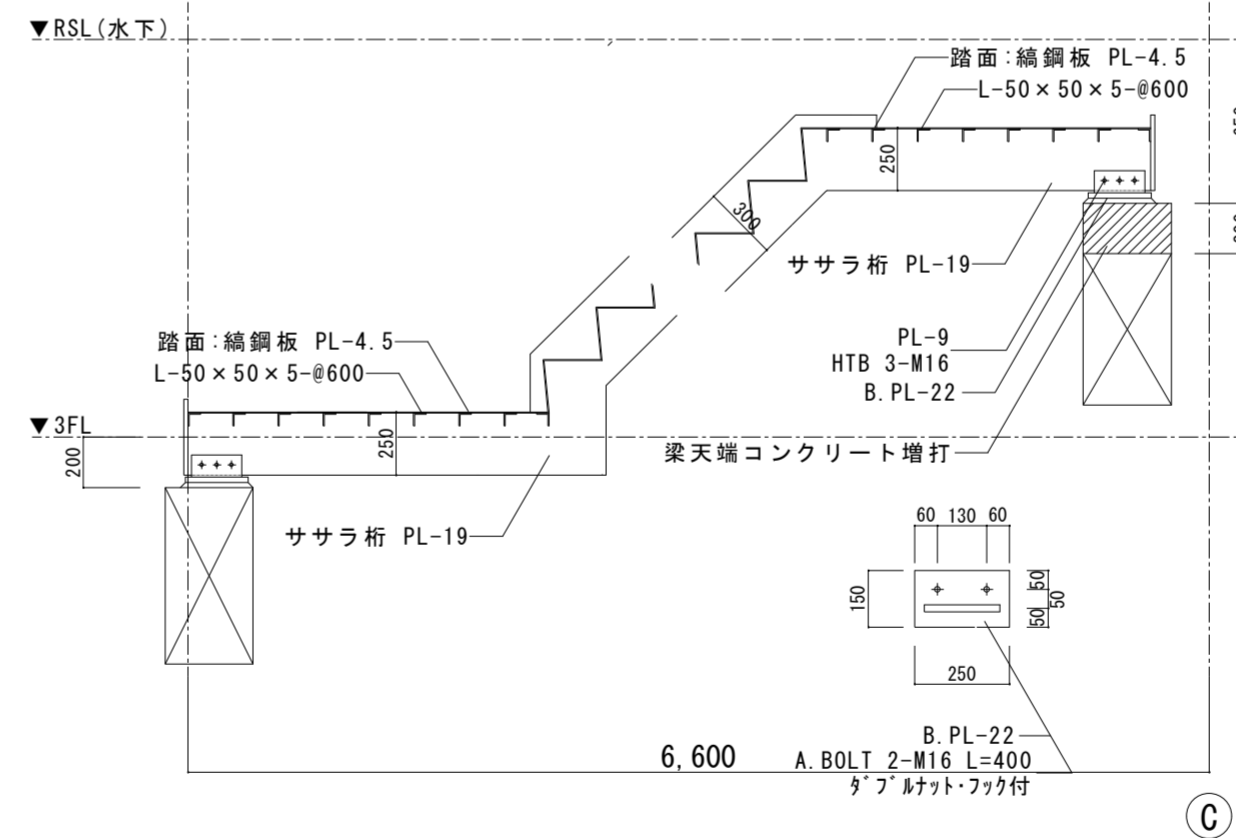
パラペット配筋図 1/30

バスケットゴール受け配筋詳細図 1/30

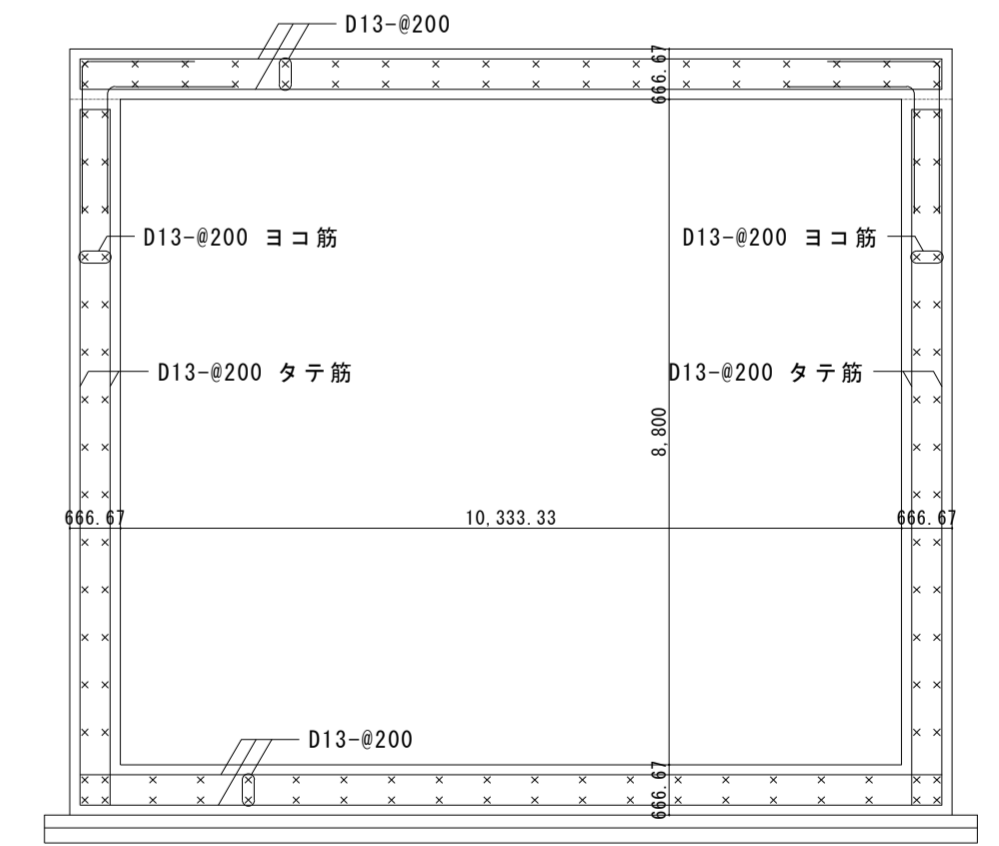


ダクト吊材 1/30

※寸法および配置は設備図による



点検用鉄骨段詳細図 1/30



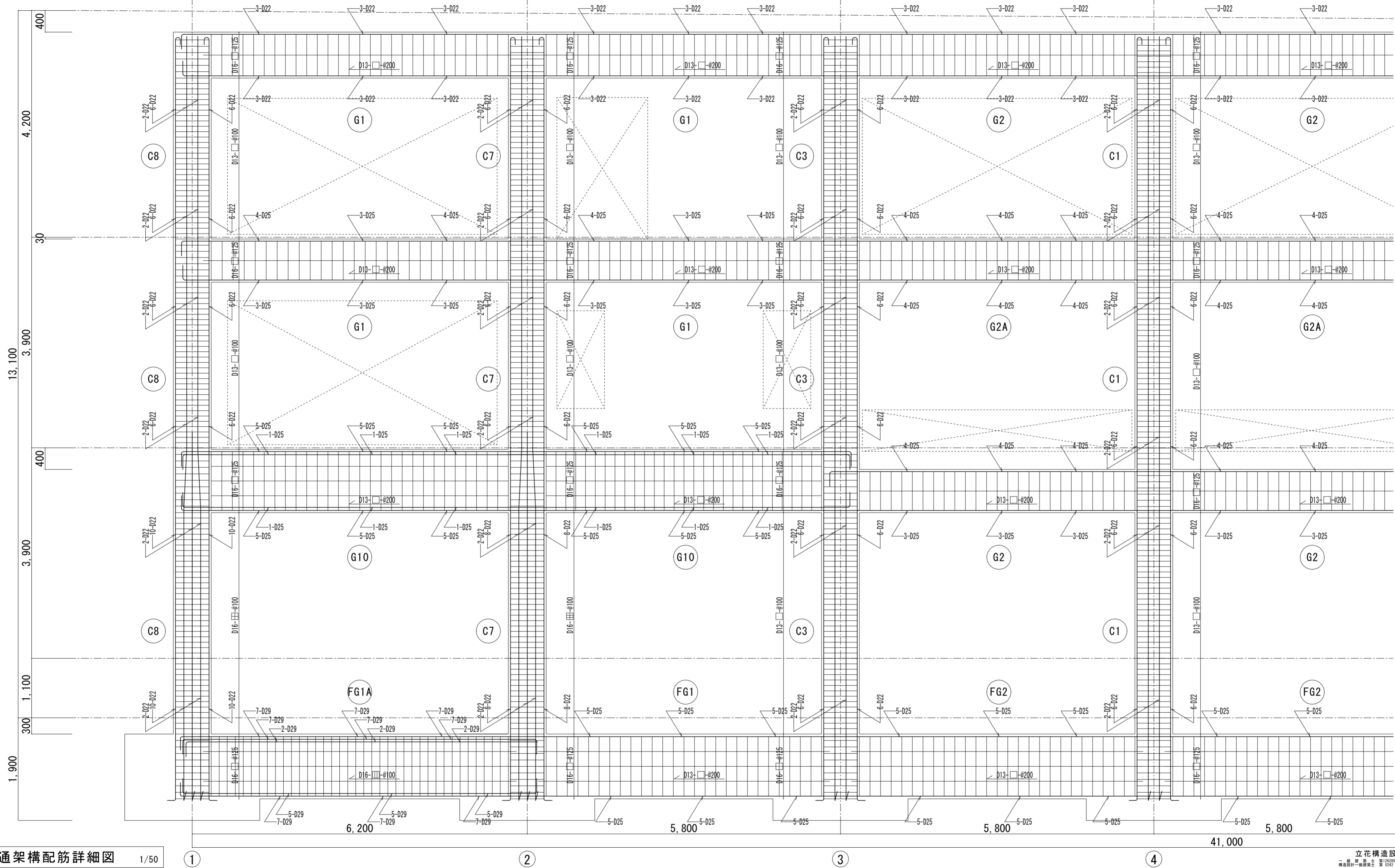
中継ポンプ槽配筋図 1/30

機械基礎配筋図 1/30

特記:

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事		
名称	雑詳細図		
図番	S - 21	S = 1:30	年月

立花構造設計事務所
 代表取締役 立花 薫
 株式会社 剛 建築事務所 連水 可次
 徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
 TEL 0886-22-0883 第102935号
 FAX 0886-22-0885

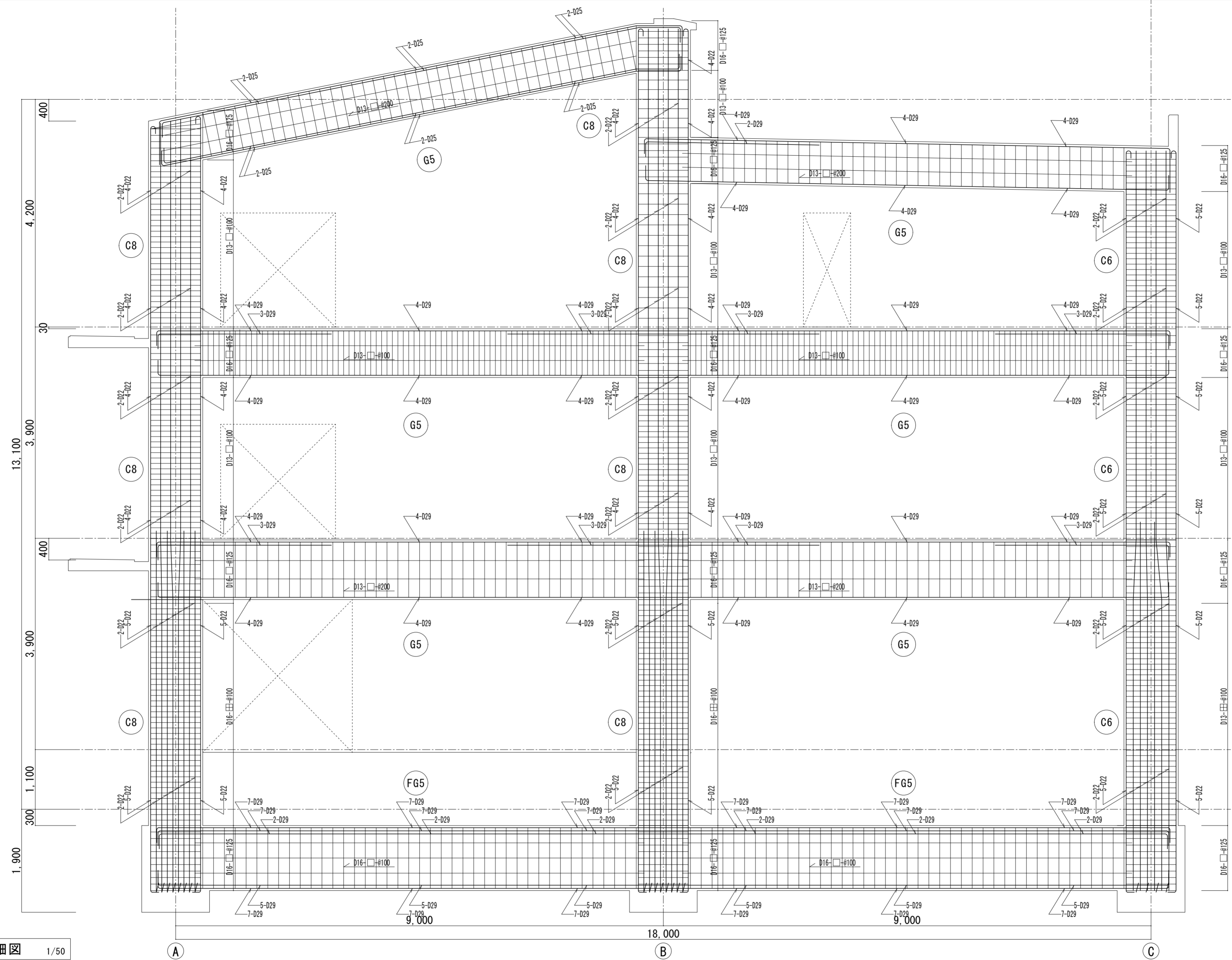


A 通架構配筋詳細図 1/50

立花構造設計事務所
二級建築士 立花 薫

特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	A 通架構配筋詳細図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 22	S = 1:50	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	

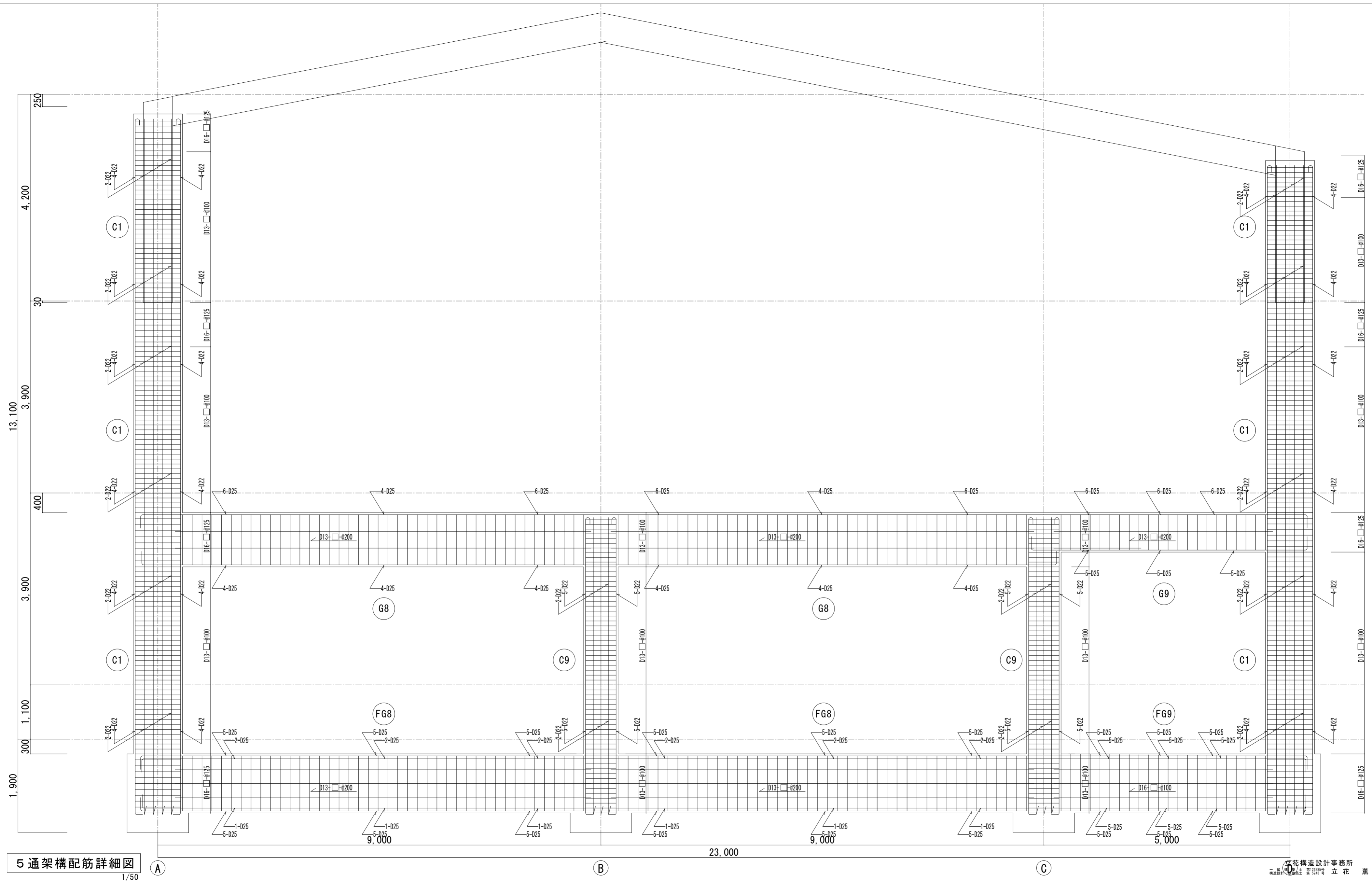


1 通架構配筋詳細図 1/50

特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事		
名称	1 通架構配筋詳細図		
図番	S - 23	S = 1:50	年月

立花構造設計事務所
二級建築士事務所 登録第126935号 立花 薫
 株式会社 剛 建築事務所 連水 可次
 徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
 TEL 0886-22-0883 第102935号
 FAX 0886-22-0885

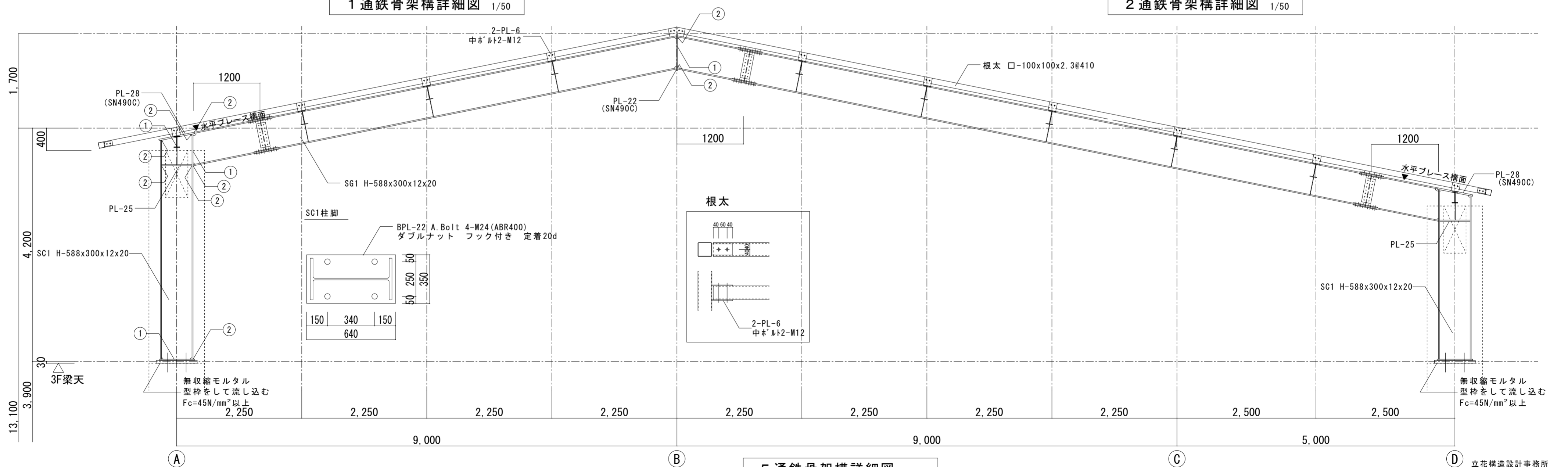
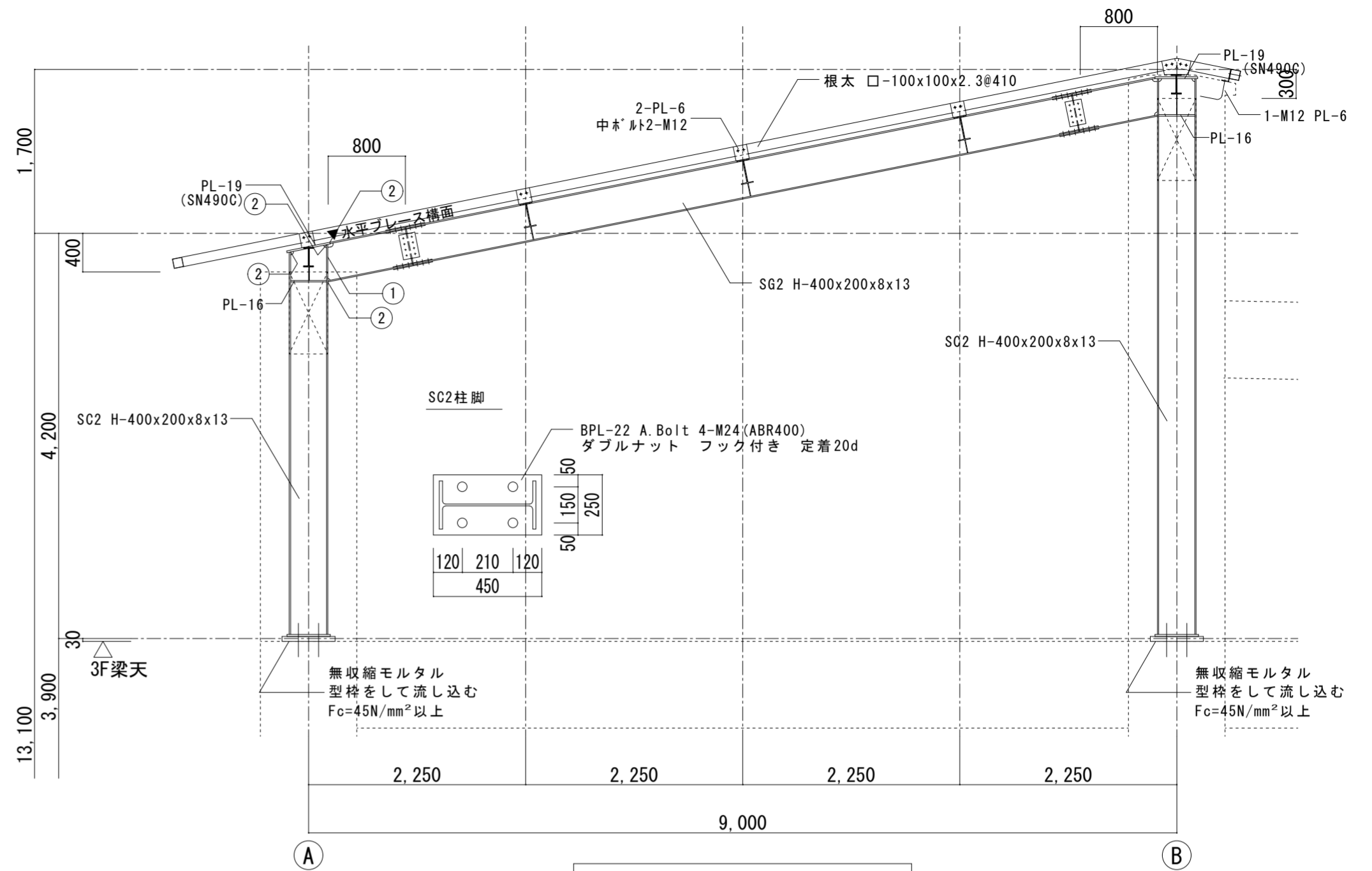
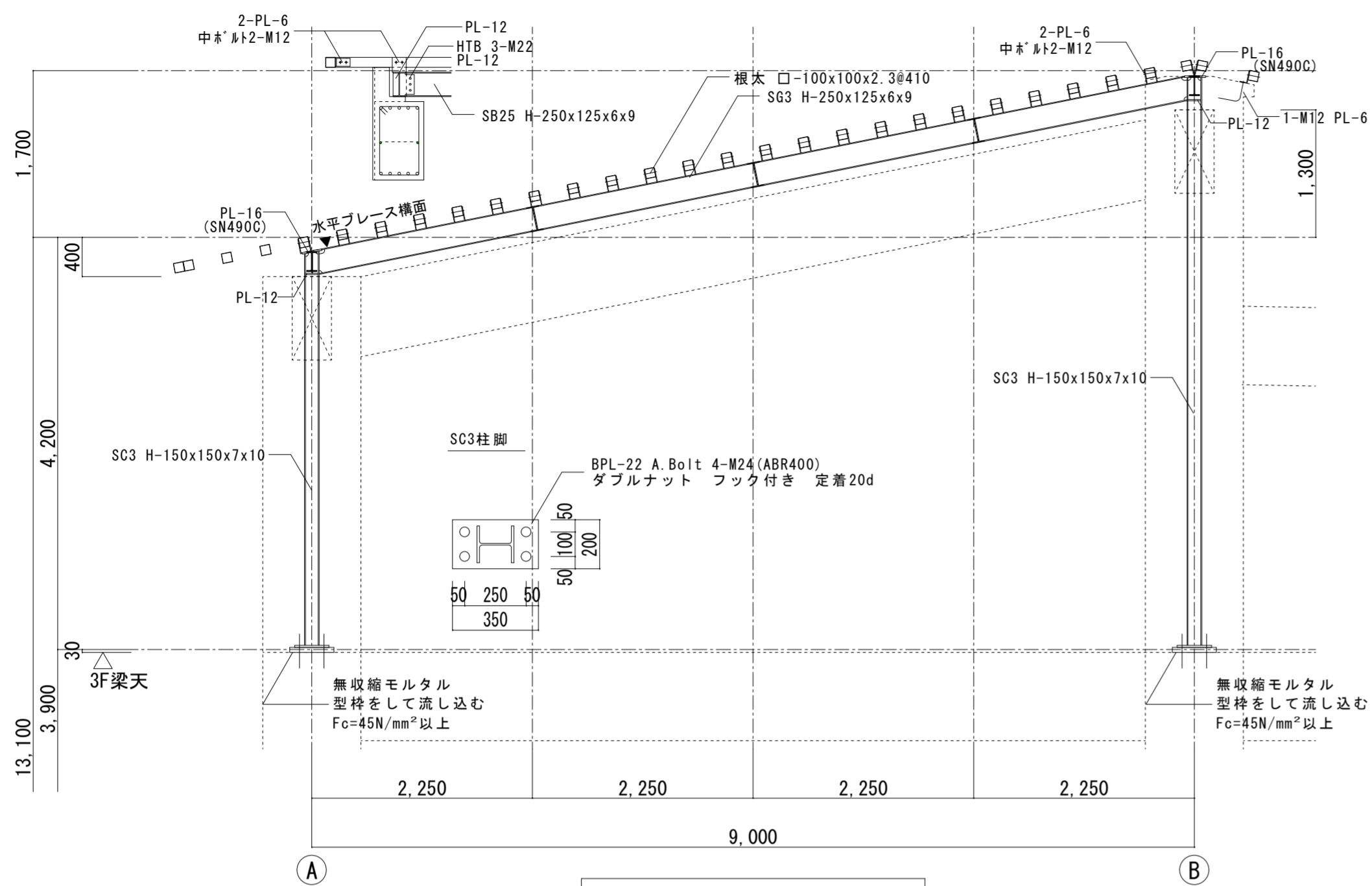


5 通架構配筋詳細図
1/50

立花構造設計事務所
立花 薫

特記：

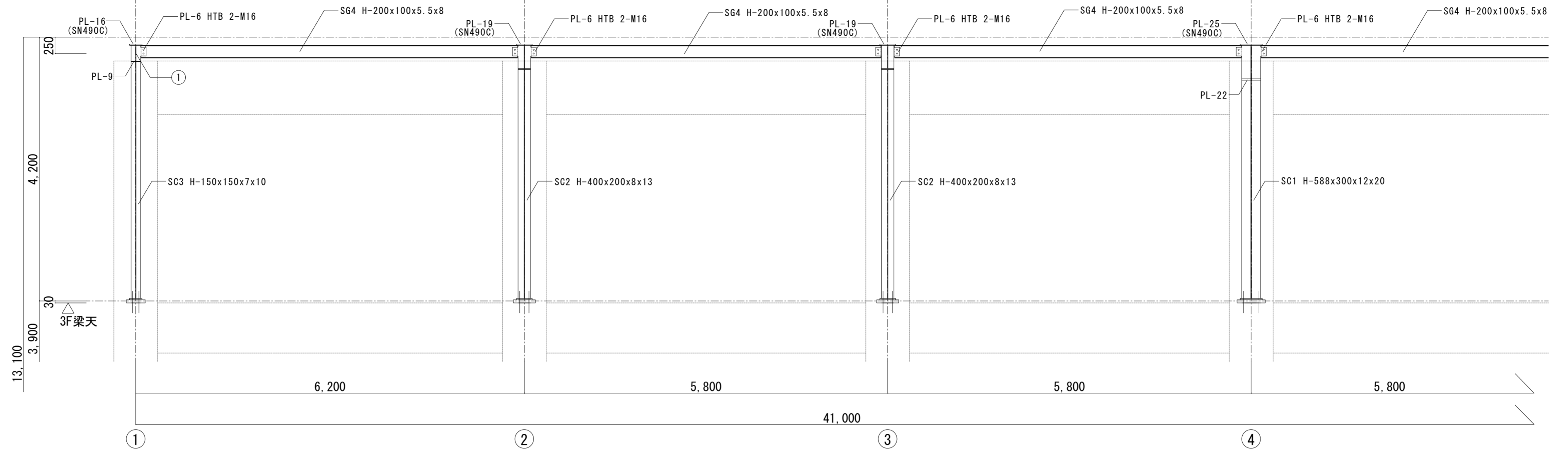
工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	5 通架構配筋詳細図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 24	S = 1:50	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	



立花構造設計事務所
 代表取締役 立花 薫

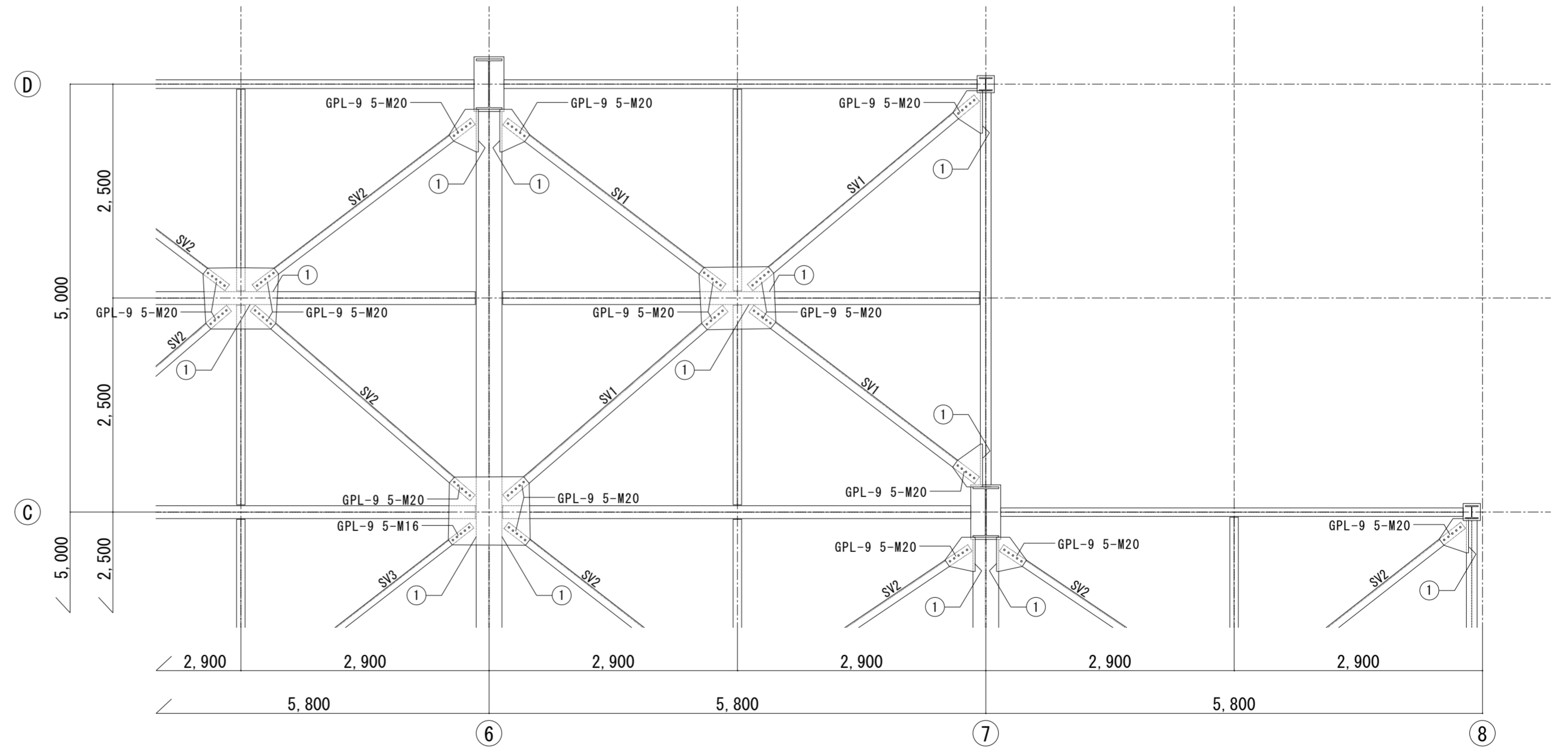
特記 :

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	3階鉄骨詳細図 1			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 25	S = 1:50	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	



A通鉄骨架構詳細図 1/50

部材リスト	
SG 1	H-588×300×12×20 (SN400B)
SG 2	H-400×200×8×13 (SN400B)
SG 3	H-250×125×6×9
SG 4	H-200×100×5.5×8
SC 1	H-588×300×12×20 (SN400B)
SC 2	H-400×200×8×13 (SN400B)
SC 3	H-150×150×7×10
SB 25	H-250×125×6×9
SB 20	H-200×100×5.5×8
SB 10	H-100×100×6×8
SP 1	H-125×125×6.5×9
SP 2	H-100×100×6×8
SP 3	□-100×100×6
母屋	C-100×50×20×2.3@606
SV 1	L-100×100×10
SV 2	L-90×90×10
SV 3	L-75×75×9
溶接検査	突き合わせ溶接部は、第三者機関による超音波探傷試験を行うこと。 試験の方法は、(社)公共建築協会発行 公共建築工事標準仕様書 (建築工事編・令和4年度版)による。
製作工場	認定工場 Mグレード 以上
鋼材	SN400B SS400 BCR295 SN490C (通しダイヤフラム) 高力ボルト S10T
鉄骨造の施工時に桁行方向について、転倒防止策を協議すること。	

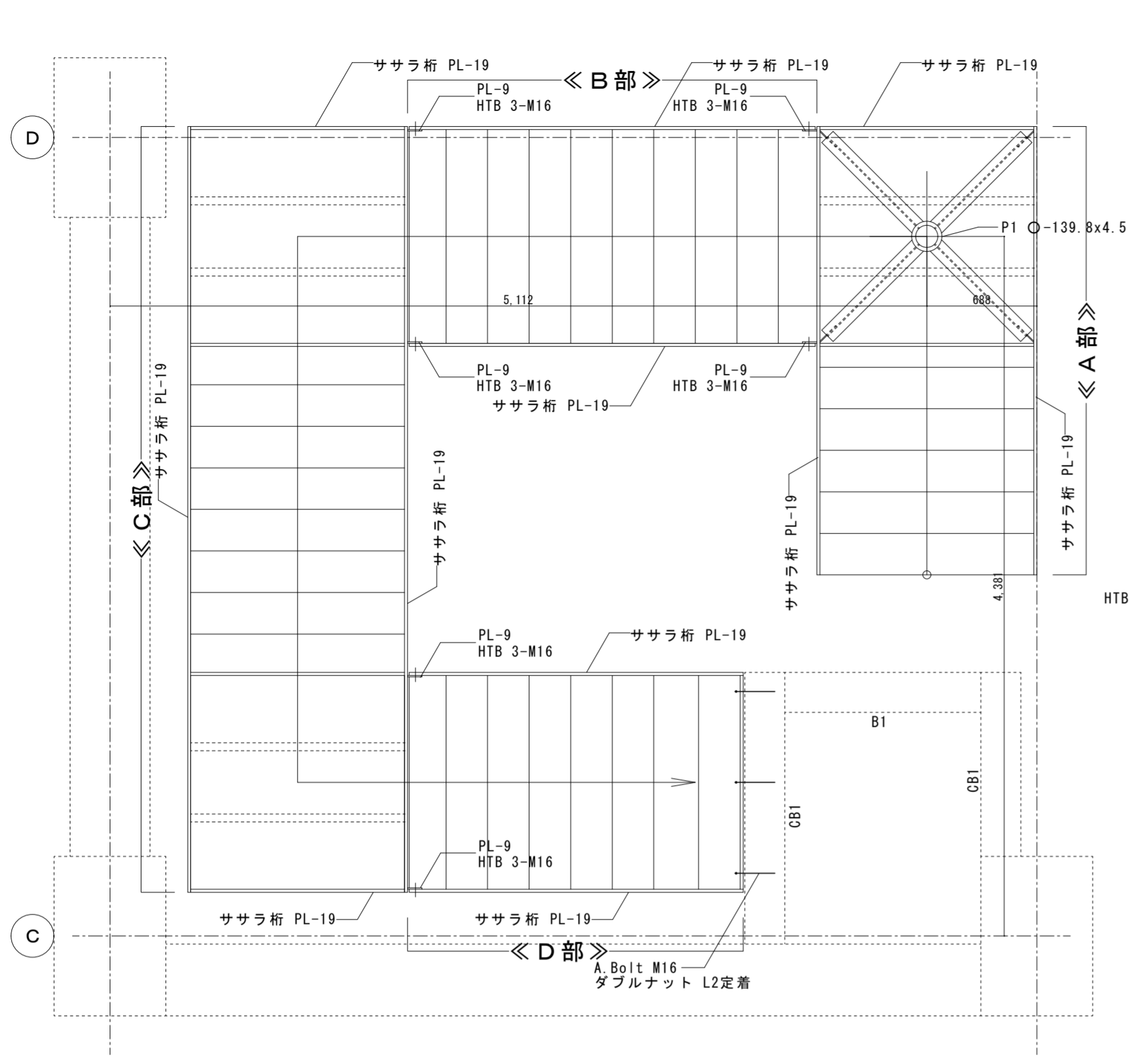


水平ブレース詳細図 1/50

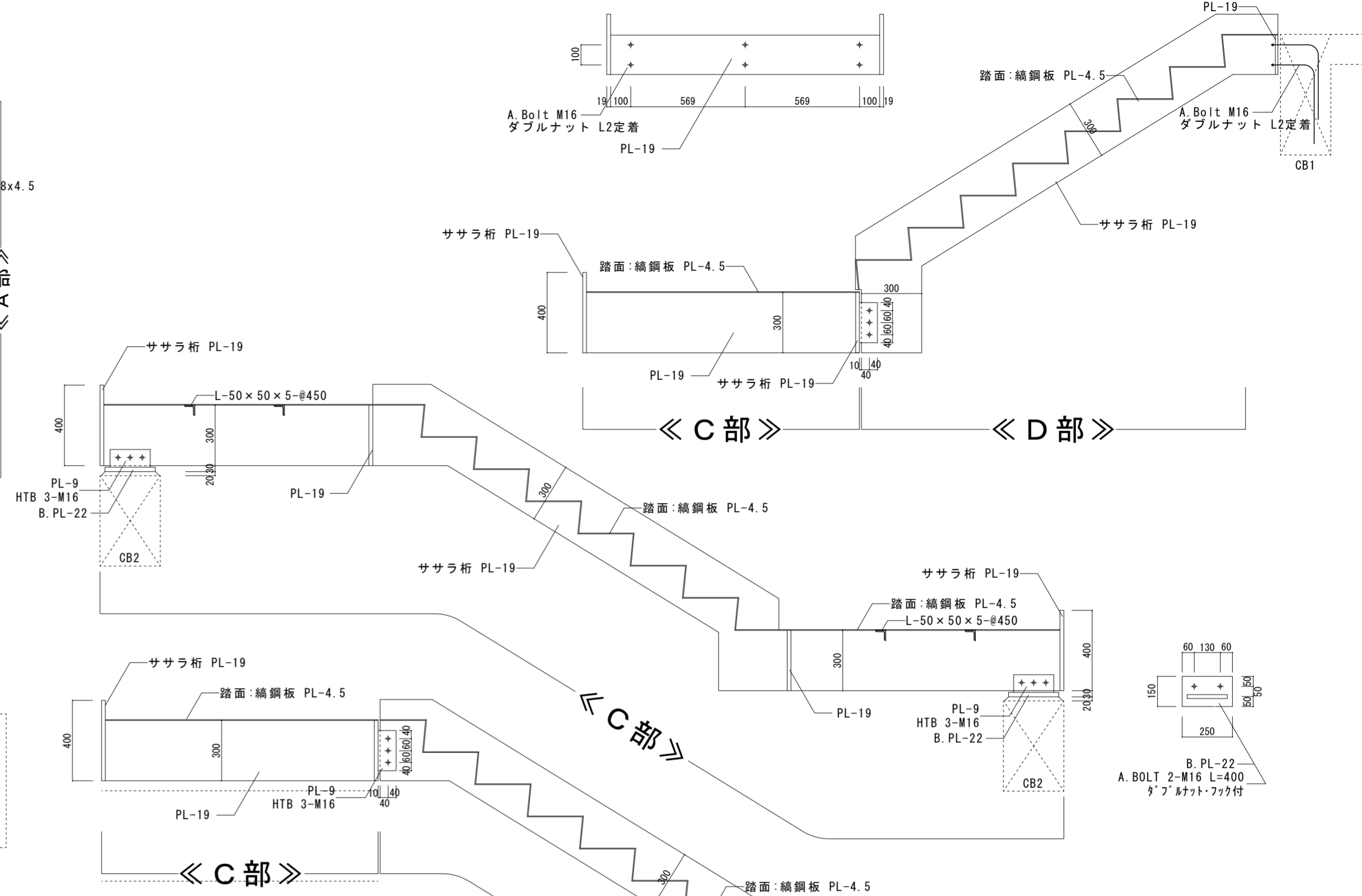
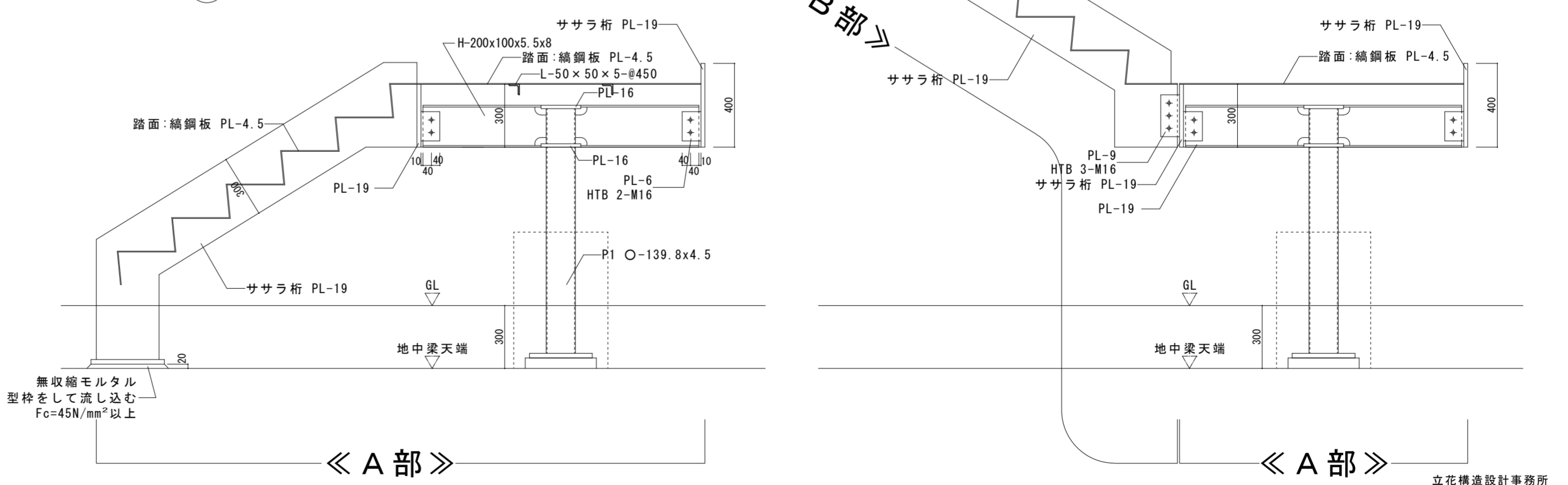
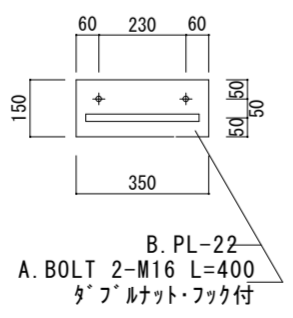
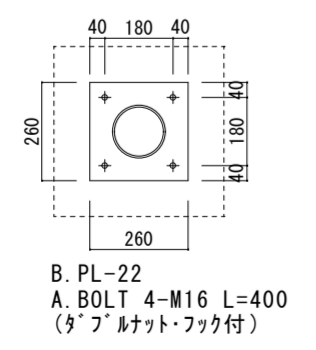
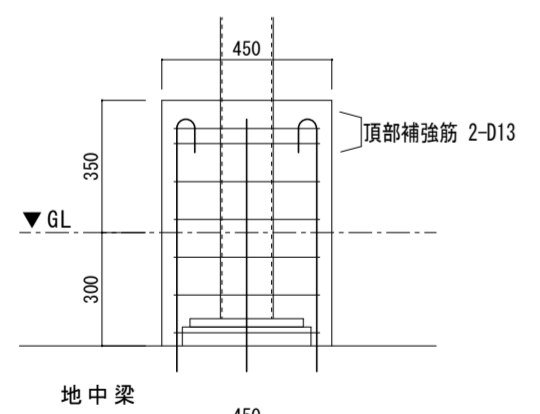
特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	3階鉄骨詳細図2			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S-26	S=1:50	年月	TEL 0886-22-0883	第102935号
				FAX 0886-22-0885	

立花構造設計事務所
代表取締役 立花 薫



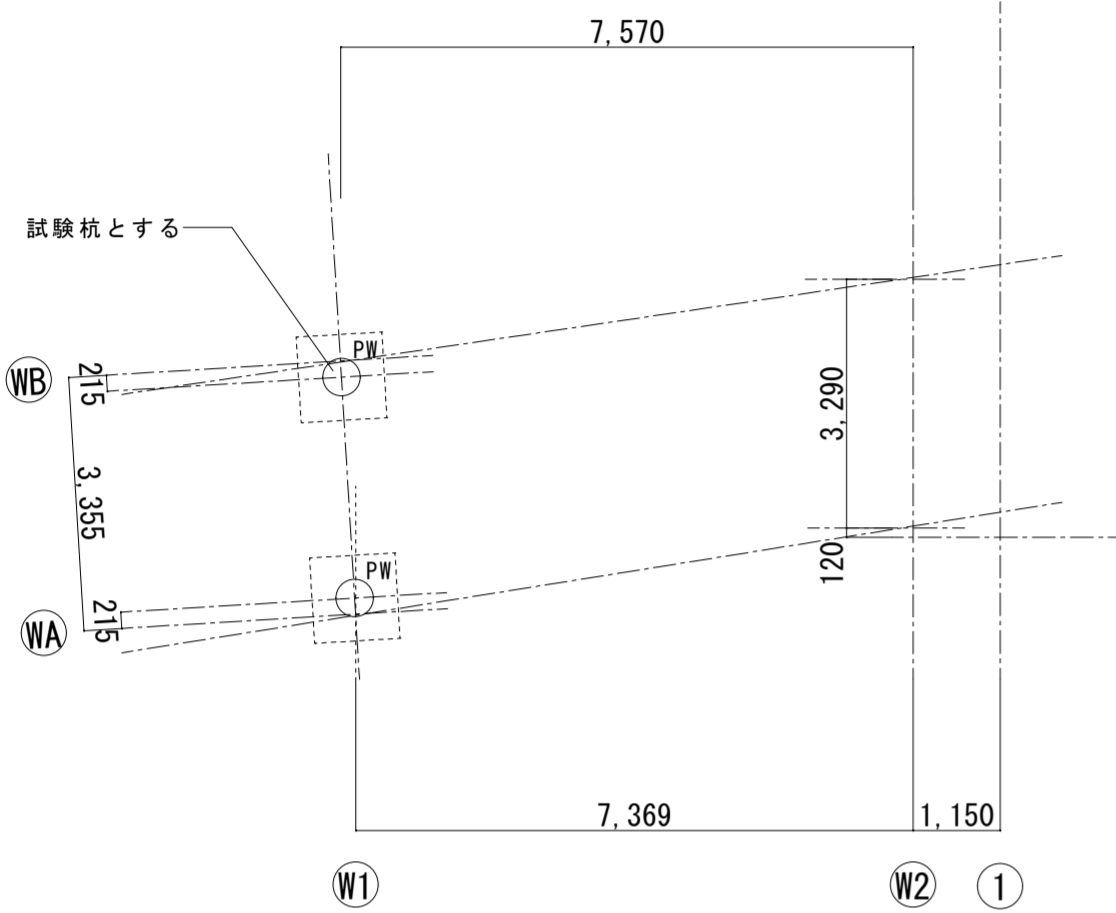
屋外階段詳細図 1/50
適宜、水抜き穴を設けること。



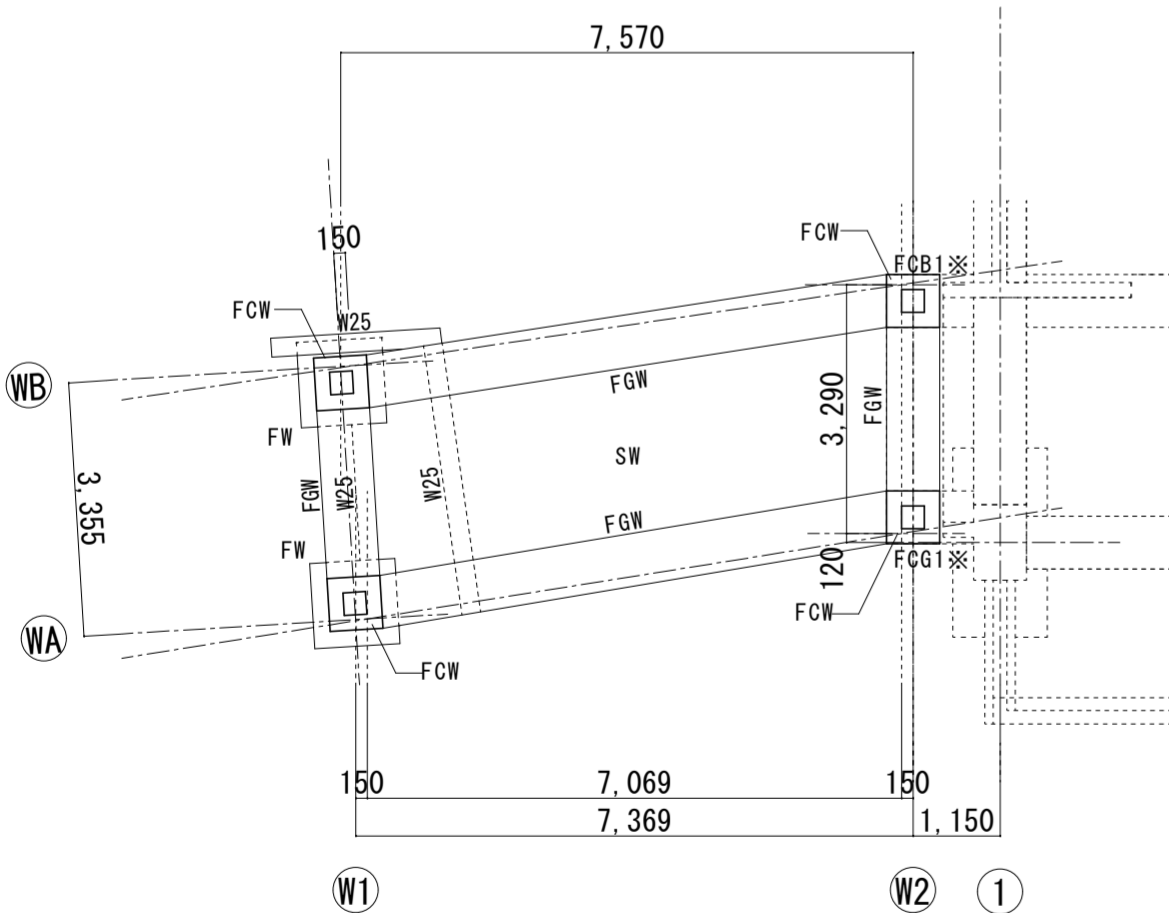
特記 :

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	屋外階段詳細図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 27	S = 1:20	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	

立花構造設計事務所
代表取締役 立花 薫



杭伏図 1/100



基礎伏図 1/100

FCB1※およびFCG1※は体育館棟基礎

地中大梁リスト 1/50

※幅止め筋はD10-@1000程度とする。

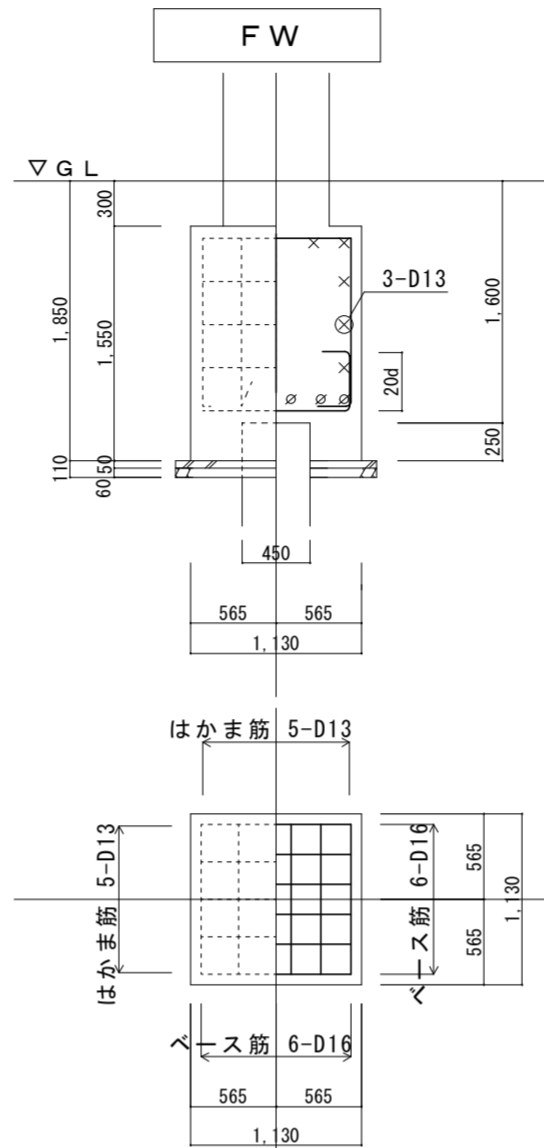
符号	FGW
位置	全断面
断面	
B × D	700 × 900
上端筋	6-D25
下端筋	6-D25
スターラップ	D13-□-@150
腹筋	4-D10

基礎柱リスト 1/50

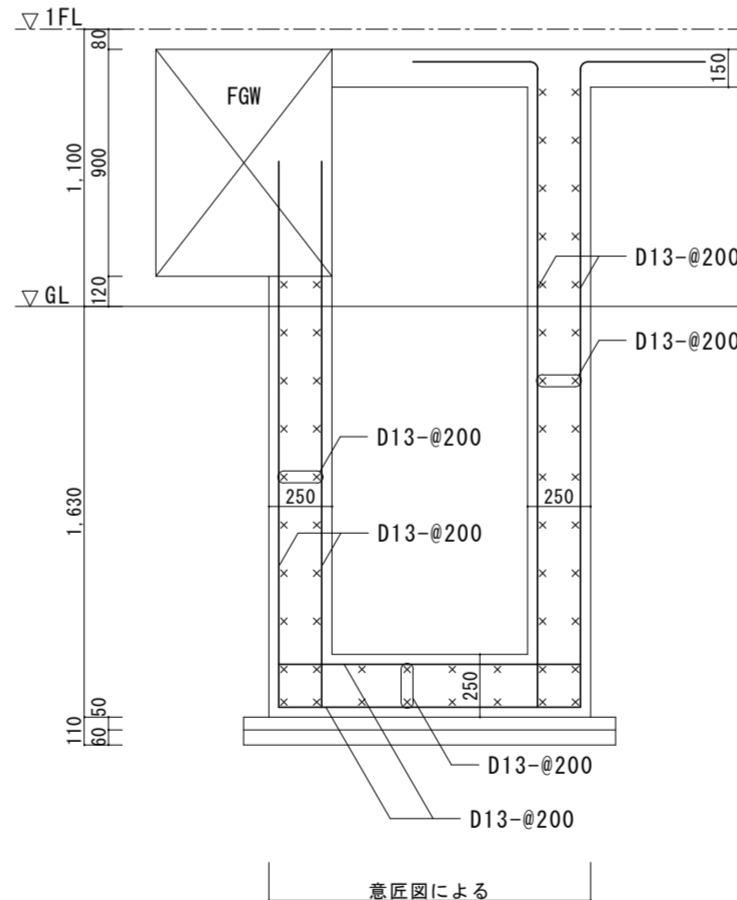
記号	FCW
断面	
B × D	700 × 700
主筋	12-D22
H o o p	D13-□-@100
備考	4-U-D29

スラブリスト

記号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向
SW	t=150	上端筋	D10+D13-200@	D10-200@
		下端筋	D10-200@	D10-200@



W25 配筋図 1/30



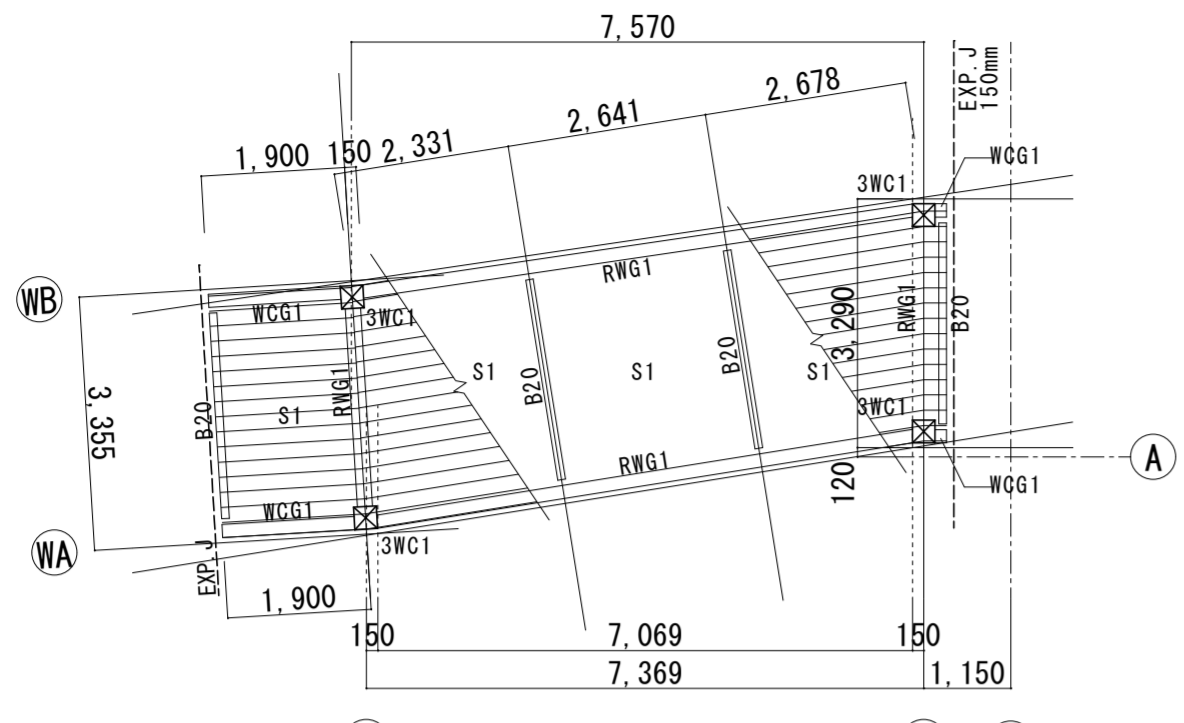
杭仕様	
工法	プレボーリング拡大根固め工法 (Hyper-MEGA工法同等品)
杭記号	PW
杭全長	18m
杭種・杭径	上杭 CPRC杭 φ450 (I種(T100) F85) 7m
	下杭 HF-PHC φ300-450 (B種(T100) F85) 11m
各杭長	
拡大比	1.00
設計支持力	550kN/本(長期)
本数	2本
杭頭深さ	GL-1.60m
杭深さ	GL-19.60m
継手	無溶接継手工法
杭頭処理	パイルスタッド 8-D22 定着880以上 杭頭端板厚さ 22mm以上
支持層	砂礫層

構造特記事項			
鉄筋コンクリート	基礎	$F_c = 27 \text{ N/mm}^2$	$SL = 15 \text{ cm}$
	上部	$F_c = 24 \text{ N/mm}^2$	$SL = 18 \text{ cm}$
土間コンクリート		$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$	$SL = 15 \text{ cm}$
捨てコンクリート		$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$	$SL = 15 \text{ cm}$
鉄筋コンクリート・土間コンクリートの調合強度は、構造体強度補正值(S)を考慮すること。捨てコンクリートは温度補正は行わない。			
基礎、躯体における鉄筋工事・コンクリート工事は、(社)公共建築協会発行 公共建築工事標準仕様書(建築工事編・令和4年度版)による。			
鉄筋		SD295 (D10~D16)	
		SD345 (D19~D29)	
継ぎ手は、圧接継ぎ手とする。(D19以上)			
圧接完了後の試験は超音波探傷試験とする。			
梁貫通孔補強材	建設技術評価品をしようすること		
	使用にあたってはそれぞれの部分について		
	メーカーによる構造計算書を提出し 監督員の承諾を得ること		

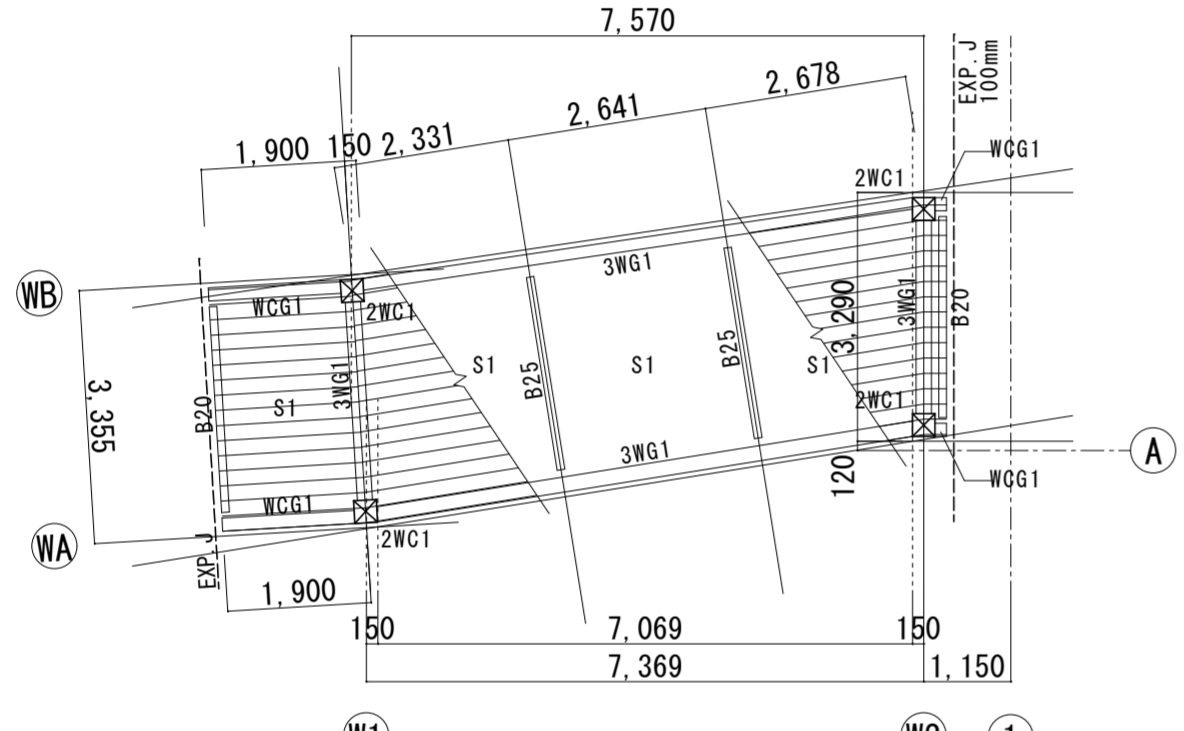
立花構造設計事務所
 代表取締役 立花 薫
 構造設計 立花 薫

特記:

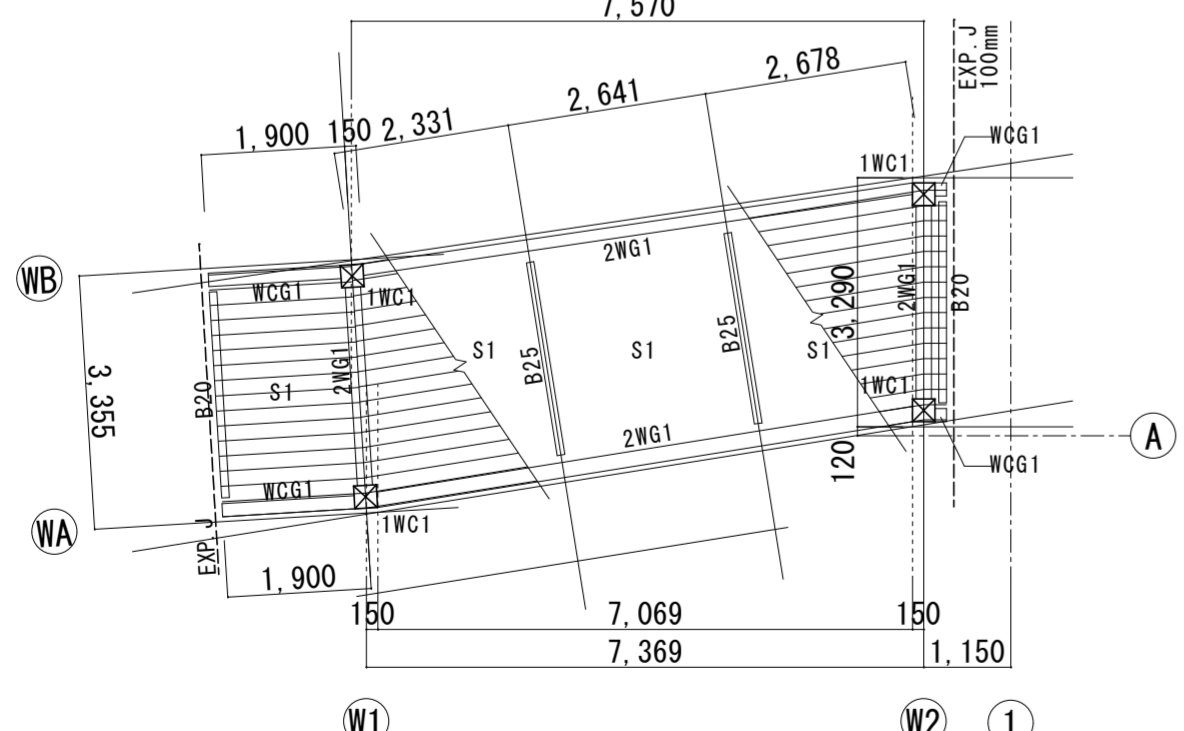
工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所 連水可次
名称	渡り廊下 杭伏図・基礎伏図・基礎リスト			徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
図番	S-28	S=1:100	年月	TEL 0886-22-0883 第102935号
				FAX 0886-22-0885



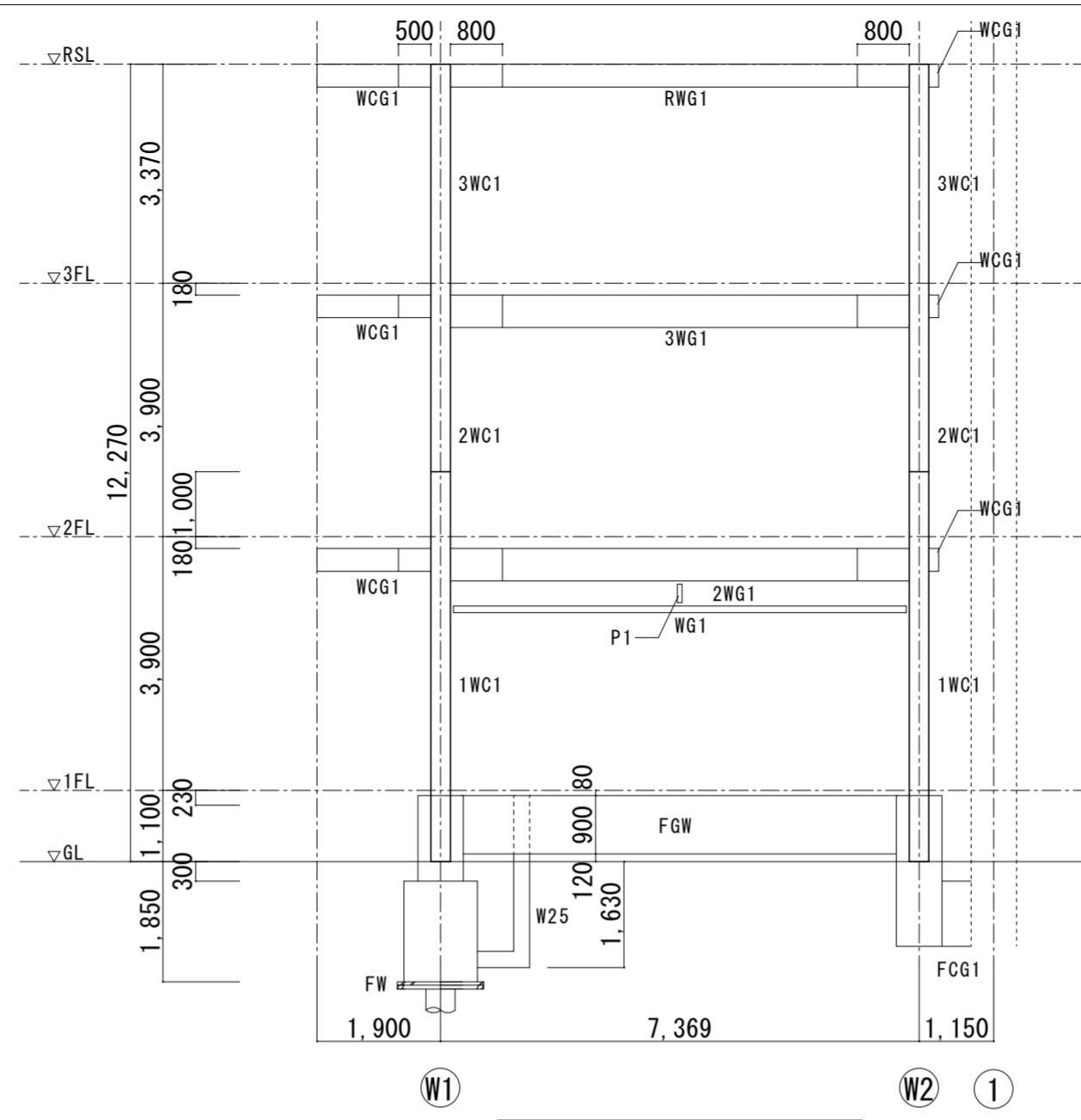
3階柱R階床梁伏図 1/100



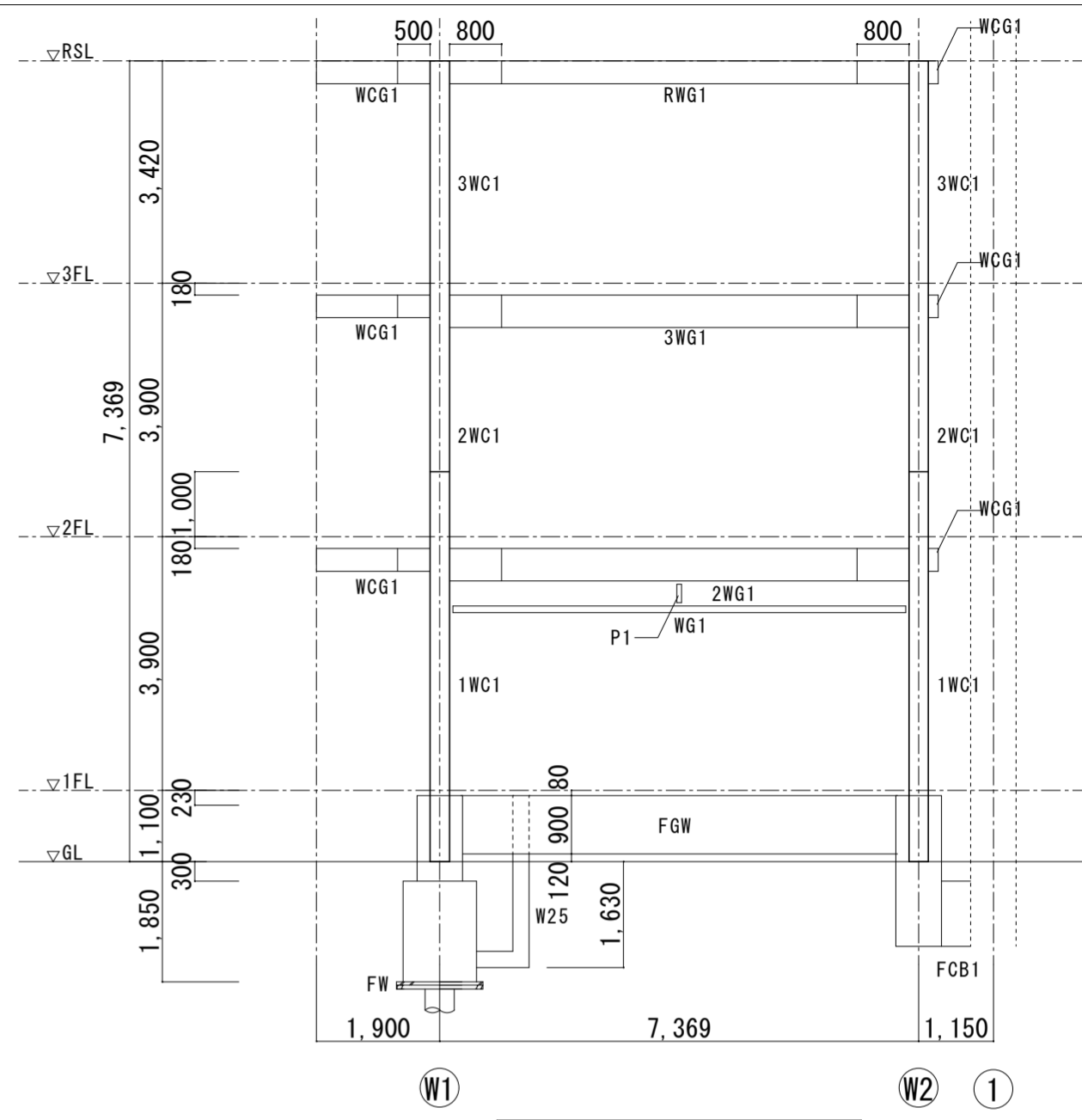
2階柱3階床梁伏図 1/100



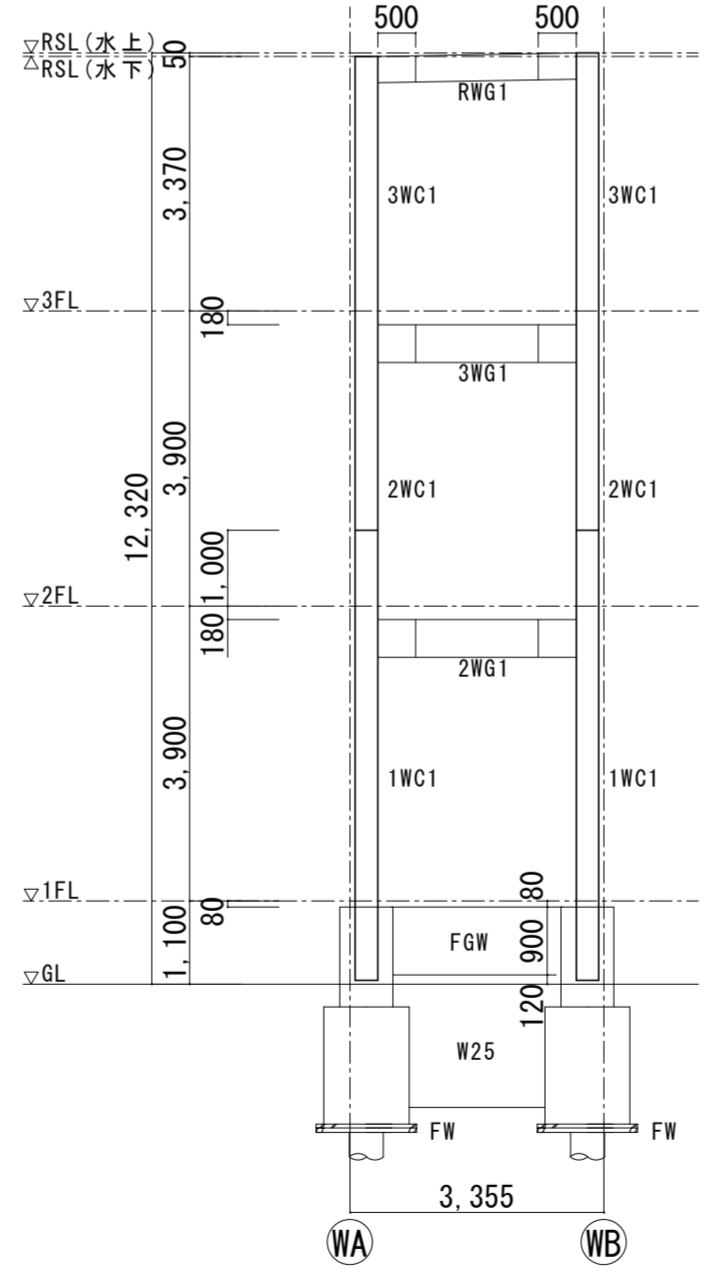
1階柱2階床梁伏図 1/100



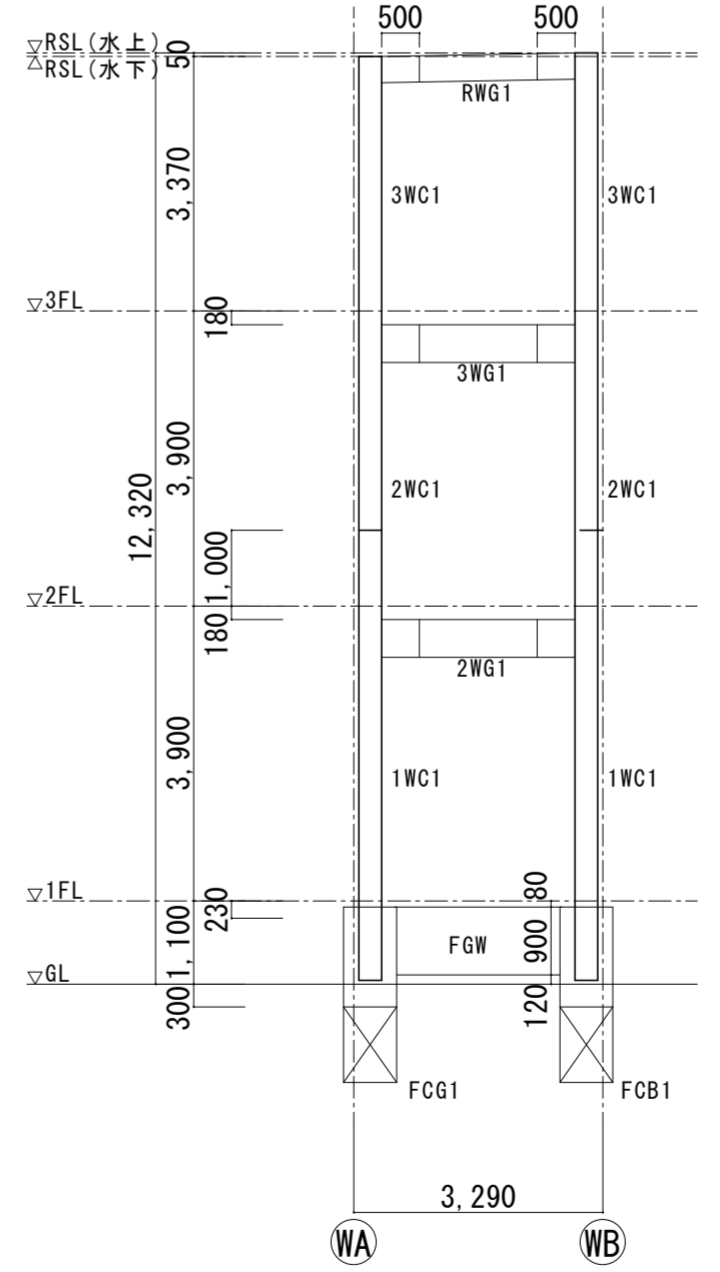
WA通軸組図 1/100



WB通軸組図 1/100



W1通軸組図 1/100



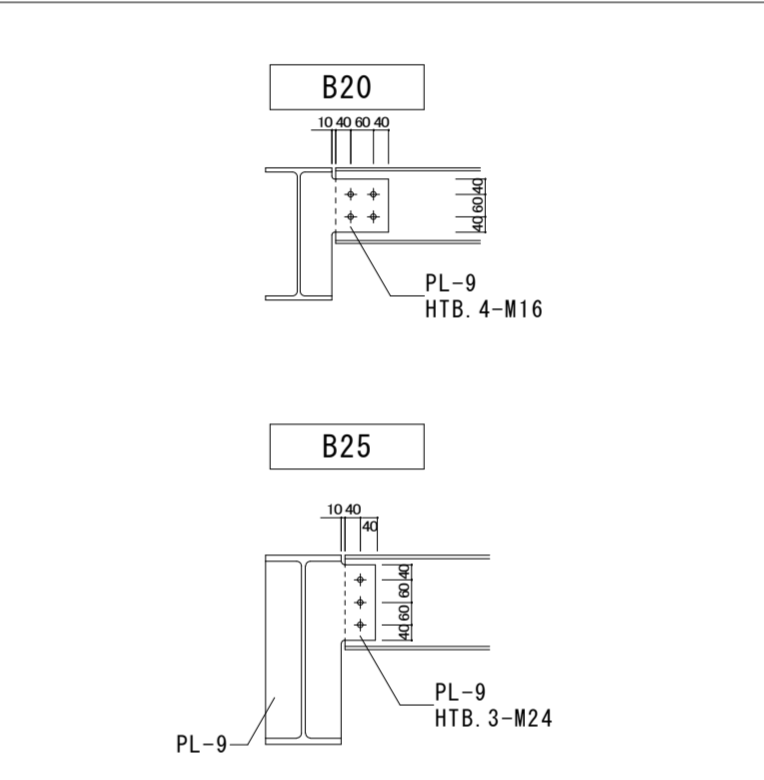
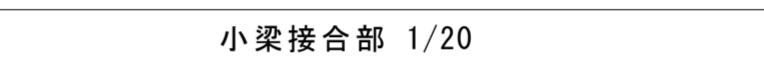
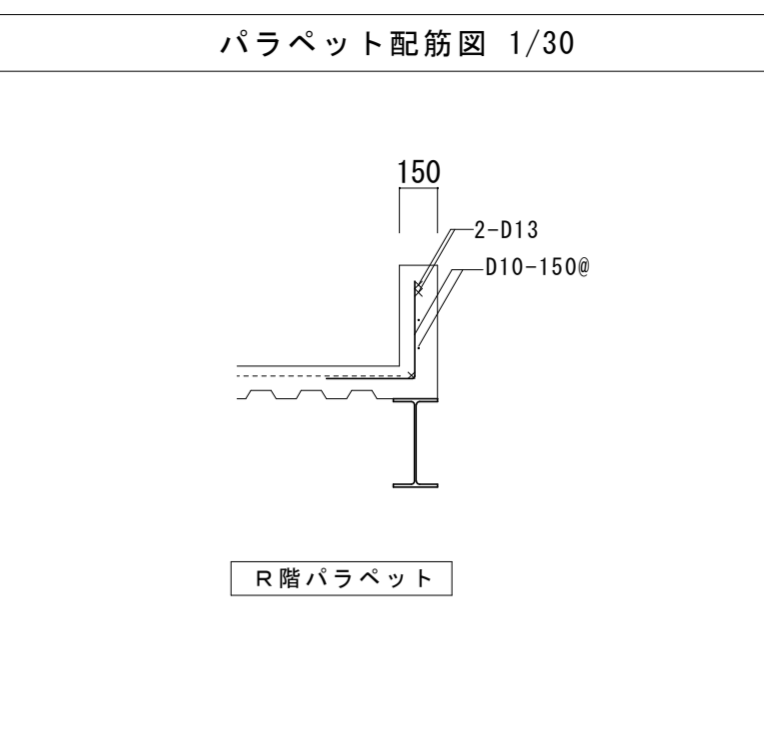
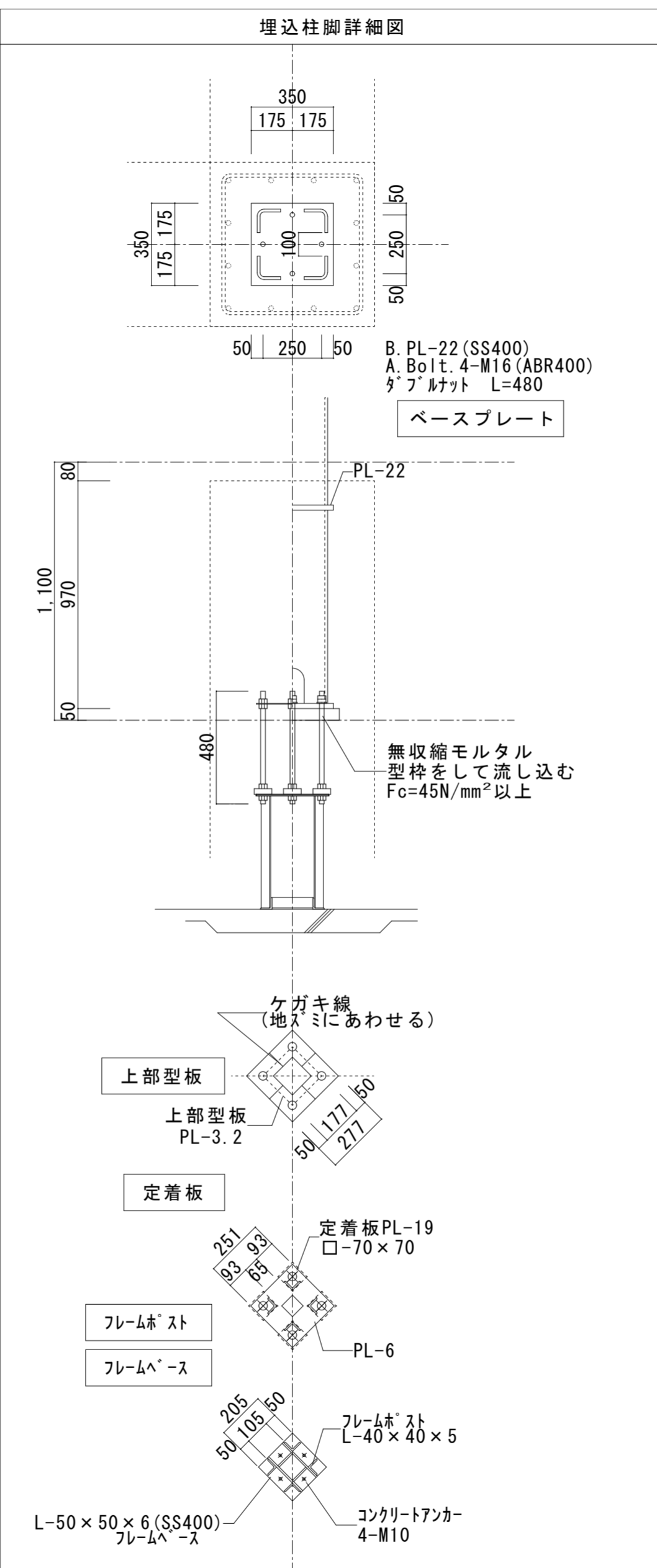
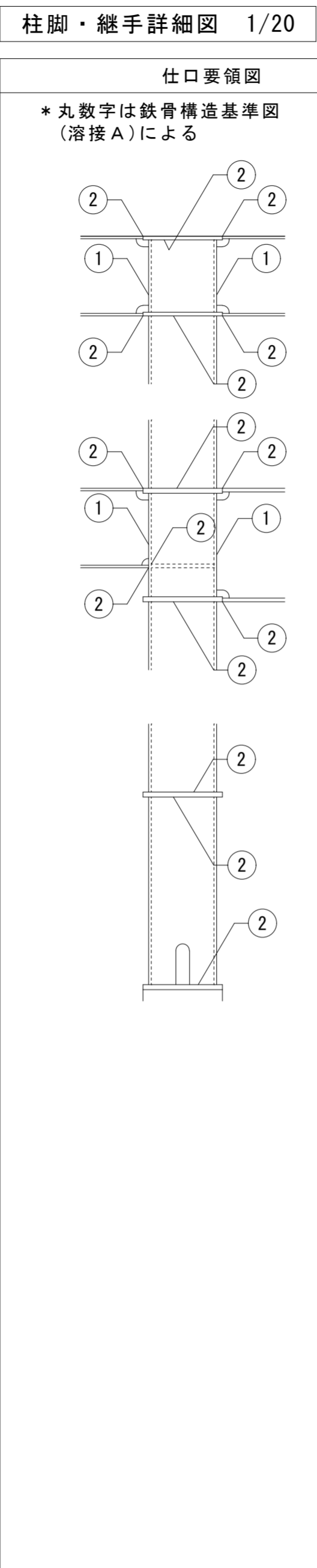
W2通軸組図 1/100

特記：

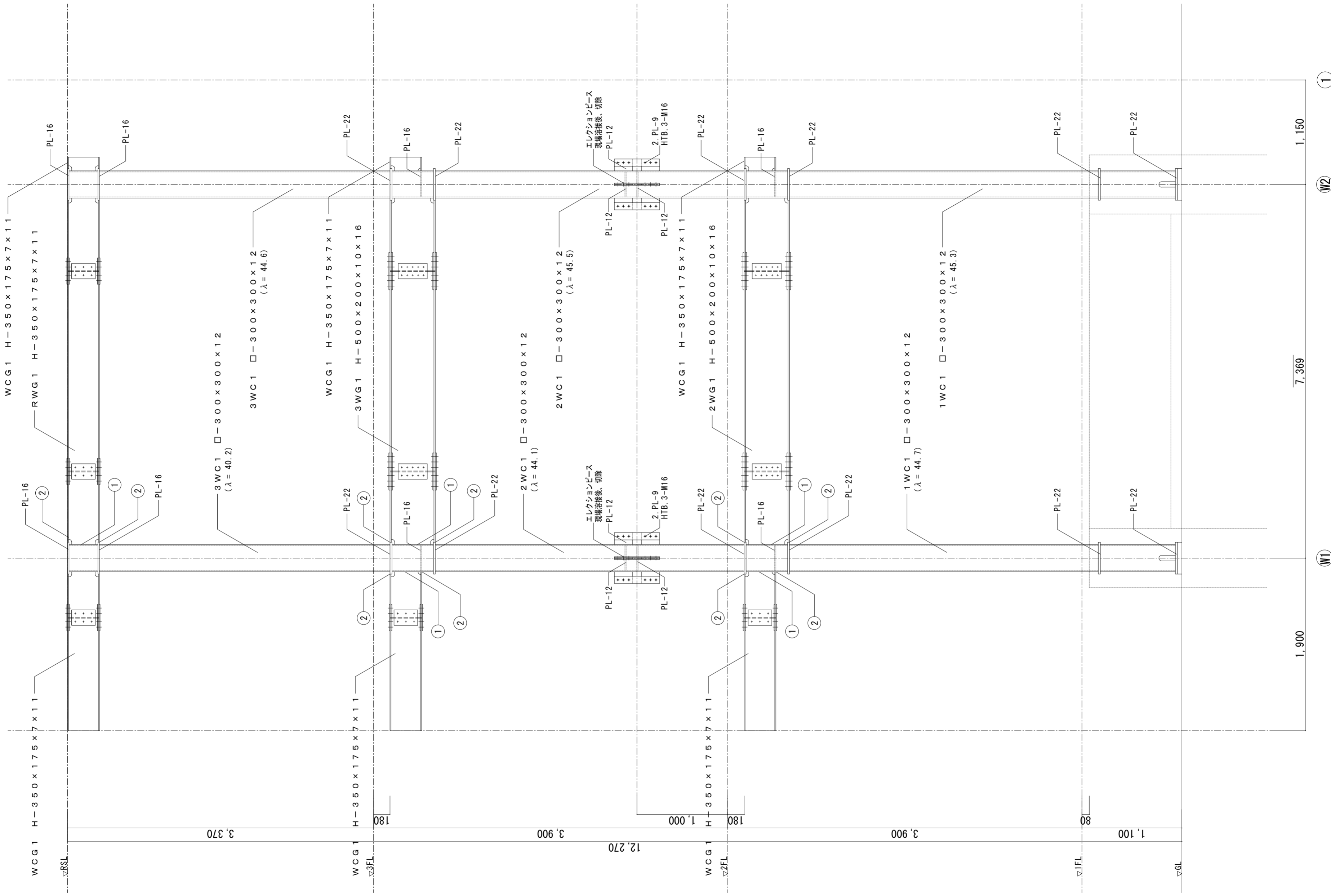
工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事		
名称	渡り廊下 伏図・軸組図		
図番	S - 29	S = 1:100	年月

立花構造設計事務所
 代表取締役 立花 薫
 株式会社 剛 建築事務所 連水 可次
 徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
 TEL 0886-22-0883 第102935号
 FAX 0886-22-0885

部材リスト	
RWG1	H-350×175×7×11 (SN400B)
3WG1	H-500×200×10×16 (SN400B)
2WG1	H-500×200×10×16 (SN400B)
WCG1	H-350×175×7×11 (SN400B)
B20	H-200×100×5.5×8
B25	H-250×125×6×9
WG1	H-200×100×5.5×8
P1	H-200×100×5.5×8
3WC1	□-300×300×12 (BCR295)
2WC1	□-300×300×12 (BCR295)
1WC1	□-300×300×12 (BCR295)
	埋め込み柱脚は詳細図参照
合成床版 (S1)	QL99-50 t=1.2 同等品 コンクリート山上 t=80 (Fc=24) 焼き抜き栓溶接 異形鉄筋 D10-200@ 表面処理は亜鉛メッキとする。
製作工場	認定工場 グレードM以上
溶接検査	突き合わせ溶接部は、第三者機関による超音波探傷試験を行うこと。 試験の方法は、(社)公共建築協会発行 公共建築工事標準仕様書(建築工事編・令和4年度版)による。
鋼材	SS400 SSC400 BCR295 SN400B 高力ボルト F8T 柱のトッププレート及び通しダイヤフラムはSN490Cとする。 通しダイヤフラムの厚さは取り付く梁の最大フランジ厚さの2サイズアップ(+6mm)以上とする。 内ダイヤフラムの厚さは取り付く梁の最大フランジ厚さの1サイズアップ(+3mm)以上とする。
梁貫通孔補強	建設技術評価品をしようすること 使用にあたってはそれぞれの部分についてメーカーによる構造計算書を提出し 監督員の承諾を得ること



特記:	工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			
	名称	渡り廊下 部材リスト・柱脚・継手詳細図			
	図番	S-30	S=1:20	年月	

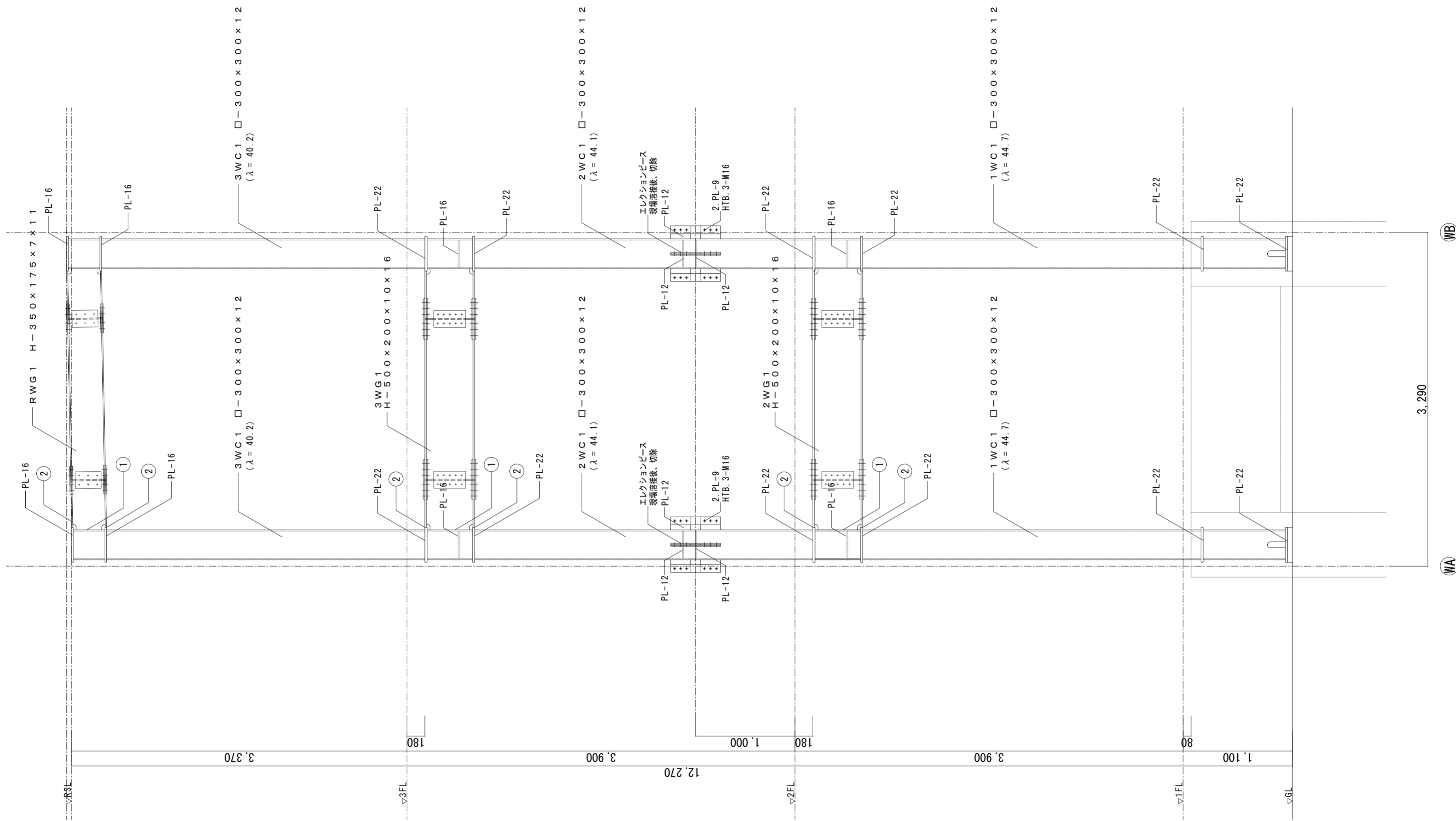


WB通架構詳細図 1/30

特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事		
名称	WB通架構詳細図		
図番	S - 31	S = 1:30	年月

立花構造設計事務所
二級建築士事務所 登録第126293号 構造設計一級建築士 第5243号 立花 薫
 株式会社 剛 建築事務所 連水 可次
 徳島市末広3丁目3-3 1級建築士登録
 TEL 0886-22-0883 第102935号
 FAX 0886-22-0885



W 1 通架構詳細図 1/30

立花構造設計事務所
二級建築士事務所 登録第126195号
 構造設計一級建築士 登録第5243号 立花 薫

特記：

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
名称	W 1 通架構詳細図			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
図番	S - 32	S = 1:30	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
				FAX 0886-22-0885	

鉄筋コンクリート構造配筋基準図 6-1

I. 構造設計概要

1. 建築物の構造内容

- (1) 建築場所
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造設計一級建築士の関与 必要 必要としない
 - 法第20条第一号(高さ60m超)
 - 法第20条第二号(RC造高さ20m超 S造4階建以上 木造高さ13m超 その他)
- 注(3) 構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認すること。
- (4) 階数
 - 地下階
 - 地上階
 - 塔屋階
- (5) 主要用途
- (6) 増築計画 有()無
- (7) 構造計算ルート X方向ルート () Y方向ルート ()
- (8) 鉄筋の継手及び定義
 - 建築基準法施工令36条及び73条による仕様規定に準ずる事。
 - X Y両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、政令73条の仕様規定によらずJASS(2009)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC基準2010とすることができる。

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (レディミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIA A 5309)

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質基準強度 F _a =N/mm ²	スランプ cm	種類
捨てコンクリート	■普通				
土間コンクリート	■普通				
基礎・基礎梁	■普通				
柱・梁・床・壁	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量 <input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				
	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				

■単位水量は185kg/m³以上とする。 (注)単位水量は185kg/m³以上とする。

構造特記仕様参照

(2) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	<input type="checkbox"/> SD295 A		<input type="checkbox"/> 重ね継手
	<input type="checkbox"/> SD295 B		<input type="checkbox"/> ガス圧接継手
	<input type="checkbox"/> SD345		<input type="checkbox"/> 溶接継手
	<input type="checkbox"/> SD390		<input type="checkbox"/> 機械式継手
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> 材種		
	<input type="checkbox"/> 大臣認定番号 MSRB-		
丸鋼 (JIS G 3112)	<input type="checkbox"/> SR235		
溶接金網 (JIS G 3551)	<input type="checkbox"/>		

3. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

有 (敷地内 近隣) 無 (調査計画 有 無)

規格番号	資料有り	調査計画	資料有り	調査計画	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験		標準貫入試験	
水平地盤反力係数の測定			土質試験		物理探査	
試験掘 (支持層の確定)			平板載荷試験		液化判定	
H-ソノ式サウンダ			現場透水試験		PS検層	

注) 上記表中の資料が有るものに○を記入する。

4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験掘 有 無
深さ 6L- m、支持層-、長期許容支持力度 kN/m² 載荷試験 有 無
- (2) 地盤改良 浅層混合処理工法 深層混合処理工法布基礎 有 無
深さ 6L- m、長期許容支持力度 kN/m² 載荷試験 有 無
- 注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする
- (3) 杭基礎 支持層-

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> SC杭	PRC(<input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種) PHC(<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種) 鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SKK400 JIS	<input type="checkbox"/> 打ち込み <input type="checkbox"/> 埋込み(セメントミルク工法) <input type="checkbox"/>	評定年月日
<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭	コンクリート F _c N/mm ² F _a N/mm ² スランプ cm以下 セメント量 kg/m ³ 単位水量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 底底杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	評定年月日

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書
試験杭 (有・無) (打ち込み・載荷・孔壁測定) 本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

5. 設備関係

- ・ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
- ・ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講ずること。
- ・ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
- ・ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
- ・ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
- ・ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
- ・ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
- ・ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
- ・ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

6. その他

- ・ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- ・ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- ・ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
- ・ 本構造配筋基準図は、設計者の責任において使用すること。

II. 配筋基準図

1. 鉄筋の材料

鉄筋は表1により、種類の記号は特記による。

規格番号	規格名称	種類の記号
JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235, SR295 SD295A, SD295B, SD345, SD390

溶接金網はJIS G 3551(溶接金網及び鉄筋格子)により、網目の形状、寸法及び鉄線の径は特記による。

2. 鉄筋の表示

A. 特記の表示記号

鉄筋径	異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
表示記号	●	×	○	●	○	●	○	●	○

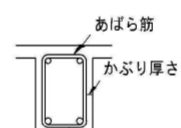
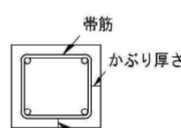
B. 鉄筋の表示方法

表示方法	備	考	例
異形形	n-D d	n=本数 D=異形鉄筋 d=公称直径	3-D16
形	D d-L @	D=異形鉄筋 d=公称直径 L=距離 @=間隔	D10-200@

3. 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

構造部分の種類	最小かぶり厚さ(mm)		
スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20	
	仕上げなし	30	
土に接しない部分	柱 内	仕上げあり	30
	梁 内	仕上げなし	30
	耐力壁 内	仕上げあり	30
	耐力壁 外	仕上げなし	40
擁壁、耐圧スラブ	40		
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	*40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	*60	
煙突等腐蝕を受ける部分	60		

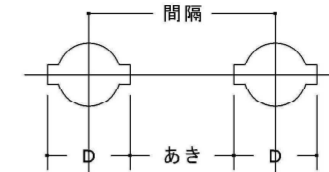


- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
- 2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
- 3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
- 4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
- 5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は特記による。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶりの厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- (d) 鉄筋相互のあきは、下記のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合はあきは、特記による。
- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径の1.5倍



- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。
- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

4. 鉄筋の末端部

- 鉄筋の末端部には、次の場合にフックをつける。
- (1) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合(図4.1の●印で示す鉄筋)。
- (2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(図4.1.(b)の●印で示す鉄筋)。ただし、基礎梁を除く。

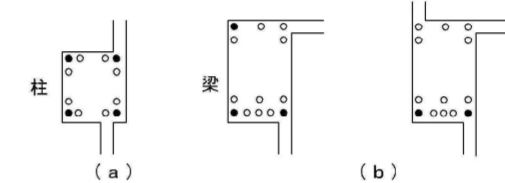


図4.1

- (3) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)。
- (4) 杭基礎のベース筋。
- (5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

表4.1 鉄筋の折曲げ

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A, SD295B, SD345	D16以下	D19~D38
180°		D16以下	D19	D19
135°		3d以上	4d以上	5d以上
90°				
135°及び90°(幅止め筋)				

- (注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
- 2. 90°未満の折り曲げの内法直径は特記による。

工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事		
名称	鉄筋コンクリート構造配筋基準図6-1		
図番	S-33	NO SCALE	年月

株式会社 剛 建築事務所	連水可次
徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
TEL 0886-22-0883	第102935号
FAX 0886-22-0885	

5. 鉄筋の継手

- (a) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手とし、適用は特記による。
- (b) 鉄筋の継手位置は、特記による。
- (c) 鉄筋の重ね継手は、次による。
 - なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (1) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。特記がなければ、 $40d$ （軽量コンクリートの場合は $50d$ ）と表5.1の重ね継手長さのうち大きい値とする。
- (2) (1)以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表5.1による。
- (3) 隣り合う継手の位置は、表5.2に在る。ただし、壁の場合及びスラブ筋で $D16$ 以下の場合を除く。
 - なお、先組工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表5.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (F_c) (N/mm^2)	L1 (フックなし)		L1h (フックあり)	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	30d
	21	40d	35d	30d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d
SD345	18	50d	40d	35d	30d
	21	45d	35d	30d	25d
	24, 27	40d	35d	30d	25d
SD390	18	50d	40d	35d	30d
	21	45d	35d	30d	25d
	24, 27	40d	35d	30d	25d

- (注) 1. L1, L1h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
 2. フックありの場合のL1hは、図5.1に示すようにフック部分 l を含まない。
 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

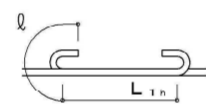


図5.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

表5.2 隣合う継手の位置

継手の種類	フックありの場合	フックなしの場合
重ね継手	<p>$a = 0.5L1h$</p>	<p>$a \geq 0.5L1$</p>
圧接継手	<p>$a \geq 400mm$</p>	
機械式継手	<p>aは、400mm以上、かつ、$(b+40)$mm以上</p>	

6. 鉄筋の定着

- (a) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、 $40d$ （軽量コンクリートの場合は $50d$ ）表6.1の定着長さのうち大きい値とする。
- (b) (a)以外の鉄筋の定着の長さは、表6.1による。

表6.1 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (F_c) (N/mm^2)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3	L3h	L1h	L2h	L3h	L3h
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d	20d	10d	30d	25d	10d	—
	24, 27	35d	30d	20d	10d	25d	20d	10d	—
SD345	18	50d	40d	20d	10d	35d	30d	10d	—
	21	45d	35d	20d	10d	30d	25d	10d	—
	24, 27	40d	35d	20d	10d	25d	20d	10d	—
SD390	18	50d	40d	20d	10d	35d	30d	10d	—
	21	45d	35d	20d	10d	30d	25d	10d	—
	24, 27	40d	35d	20d	10d	25d	20d	10d	—

- (注) 1. L1, L1h: (b)以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 2. L2, L2h: 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着長さ及びフックあり定着の長さ
 3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
 4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
 5. フックあり定着の場合は、図6.1に示すようにフック部分 l を含まない。また中間部での折り曲げは行わない。
 6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- (c) 定着の方法は、図6.1による。

なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さ L が、表6.1のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表6.1に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表6.2に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上）をのみ定める。

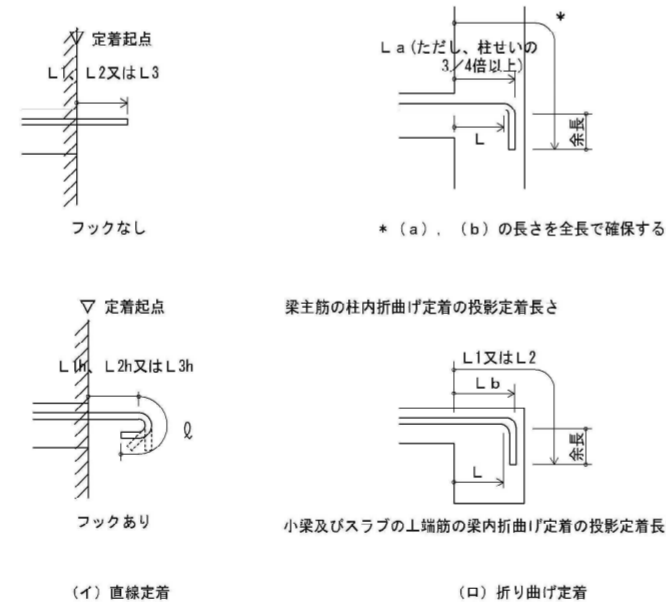


図6.1 定着の方法

表6.2 投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (F_c) (N/mm^2)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
SD390	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d

- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
 2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

7. 柱

A. 継手及び定着

- (1) 継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上1,500mm以下かつ $3/4h_0$ (h_0 は柱の内法高さ)以下とする。重ね継手長さは、 L_1 とし、定着及び余長は、図7.1による。
- (2) ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。
- (3) 柱頭柱主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。

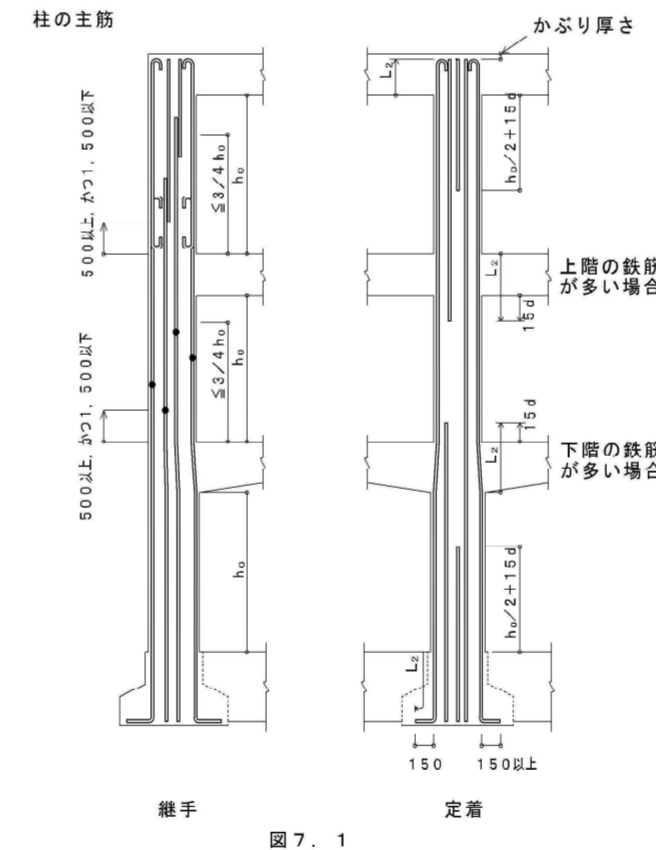


図7.1

- (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
 2. 隣り合う継手の位置は、表5.2による。
 3. 継手、定着は、すべての階に適用できる。

B. 中間階の配筋 (上、下階で柱幅が異なる場合)

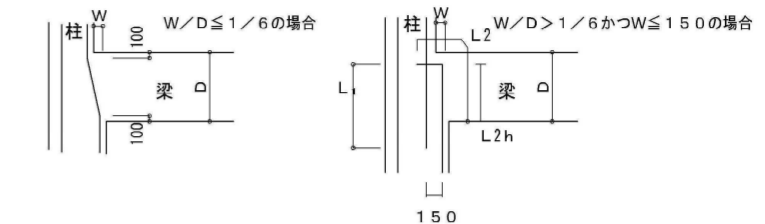


図7.2

8. 帯筋

A. 形状

- 帯筋組立ての形は、下図とし、適用は特記による。ただし、特記がなければ下記による。
- (1) H形を標準とする。
 - (2) フック及び継手の位置は、交互とする。
 - (3) 溶接する場合の溶接長さ L は両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
 - (4) SP形において、柱頭及び柱筋の端部は、1.5巻以上の巻巻きを行なう。
 - (5) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。

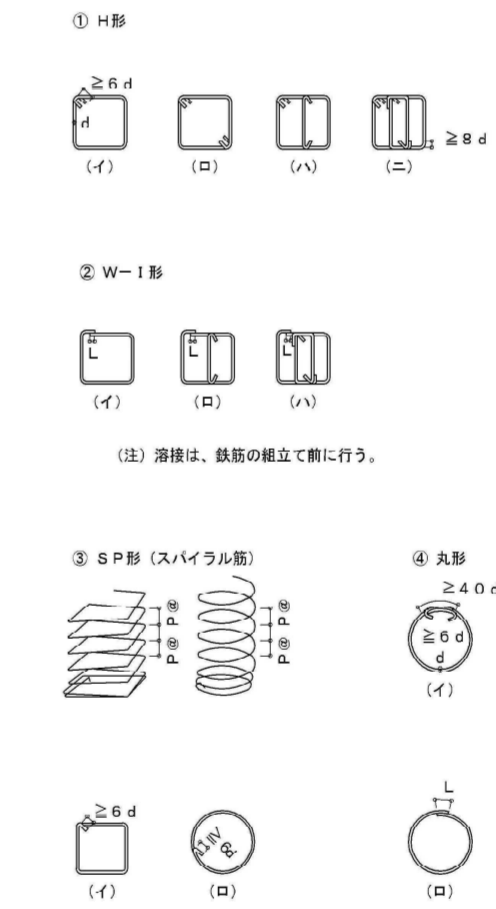


図8.1

鉄筋コンクリート構造配筋基準図 6-3

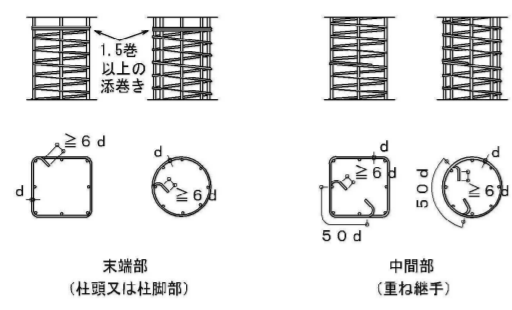
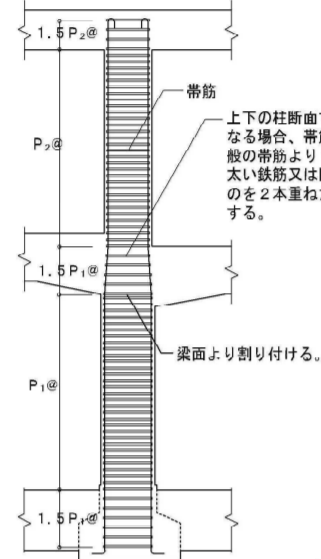


図 8. 2

B. 割付け (帯筋の最大間隔は特記による)



- (注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。
 2. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を $1.5P_1$ 又は $1.5P_2$ とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、 P_1 、 P_2 は特記された帯筋の間隔を示す。
 3. 柱・梁接合部の帯筋は、 $1.5P_1$ 以下かつ、 0.2 倍以上とする。

図 8. 3

9. 大梁

A. 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

(1) 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(2)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図9.1による。

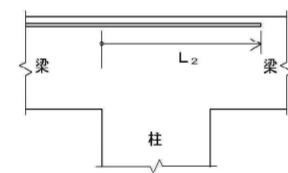


図 9. 1

(2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。

なお、定着の方法は、6.(c)による。

上端筋：曲げ降ろす。

下端筋：原則として曲げ上げる。

(3) 段違い梁は、図9.2による。

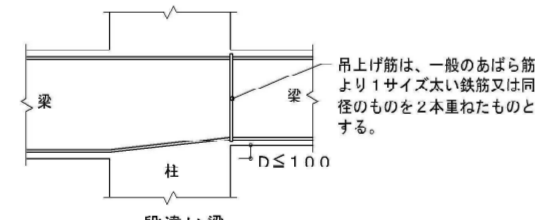
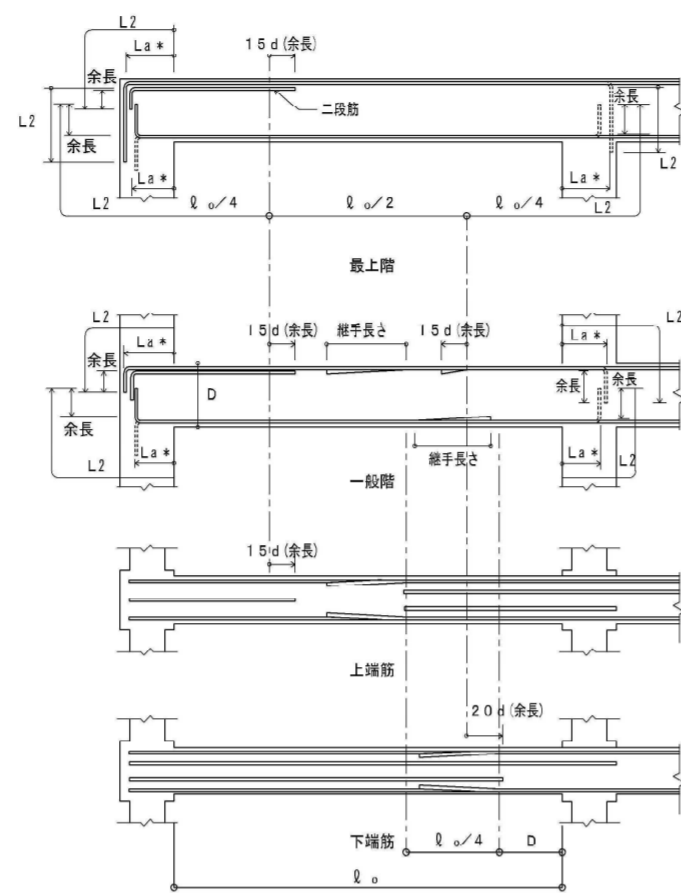


図 9. 2

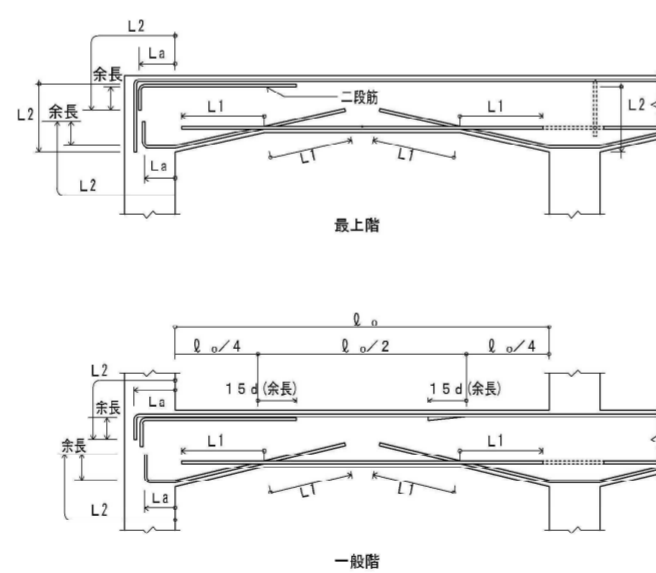
B. ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 継手中心位置は次による。
 上端筋：中央 $0/2$ 以内
 下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、 $0/4$ を加えた範囲以内
 2. 4.(2)で定めた鉄筋には、フックをつける。
 3. 印は、継手及び余長を示す。
 4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 * L a の数値は、原則として、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

図 9. 3

C. ハンチのある場合の定着及び余長



- (注) 1. 4.(2)で定めた鉄筋には、フックをつける。
 2. 印は、継手及び余長を示す。
 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、..... のように引き通すことができる。
 4. 破線は、柱内定着を示す。
 * L a の数値は、原則として、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

図 9. 4

10. 小梁及び片持梁

A. 小梁主筋の継手及び定着

(1) 連続小梁

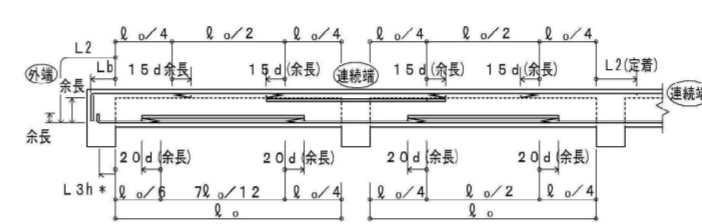
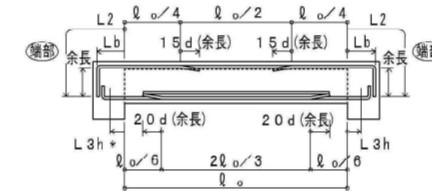


図 10. 1

(2) 単独小梁

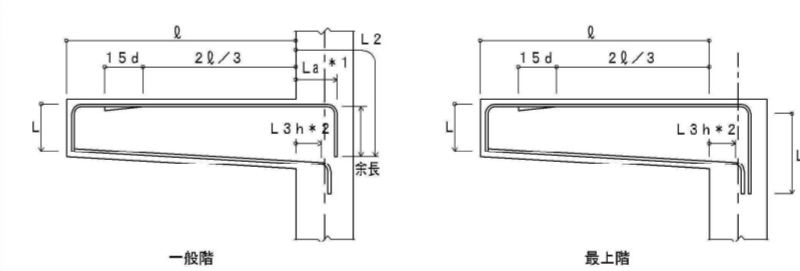


- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
 2. 図示のない事項は、9.及び12.による。
 3. 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
 4. L a を確保できない場合は、標示 6.(c)によることができる。

図 10. 2

B. 片持梁主筋の定着

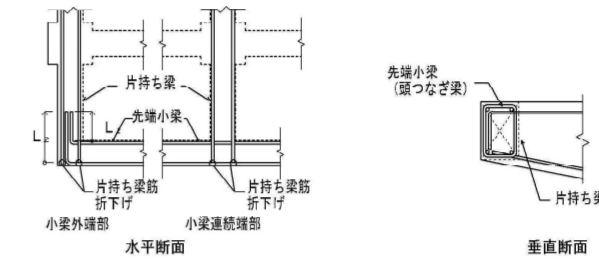
(1) 先端に小梁のない場合



- (注) 1. 図示のない事項は 9 による。
 2. 印は、余長位置を示す。
 3. 先端の折曲げ長さ L は、梁せいからかぶり厚を除いた長さとする。
 * 1. L a の数値は、原則として、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。
 * 2. L 3 h を確保できない場合は、標示 6.(c)によることができる。

図 10. 3

(2) 先端に小梁がある場合



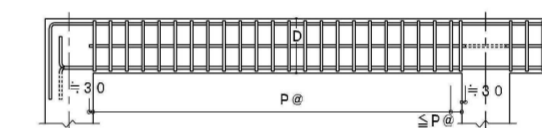
- (注) 1. 図示のない事項は、(1)による。
 2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図 10. 4

11. あばら筋

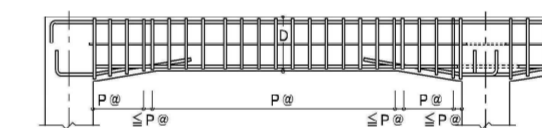
A. あばら筋の割付け

1. 間隔が一律で、ハンチのない場合



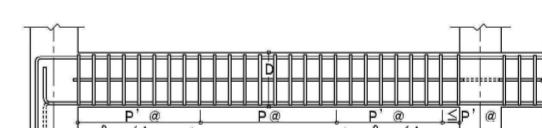
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中の P @ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

2. 間隔が一律で、ハンチのある場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中の P @ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

3. 梁の端部で間隔の異なる場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中の P @、P' @ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図 11. 1

特記	徳島県土木整備部 営繕課	工事名	徳島県立国府支援学校体育館棟新築工事のうち建築工事			株式会社 剛 建築事務所	連水 可次
		名称	鉄筋コンクリート構造配筋基準図 6-3			徳島市末広3丁目3-3	1級建築士登録
		図番	S-35	NO SCALE	年月	TEL 0886-22-0883	第 102935 号
						FAX 0886-22-0885	